

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 10

— 柏市翁原遺跡(西側旧石器時代) —

令和6年3月

千葉県教育委員会

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 10

かしわ し おきなほら いせき
— 柏市翁原遺跡（西側旧石器時代） —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第53集として、柏北部中央地区土地区画整理事業に伴って実施した柏市翁原遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、旧石器時代のナイフ形石器、尖頭器などの石器製作跡をはじめ、長期間にわたる様々な人々の営みの跡が検出されました。既に調査報告第46集として報告した柏市内山遺跡などの周辺遺跡の調査成果と合わせ、当地域における各時代の様相や変遷などを知る上での貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和6年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 稲村 弥

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部市街地整備課による柏北部中央地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記遺跡における西側旧石器時代の調査成果を収録したものである。
翁原遺跡 柏市十余二字翁原348-50ほか(遺跡コード217-036)
なお、第1章第1節でも記しているが、第1次からの各調査地点の表記は、第1次は(1)のように略号で記し、遺構番号の前に各調査地点の略号を付している。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、平成24年度まで公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成25年度からは千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理事業の期間・担当者等は、第1章第1節に記載したとおりである。
- 5 本書の執筆・編集は、主任上席文化財主事 田島 新が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県県土整備部市街地整備課、同柏区画整理事務所、柏市教育委員会ほか諸機関及び多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第1図 柏市都市計画課発行 1/2,500 都市計画地図「11・17」平成5年3月修正測量を編集
第2図 千葉県県土整備部発行 1/1,000を編集
第3図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「流山」平成22年8月発行を編集
第4図 地図史料編集会編 明治前期 関東平野地誌図集成 1/25,000「流山」を編集
- 9 図版1の航空写真は、国土地理院空中写真 CKT792-C9-49(昭和54年10月撮影)を使用した。
- 10 挿入・表に使用した記号の用例は、次のとおりである。
石材:黒曜石(OB)、メノウ(CC)、頁岩(SH)、黒色頁岩(BS)、粘板岩(SL)、蛇灰岩(OC)、水晶(CY)、ガラス質黒色安山岩(GA)、トロトロ石(TO)、流紋岩(RH)、チャート(CH)、ホルンフェルス(HO)、凝灰岩(TU)、安山岩(AN)、砂岩(SA)
礫石材:チャート(CHR)、ホルンフェルス(HOR)、流紋岩(RHR)、砂岩(SAR)
- 11 図版のみの掲載の遺物については、図版中の個々の番号に対応しており、たとえば図版10-5のように表記している。
- 12 巻末に添付したCD-ROMには石器属性表が収録されている。CD-ROMのフォーマットはWindows、Macに対応する。ファイル形式はXLSおよびPDFである。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査に至る経緯と経過	1
2	調査の方法と概要	1
第2節	遺跡の位置と環境	9
1	遺跡の位置と地形	9
2	周辺の遺跡	9
第2章	調査の成果	23
第1節	遺跡の概要	23
第2節	旧石器時代の遺構と遺物	23
1	第1文化層	27
2	第2文化層	27
3	第3文化層	106
4	第4文化層	125
5	第5文化層	144
6	第6文化層	172
7	時期不明	178
第3章	総括	192
報告書抄録		

挿図目次

第1図	柏北部中央地区遺跡位置図	7	第2文化層		
第2図	確認グリッド配置・本調査範囲	8	第11図	63Z-Aブロック出土遺物分布(1)	31
第3図	翁原遺跡と周辺の遺跡	10	第12図	63Z-Aブロック出土遺物分布(2)	32
第4図	翁原遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)	11	第13図	63Z-Aブロック出土遺物	32
第5図	基本層序	24	第14図	62CC-Aブロック出土遺物分布(1)	34
第6図	翁原遺跡(西側)遺物分布	25	第15図	62CC-Aブロック出土遺物分布(2)	35
第7図	翁原遺跡(西側)文化層別ブロック分布	25	第16図	62CC-Aブロック出土遺物(1)	36
第1文化層			第17図	62CC-Aブロック出土遺物(2)	37
第8図	65FF-Aブロック出土遺物分布(1)	28	第18図	62CC-Aブロック出土遺物(3)	38
第9図	65FF-Aブロック出土遺物分布(2)	29	第19図	63CC-Aブロック出土遺物分布(1)	39
第10図	65FF-Aブロック出土遺物	30	第20図	63CC-Aブロック出土遺物分布(2)	40
			第21図	63CC-Aブロック出土遺物	41

第22図	64CC-Aブロック出土遺物分布	42	第59図	65Y-Aブロック出土遺物(10)	80
第23図	64CC-Aブロック出土遺物	42	第60図	65Y-Aブロック出土遺物(11)	81
第24図	63V-Aブロック出土遺物分布(1)	43	第61図	65Y-Bブロック出土遺物分布(1)	83
第25図	63V-Aブロック出土遺物分布(2)	44	第62図	65Y-Bブロック出土遺物分布(2)	84
第26図	63V-Aブロック出土遺物	45	第63図	65Y-Bブロック出土遺物(1)	85
第27図	64W-Aブロック出土遺物分布	46	第64図	65Y-Bブロック出土遺物(2)	86
第28図	64W-Aブロック出土遺物	46	第65図	65Y-Bブロック出土遺物(3)	87
第29図	64CC-Bブロック出土遺物分布	47	第66図	65Y-Bブロック出土遺物(4)	88
第30図	64CC-Bブロック出土遺物(1)	48	第67図	65Y-Bブロック出土遺物(5)	89
第31図	64CC-Bブロック出土遺物(2)	49	第68図	65Y-Bブロック出土遺物(6)	90
第32図	64CC-Cブロック出土遺物分布	51	第69図	65Y-Bブロック出土遺物(7)	91
第33図	64CC-Cブロック出土遺物	52	第70図	66Y-Aブロック出土遺物分布(1)	93
第34図	65CC-Aブロック出土遺物分布(1)	54	第71図	66Y-Aブロック出土遺物分布(2)	94
第35図	65CC-Aブロック出土遺物分布(2)	55	第72図	66Y-Aブロック出土遺物(1)	95
第36図	65CC-Aブロック出土遺物(1)	56	第73図	66Y-Aブロック出土遺物(2)	96
第37図	65CC-Aブロック出土遺物(2)	57	第74図	66Y-Aブロック出土遺物(3)	97
第38図	65CC-Aブロック出土遺物(3)	58	第75図	66Y-Aブロック出土遺物(4)	98
第39図	65CC-Bブロック出土遺物分布(1)	59	第76図	66X-Aブロック出土遺物分布	100
第40図	65CC-Bブロック出土遺物分布(2)	60	第77図	66X-Aブロック出土遺物	101
第41図	65CC-Bブロック出土遺物(1)	61	第78図	67BB-Aブロック出土遺物分布	102
第42図	65CC-Bブロック出土遺物(2)	62	第79図	67BB-Aブロック出土遺物	102
第43図	65CC-Bブロック出土遺物(3)	63	第80図	67BB-Bブロック出土遺物分布	103
第44図	66CC-Aブロック出土遺物分布	64	第81図	67BB-Bブロック出土遺物	104
第45図	66CC-Aブロック出土遺物	65	第82図	66GG-Aブロック出土遺物分布	105
第46図	66CC-Bブロック出土遺物分布	66	第83図	66GG-Aブロック出土遺物	105
第47図	66CC-Bブロック出土遺物	67	第3 文化層		
第48図	65Y-Aブロック出土遺物分布(1)	69	第84図	67Z-Aブロック出土遺物分布	107
第49図	65Y-Aブロック出土遺物分布(2)	70	第85図	67Z-Aブロック出土遺物(1)	108
第50図	65Y-Aブロック出土遺物(1)	71	第86図	67Z-Aブロック出土遺物(2)	109
第51図	65Y-Aブロック出土遺物(2)	72	第87図	67Z-Bブロック出土遺物分布	110
第52図	65Y-Aブロック出土遺物(3)	73	第88図	67Z-Bブロック出土遺物	111
第53図	65Y-Aブロック出土遺物(4)	74	第89図	68AA-Aブロック出土遺物分布	112
第54図	65Y-Aブロック出土遺物(5)	75	第90図	68AA-Aブロック出土遺物	112
第55図	65Y-Aブロック出土遺物(6)	76	第91図	68AA-Bブロック出土遺物分布	113
第56図	65Y-Aブロック出土遺物(7)	77	第92図	68AA-Bブロック出土遺物(1)	114
第57図	65Y-Aブロック出土遺物(8)	78	第93図	68AA-Bブロック出土遺物(2)	115
第58図	65Y-Aブロック出土遺物(9)	79	第94図	67BB-Cブロック出土遺物分布	116

第95図	67BB-Cブロック出土遺物(1).....117
第96図	67BB-Cブロック出土遺物(2).....118
第97図	68BB-Aブロック出土遺物分布.....119
第98図	68BB-Aブロック出土遺物.....119
第99図	68BB-Bブロック出土遺物分布.....120
第100図	68BB-Bブロック出土遺物(1).....121
第101図	68BB-Bブロック出土遺物(2).....122
第102図	68BB-Cブロック出土遺物(1).....123
第103図	68BB-Cブロック出土遺物(2).....124
第104図	68BB-Cブロック出土遺物分布.....124

第4文化層

第105図	64X-Aブロック出土遺物.....125
第106図	64X-Aブロック出土遺物分布.....126
第107図	64X-Bブロック出土遺物.....127
第108図	65X-Aブロック出土遺物.....127
第109図	64X-Bブロック出土遺物分布.....128
第110図	65X-Aブロック出土遺物分布.....129
第111図	66Y-Bブロック出土遺物分布(1).....131
第112図	66Y-Bブロック出土遺物分布(2).....132
第113図	66Y-Bブロック出土遺物(1).....133
第114図	66Y-Bブロック出土遺物(2).....134
第115図	66Y-Bブロック出土遺物(3).....135
第116図	66Y-Bブロック出土遺物(4).....136
第117図	67DD-Aブロック出土遺物分布.....137
第118図	67DD-Aブロック出土遺物.....138
第119図	66CC-Cブロック出土遺物分布(1).....139
第120図	66CC-Cブロック出土遺物分布(2).....140
第121図	66CC-Cブロック出土遺物.....141
第122図	68Z-Aブロック出土遺物.....142
第123図	68Z-Aブロック出土遺物分布.....143

第5文化層

第124図	63Z-Bブロック出土遺物分布(1).....147
第125図	63Z-Bブロック出土遺物分布(2).....148
第126図	63Z-Bブロック出土遺物分布(3).....149
第127図	63Z-Bブロック出土遺物分布(4).....150
第128図	63Z-Bブロック出土遺物分布(5).....151
第129図	63Z-Bブロック出土遺物分布(6).....152

第130図	63Z-Bブロック出土遺物分布(7).....153
第131図	63Z-Bブロック出土遺物分布(8).....154
第132図	63Z-Bブロック出土遺物分布(9).....155
第133図	63Z-Bブロック出土遺物分布(10).....156
第134図	63Z-Bブロック出土遺物分布(11).....157
第135図	63Z-Bブロック出土遺物分布(12).....157
第136図	63Z-Bブロック出土遺物(1).....158
第137図	63Z-Bブロック出土遺物(2).....159
第138図	63Z-Bブロック出土遺物(3).....160
第139図	63Z-Bブロック出土遺物(4).....161
第140図	63Z-Bブロック出土遺物(5).....162
第141図	63Z-Bブロック出土遺物(6).....163
第142図	63Z-Bブロック出土遺物(7).....164
第143図	63Z-Bブロック出土遺物(8).....165
第144図	63Z-Bブロック出土遺物(9).....166
第145図	63Z-Bブロック出土遺物(10).....167
第146図	63Z-Bブロック出土遺物(11).....168
第147図	63Z-Bブロック出土遺物(12).....169
第148図	63Z-Bブロック出土遺物(13).....170
第149図	63Z-Bブロック出土遺物(14).....171

第6文化層

第150図	67Z-Cブロック出土遺物分布.....173
第151図	67Z-Cブロック出土遺物.....174
第152図	67BB-Dブロック出土遺物分布(1).....175
第153図	67BB-Dブロック出土遺物分布(2).....176
第154図	67BB-Dブロック出土遺物.....177

時期不明

第155図	67HH-Aブロック出土遺物分布.....179
第156図	67HH-Aブロック出土遺物分布(1).....180
第157図	67HH-Aブロック出土遺物分布(2).....181
第158図	67HH-Aブロック出土遺物分布(3).....182
第159図	67HH-Bブロック出土遺物分布.....183
第160図	67HH-Bブロック出土遺物.....184
第161図	63Y-Aブロック出土遺物分布.....185
第162図	63Y-Aブロック出土遺物.....186
第163図	64V-Bブロック出土遺物分布.....187
第164図	64V-Bブロック出土遺物.....188

第165図	64V-Aブロック出土遺物分布……………189	第167図	68EE-Aブロック出土遺物分布……………190
第166図	64V-Aブロック出土遺物……………190	第168図	単独出土遺物……………191

表目次

第1表	翁原遺跡(1)～(72)調査一覧……………2	第26表	68AA-Aブロック石器組成……………111
第2表	周辺の遺跡概要一覧……………18	第27表	68AA-Bブロック石器組成……………113
第1文化層		第28表	67BB-Cブロック石器組成……………115
第3表	65FF-Aブロック石器組成……………27	第29表	68BB-Aブロック石器組成……………118
第2文化層		第30表	68BB-Aブロック礫組成……………118
第4表	63Z-Aブロック石器組成……………31	第31表	68BB-Bブロック石器組成……………120
第5表	62CC-Aブロック石器組成……………33	第32表	68BB-Cブロック石器組成……………124
第6表	63CC-Aブロック石器組成……………37	第4文化層	
第7表	64CC-Aブロック石器組成……………38	第33表	64X-Aブロック石器組成……………125
第8表	63V-Aブロック石器組成……………41	第34表	64X-Bブロック石器組成……………127
第9表	64W-Aブロック石器組成……………44	第35表	65X-Aブロック石器組成……………127
第10表	64CC-Bブロック石器組成……………50	第36表	66Y-Bブロック石器組成……………134
第11表	64CC-Cブロック石器組成……………50	第37表	67DD-Aブロック石器組成……………138
第12表	65CC-Aブロック石器組成……………53	第38表	66CC-Cブロック石器組成……………139
第13表	65CC-Bブロック石器組成……………58	第39表	68Z-Aブロック石器組成……………142
第14表	66CC-Aブロック石器組成……………61	第5文化層	
第15表	66CC-Bブロック石器組成……………63	第40表	63Z-Bブロック石器組成……………146
第16表	65Y-Aブロック石器組成……………81	第41表	63Z-Bブロック礫組成……………147
第17表	65Y-Bブロック石器組成……………92	第6文化層	
第18表	66Y-Aブロック石器組成……………92	第42表	67Z-Cブロック石器組成……………172
第19表	66X-Aブロック石器組成……………99	第43表	67BB-Dブロック石器組成……………174
第20表	67BB-Aブロック石器組成……………100	時期不明	
第21表	67BB-Bブロック石器組成……………104	第44表	67HH-Aブロック石器組成……………178
第22表	67BB-Bブロック礫組成……………104	第45表	67HH-Bブロック石器組成……………181
第23表	66GG-Aブロック石器組成……………105	第46表	63Y-Aブロック石器組成……………184
第3文化層		第47表	64V-Bブロック石器組成……………186
第24表	67Z-Aブロック石器組成……………106	第48表	64V-Aブロック石器組成……………189
第25表	67Z-Bブロック石器組成……………110	第49表	68EE-Aブロック礫組成……………190

図版目次

図版1	翁原遺跡周辺航空写真	図版27	第2文化層出土遺物(20)
図版2	土層断面、第1文化層遺物出土状況、 第2文化層遺物出土状況(1)	図版28	第2文化層出土遺物(21)
図版3	第2文化層遺物出土状況(2)	図版29	第2文化層出土遺物(22)
図版4	第2文化層遺物出土状況(3)、 第3文化層遺物出土状況(1)	図版30	第2文化層出土遺物(23)
図版5	第3文化層遺物出土状況(2)、 第4文化層遺物出土状況(1)	図版31	第3文化層出土遺物(1)
図版6	第4文化層遺物出土状況(2)、 第5文化層遺物出土状況(1)	図版32	第3文化層出土遺物(2)
図版7	第6文化層遺物出土状況、時期不明	図版33	第3文化層出土遺物(3)
図版8	第1文化層出土遺物、 第2文化層出土遺物(1)	図版34	第3文化層出土遺物(4)
図版9	第2文化層出土遺物(2)	図版35	第3文化層出土遺物(5)
図版10	第2文化層出土遺物(3)	図版36	第3文化層出土遺物(6)
図版11	第2文化層出土遺物(4)	図版37	第3文化層出土遺物(7)
図版12	第2文化層出土遺物(5)	図版38	第4文化層出土遺物(1)
図版13	第2文化層出土遺物(6)	図版39	第4文化層出土遺物(2)
図版14	第2文化層出土遺物(7)	図版40	第4文化層出土遺物(3)
図版15	第2文化層出土遺物(8)	図版41	第4文化層出土遺物(4)
図版16	第2文化層出土遺物(9)	図版42	第4文化層出土遺物(5)、 第5文化層出土遺物(1)
図版17	第2文化層出土遺物(10)	図版43	第5文化層出土遺物(2)
図版18	第2文化層出土遺物(11)	図版44	第5文化層出土遺物(3)
図版19	第2文化層出土遺物(12)	図版45	第5文化層出土遺物(4)
図版20	第2文化層出土遺物(13)	図版46	第5文化層出土遺物(5)
図版21	第2文化層出土遺物(14)	図版47	第5文化層出土遺物(6)
図版22	第2文化層出土遺物(15)	図版48	第5文化層出土遺物(7)
図版23	第2文化層出土遺物(16)	図版49	第5文化層出土遺物(8)
図版24	第2文化層出土遺物(17)	図版50	第5文化層出土遺物(9)
図版25	第2文化層出土遺物(18)	図版51	第6文化層出土遺物 時期不明出土遺物(1)
図版26	第2文化層出土遺物(19)	図版52	時期不明出土遺物(2)
		図版53	時期不明出土遺物(3)
		図版54	時期不明出土遺物(4)、単独ブロック

【CD】

旧石器属性表

第1章 はじめに

第1節 調査の概要(第1～3図、第1表)

1 調査に至る経緯と経過

千葉県企業庁は、つくばエクスプレス(旧・常磐新線)の建設に関連して柏北部中央地区一体型土地区画整理事業を計画した。この計画の実施に先立って、平成7年5月に当事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会に提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成9年3月に事業地内には埋蔵文化財の包蔵地12か所(面積483,480㎡)が存在する旨の回答を行った。この回答に基づき、埋蔵文化財の取扱いについて千葉県企業庁、千葉県教育委員会、柏市教育委員会の関係諸機関による協議を行った結果、可能な限り緑地として現状保存を図る一方、事業の性格上、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査は千葉県企業庁(平成18年度からは千葉県県土整備部)の委託を受け財団法人千葉県文化財センター(現・公益財団法人千葉県教育振興財団)が実施することとなった。なお、平成25年度からは県事業に係る発掘調査について県教育委員会が実施することとなった。

翁原遺跡(第1図、図版1)については、平成14年度から発掘調査を実施し、令和4年度末で第72次調査地点、223,524.8㎡が終了している。今回報告する内容は、西側で、(5)・(6)、(9)、(17)～(19)、(21)～(23)、(27)・(28)、(34)・(35)、(37)、(39)～(42)、(44)、(47)・(48)、(62)、(64)、(68)を対象としている。基礎整理である水洗注記作業は発掘調査と並行して実施し、平成28年度から本格的な整理作業を実施することとなり、令和5年度に発掘調査報告書を刊行する運びとなった。

各年度の調査範囲は第2図、調査組織及び担当者・期間・内容は第1表のとおりである。

2 調査の方法と概要

発掘調査にあたっては、公共座標系(平面直角座標系Ⅹ系)に基づくグリッド設定を行った。柏北部中央地区事業地全体を網羅するように40m×40mの大グリッドを設定し、名称は北から南へ1、2、3…、西から東へA、B、C…とし、Z以降はAA、BB、CC…と表記することとした。大グリッドは更に4m×4mの小グリッドに100分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。これらを組み合わせて、翁原遺跡では66Y-33や63AA-50のように表記した。大グリッド起点の01A-00は、旧日本測地系座標(Tokyo Datum 9系 EPSG:30169)でX=-10,500m、Y=10,000m、世界測地系(JGD2011 EPSG:6677)でX=-10,145.2955m、Y=9706.8197mである。世界測地系への座標変換はWeb版 TKY 2 JGD ver.1.3.80を使用した。なお既に刊行されている柏北部中央地区事業の報告書は、座標を全て旧日本測地系座標で表記しているため、本報告書についても全て旧日本測地系座標で表記する。

上層の確認調査は重機を使用し、調査対象面積の10%を目安に、調査区の形状や地形に合わせて2m幅の確認トレンチを設定した。ただし、調査対象面積が1,000㎡以下の場合は、100%確認調査を実施した。確認調査の結果、遺構が複数検出され、遺構の広がりや想定される地点について本調査範囲を決定し本調査を実施した。ただし、遺構が単独で検出された場合や遺構の分布が散漫な場合は、その周辺を拡張し確認調査で終了した。本調査は重機で表土を除去し、包含層・遺構検出、精査、記録作成、写真撮影、遺物

第1表 翁原遺跡(1)～(72)調査一覧

〔発掘調査〕

次数	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積		
							上層／割合	下層／割合	上層／下層	下層／上層	
(1)	平成14	船越部中央地区 埋蔵文化財	2003.2.17 ～ 2003.2.29	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査部長 森本 勝 所長 田坂 浩	上席研究員 久高勝郎	590.84	60 / 10.2%	12 / 2.0%	0	0
		調査委託(その4) 公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2003.3.22								
(2)	平成18	沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2006.3.1 ～ 2006.3.22	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査部長 久江三男 所長 田坂 浩	上席研究員 土屋一郎	3,730	242 / 6.5%	125 / 3.4%	0	133
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2007.4.6 ～ 2007.4.12								
(3)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2007.8.30 ～ 2007.11.16	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査部長 久江三男 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道 上席研究員 川島利道 川島利道	8,054	920 / 11.4%	384 / 4.8%	0	1,275
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2007.8.30 ～ 2007.10.4								
(5)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2008.1.7 ～ 2008.3.28	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査部長 久江三男 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 兼所長 池田大助 上席研究員 川島利道 上席研究員 豊田龍司	19,743	1,903 / 9.6%	680 / 3.4%	0	2,197
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その1)	2008.5.20 ～ 2008.7.4								
(6)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.5.28 ～ 2008.6.30	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	5,394	412 / 7.6%	228 / 4.2%	0	809
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.6.2 ～ 2008.7.30								
(7)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.7.7 ～ 2008.7.11	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	1,946	181 / 9.3%	40 / 2.1%	0	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.7.14 ～ 2008.7.20								
(8)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.7.30 ～ 2008.8.1	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	2,305	248 / 11.8%	164 / 7.8%	0	133
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.8.1 ～ 2008.8.22								
(9)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.8.22 ～ 2008.9.1	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 石倉治治	1,575	1,575 / 100.0%	32 / 2.0%	160	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.9.1 ～ 2008.9.17								
(10)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.9.17 ～ 2008.9.18	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	2,974	261 / 8.9%	88 / 3.0%	0	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.9.18 ～ 2008.10.30								
(11)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.10.30 ～ 2008.11.4	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	1,870	863 / 46.1%	118 / 6.3%	0	154
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.11.4 ～ 2008.12.9								
(12)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.9 ～ 2008.12.10	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	1,011	125 / 12.4%	68 / 6.7%	0	390
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.10 ～ 2008.12.23								
(13)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.23 ～ 2008.12.24	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 川島利道	2,471	230 / 9.3%	32 / 1.3%	0	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.24 ～ 2009.1.7								
(14)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.1.7 ～ 2009.1.8	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 石倉治治	1,318	838 / 63.6%	28 / 2.1%	0	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.1.8 ～ 2009.2.6								
(15)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.2.6 ～ 2009.2.7	財団法人千重泉 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 石倉治治	3,336	340 / 10.2%	136 / 4.1%	0	0
		公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.2.7 ～ 2009.2.8								

回数	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	対象 年齢	被調査者数		調査率		未調査者数	
							上層／割合	下層／割合	上層／割合	下層／割合	上層／下層	下層／上層
(19)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2009.2.9 ～ 2009.3.27	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	3,195	324 / 10.1%	128 / 4.0%	548	324	
(20)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その3)	2009.3.2 ～ 2009.3.23	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 田井知二	2,379	216 / 9.1%	72 / 3.0%	0	0	
(19)・2	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.4.6 ～ 2009.4.15	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 石倉亮治	-	-	-	-	467	
(21)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.4.6 ～ 2009.6.29	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 神松信隆	5,677	548 / 10.0%	228 / 4.2%	0	1,561	
(22)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.4.16 ～ 2009.5.22	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 石倉亮治	2,983	312 / 10.5%	108 / 3.6%	0	0	
(22)・2	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.7.1 ～ 2009.8.28	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	-	-	-	-	1,376	
(23)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.8.3 ～ 2009.8.6	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 猪俣昌二	468	46 / 9.8%	20 / 4.3%	0	0	
(24)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.8.17 ～ 2009.8.28	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 猪俣昌二	3,000	304 / 10.1%	102 / 3.4%	0	0	
(25)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.9.1 ～ 2009.9.29	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	2,900	302 / 10.4%	140 / 4.8%	0	0	
(26)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.9.1 ～ 2009.9.29	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 猪俣昌二	2,986	300 / 10.0%	206 / 6.9%	0	0	
(27)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2009.10.1 ～ 2009.11.4	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	3,306	426 / 10.8%	160 / 4.1%	0	209	
(28)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2010.4.6 ～ 2010.4.30	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	2,091	209 / 10.0%	44 / 2.1%	0	0	
(29)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2010.5.6 ～ 2010.6.9	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	1,324	132 / 10.0%	89 / 6.7%	0	443	
(30)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2010.6.10 ～ 2010.6.30	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	1,580	70 / 4.4%	0 / 0.0%	0	0	
(31)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2010.8.25 ～ 2010.9.10	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	330	330 / 100.0%	30 / 9.1%	0	0	
(32)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査)	2011.2.1 ～ 2011.2.28	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	3,290	329 / 10.0%	24 / 0.7%	0	0	
(33)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2011.3.3 ～ 2011.3.28	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	4,176	432 / 10.3%	160 / 3.8%	0	754	
(34)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2011.4.7 ～ 2011.5.12	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	1,099	106 / 9.6%	100 / 9.1%	0	566	
(35)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2011.7.26 ～ 2011.8.11	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 田井知二	440	440 / 100.0%	49 / 11.1%	0	0	
(36)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2011.11.21 ～ 2011.12.22	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 猪俣昌二	285	28 / 9.8%	8 / 2.8%	0	0	
(37)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (相模文化財調査その2)	2012.2.1 ～ 2012.3.3	財団法人千歳県 教育振興財団 西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 石倉亮治	主席研究員 猪俣昌二	2,729	264 / 9.7%	80 / 2.9%	0	225	

回数	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積	
							上層／割合	下層／割合	上層	下層
(38)	平成23	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査その2)	2012.3.5 ～ 2012.3.12	財団法人千重泉 教育振興財団 西部調査事務局	調査研究部長 長川淳一 主席研究員 兼所長 榎本勝雄	1,646	174 / 10.6%	40 / 2.4%	0	0
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査その2)	2012.3.13 ～ 2012.3.25	財団法人千重泉 教育振興財団 事務局	調査研究部長 長川淳一 主席研究員 兼所長 榎本勝雄					
(39)	平成23	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査その2)	2012.10.11 ～ 2012.10.11	財団法人千重泉 教育振興財団 事務局	調査研究部長 関口達彦 議長 榎本勝雄	2,232	260 / 11.6%	56 / 2.5%	0	0
(40)	平成24	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査その2)	2012.11.20 ～ 2013.3.24	財団法人千重泉 教育振興財団 事務局	調査研究部長 関口達彦 議長 榎本勝雄	370	370 / 100.0%	23 / 4.0%	0	80
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2013.3.25 ～ 2013.3.30	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之					
(41)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2013.10.1 ～ 2013.11.29	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之	6,240	552 / 8.8%	164 / 2.6%	0	0
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2013.12.2 ～ 2014.1.25	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之					
(42)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.2.3 ～ 2014.2.7	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之	8,702	802 / 9.2%	268 / 3.1%	0	0
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.2.8 ～ 2014.2.28	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之					
(43)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.2.29 ～ 2014.3.25	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之	10,658	1,082 / 10.2%	426 / 4.0%	0	300
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.3.26 ～ 2014.4.28	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之					
(44)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.4.29 ～ 2014.7.14	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之	261	142 / 53.8%	8 / 3.0%	0	0
		公共つくばエクスプレス沿線整備委託 (押蔵文化財調査)	2014.7.15 ～ 2014.9.29	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 藤巻京子 議長 榎本幸之					
(45)	平成26	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2014.10.1 ～ 2014.10.13	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之	-	-	-	-	700
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2014.10.14 ～ 2014.10.17	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之					
(46)	平成26	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2014.10.18 ～ 2014.10.20	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之	-	-	-	-	130
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2014.10.21 ～ 2014.10.22	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之					
(47)	平成27	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2015.1.1 ～ 2015.1.2	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之	1,750	180 / 10.3%	40 / 2.3%	100	0
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2015.1.3 ～ 2015.1.8	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之					
(48)	平成27	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2015.1.9 ～ 2015.1.10	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之	310	310 / 100.0%	18 / 5.8%	0	81
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2015.1.11 ～ 2015.1.17	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 榎本幸之					
(49)	平成29	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2017.10.2 ～ 2017.11.29	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久	3,500	350 / 10.0%	152 / 4.3%	0	268
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.2.20 ～ 2018.2.22	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久					
(50)	平成29	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.2.23 ～ 2018.3.9	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久	705	705 / 100.0%	64 / 9.1%	108	445
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.3.10 ～ 2018.3.17	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久					
(51)	平成30	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.10.17 ～ 2018.11.13	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 田井加二	3,528	353 / 10.0%	208 / 5.9%	0	960
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.11.14 ～ 2018.11.13	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 永沼律朗 議長 田井加二					
(52)	平成30	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.5.30 ～ 2018.5.30	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 古泉弘志 議長 山田貴久	1,800	180 / 10.0%	92 / 5.1%	0	0
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2017.6.1 ～ 2017.6.30	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久					
(53)	平成30	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2017.6.31 ～ 2017.6.30	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久	1,200	158 / 13.2%	48 / 4.0%	41	36
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2017.7.1 ～ 2017.7.1	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 森原悠一 議長 山田貴久					
(54)	平成30	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.6.1 ～ 2018.7.13	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 古泉弘志 議長 山田貴久	3,139	314 / 10.0%	144 / 4.6%	0	64
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.7.14 ～ 2018.8.9	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 古泉弘志 議長 山田貴久					
(55)	平成30	柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.8.10 ～ 2018.9.18	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 古泉弘志 議長 山田貴久	2,948	300 / 10.2%	150 / 5.1%	0	0
		柏本部中央地区土地両側整理事業 (押蔵文化財調査)	2018.9.19 ～ 2018.10.17	千重泉教育行 教育振興部 文化財課	議長 古泉弘志 議長 山田貴久					

次数	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積	
							上層／割合	下層／割合	上層／下層	上層／下層
(56)	平成30	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2018.10.18 ～ 2018.11.29	千葉県教育庁 教育振興部 発掘調査班	課長 吉原弘志 班長 山田貴久	文化財主事 川田敏平	1,007	106／9.9%	156／14.6%	0 267
		柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2019.1.7 ～ 2019.1.18	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 吉原弘志 班長 山田貴久	文化財主事 坂中健志	894	90／10.1%	12／1.3%	0 0
(58)	平成30	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2019.1.21 ～ 2019.2.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 吉原弘志 班長 山田貴久	文化財主事 坂中健志	2,300	230／10.0%	92／4.0%	0 0
		(59)	平成31	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2019.5.7 ～ 2019.7.2	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 班長 大内千年	主任上席 文化財主事 安井健一 上席文化財主事 田井雄二 文化財主事 渡邊 玲	1,874	200／0
(60)	令和元			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2019.7.3 ～ 2019.9.30	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 班長 大内千年	上席文化財主事 田井雄二	4,601	460／10.0%
		(61)	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2020.1.7 ～ 2020.1.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 班長 大内千年	文化財主事 平堀弘崇	1,976	200／10.1%
(62)	令和元			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2019.12.22 ～ 2019.12.25	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 班長 大内千年	主任上席 文化財主事 野屋孝之	4,245	468／11.0%
		(62)-2	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2020.2.3 ～ 2020.2.29	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 班長 大内千年	文化財主事 平堀弘崇	-	-
(63)	令和2			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2020.6.16 ～ 2020.6.26	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 大内千年	上席文化財主事 田井雄二	1,707	112／6.6%
		(64)	令和2	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2020.12.1 ～ 2020.12.23	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 大内千年	文化財主事 小澤祐彦	905	104／11.5%
(65)	令和2			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2021.1.15 ～ 2021.2.16	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 大内千年	文化財主事 菅澤由希	2,145	174／8.1%
		(66)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2021.5.10 ～ 2021.7.9	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 吉野健一	主任上席 文化財主事 藤合孝雄 文化財主事 村松祐南	1,790	364／20.3%
(67)	令和3			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2021.7.12 ～ 2021.10.28	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 吉野健一	主任上席 文化財主事 藤合孝雄	7,446	2,023／27.2%
		(68)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2021.1.11 ～ 2021.1.24	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 吉野健一	主任上席 文化財主事 藤合孝雄 文化財主事 久我淳汰	1,676	162／9.7%
(69)	令和3			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2022.1.6 ～ 2022.1.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 久我淳汰	177	-
		(70)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2022.1.17 ～ 2022.2.20	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 久我淳汰	1,935	104／10.0%
(71)	令和4			柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2022.5.16 ～ 2022.7.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 金井 晋一 班長 黒沢 崇	文化財主事 久我淳汰 田部聖理	5,211	548／10.5%
		(72)	令和4	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (相蔵文化財調査)	2022.10.3 ～ 2022.11.18	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 金井 晋一 班長 黒沢 崇	文化財主事 久我淳汰	1,886	186／9.9%
合 計						223,524.8	29,180	8,802	2,694 17,172	

【整理作業】

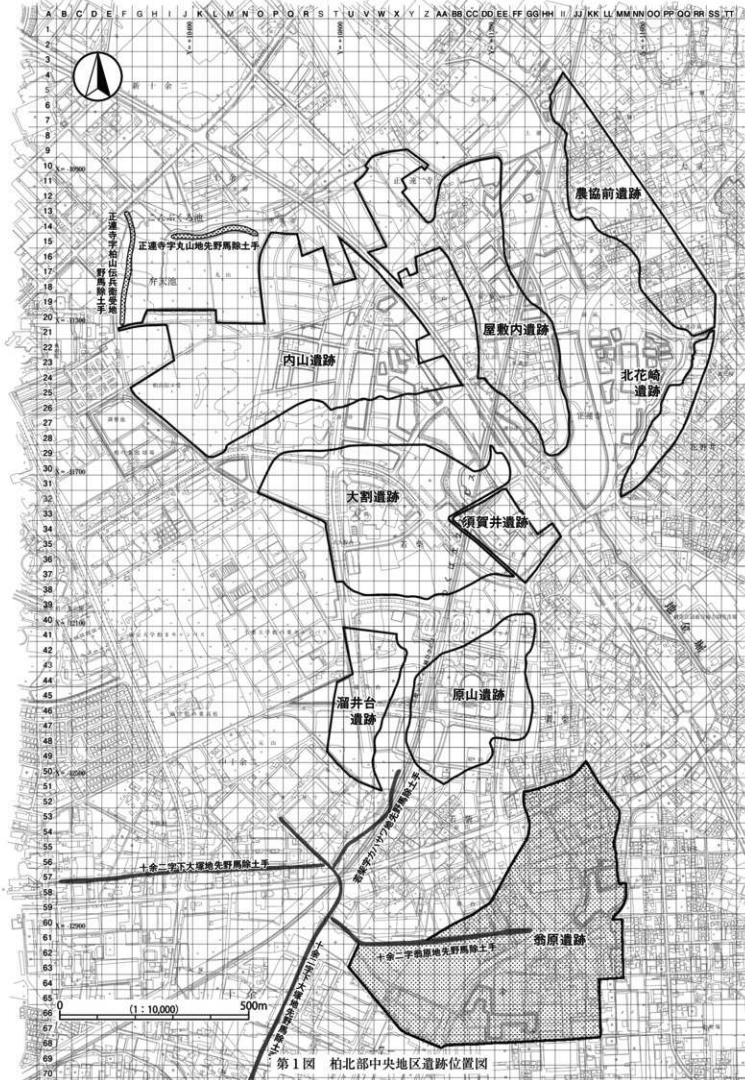
調査地点	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	内容
(1)～(40)	平成14～24	柏北部中央地区埋蔵文化財調査委託はか	—	財団法人千葉県文化財センター はか	—	水没・注記
(1)～(72)	平成28	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2016.4.1 ～ 2017.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	調査部長 森本 修 所長 田坂 浩 課長 永田律朗 副課長 田井和久	主任上席文化財主事 田島 新 水没・注記の一部
	平成29	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2017.4.1 ～ 2018.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 萩原恭一 副課長 山田貴久	上席文化財主事 黒沢 崇 文化財主事 小澤政彦 水没・注記の一部
	令和元	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 大森けい子 副課長 大内千幸	主任上席文化財主事 森合幸雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲 (1)～(33)記録整理の一部～ 分館統合の一部まで
	令和2	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 副課長 大内千幸	主任上席文化財主事 森合幸雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲 文化財主事 廣田真名望 (1)～(33)記録整理の一部～ 実測の一部まで
	令和3	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 田中文昭 副課長 吉野豊一	文化財主事 小澤政彦 文化財主事 渡邊 玲 文化財主事 鈴木彩恵 文化財主事 廣田真名望 文化財主事 倉橋知夫 文化財主事 久我浩平太 (西側)実測の一部～排図作成の一部まで (東側)実測の一部～排図作成の一部まで
	令和4	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 金井一郎 副課長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 榎屋孝之 主任上席文化財主事 田島 新 (西側)排図作成の一部～排図作成の一部まで (東側)実測の一部 (66)～(70)水没・注記
	令和5	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	課長 稲村 修 副課長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 田島 新 (西側)排図作成の一部～報告書発行まで (東側)実測の一部～トレスの一部まで (71)・(72)水没・注記

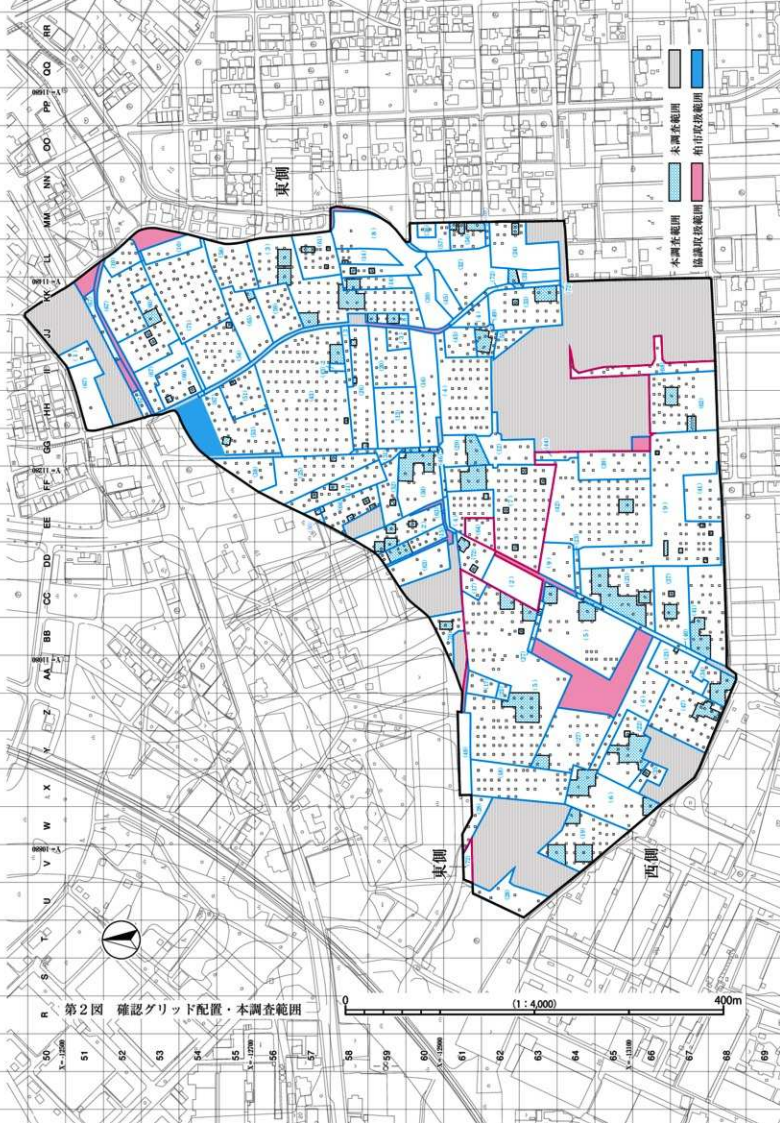
取上げなどの作業を行った。

下層の確認調査は、調査対象面積の2%を目安に2m×2mの確認グリッドを設定した。石器が出土した場合は、出土地点の周辺に確認グリッドを追加し、または確認グリッドを拡張し石器の広がりを捉えて本調査範囲を決定した。ただし、上層確認調査と同様に石器の分布の広がりが認められなかった場合は、確認調査で終了した。本調査は重機で表土から石器が出土した層位に影響を及ぼさない深さまでローム層を除去し、石器集中地点の精査、記録作成、写真撮影、遺物取上げなどの作業を行った。なお、第69次調査では、ローム層まで削平されており、上層確認調査を実施することはできなかった。

発掘調査の記録作成は平板測量で行ったが、平成24年度に実施した第40次調査に際しては、遺構実測支援システム「遺構くん」を使用して行った。写真撮影はフィルムカメラ(35mmモノクロ、120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)を使用した。平成24年度の第40次調査地点の調査からフィルムカメラ(120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)及びデジタルカメラ(RAW+JPEG)により実施した。下層調査に当たって、旧石器時代の遺物や帰属遺構が不明確なものについては、小グリッド単位で取り上げた。

報告書作成に当たって、旧石器時代の遺物については、63Z-67、63のように小グリッド番号の後ろに取り上げ番号を付けて表記した。小グリッド単位で取り上げられていない遺物についても、整理作業段階で出土位置のXY座標に基づいて遺物番号を振り直した。





第2節 遺跡の位置と環境(第3・4図、第2表、図版1)

1 遺跡の位置と地形

柏市は千葉県北西部に位置し、北西は野田市、北東は利根川を挟んで茨城県、東は我孫子市と印西市、南に鎌ヶ谷市と白井市、西に松戸市と流山市に接し、面積約115km²、人口約42万人の県内2番目の中核市である。鉄道はJR常磐線及びつくばエクスプレス、東武アーバンパークラインが通り、公共交通による通勤・通学のアクセスが良好で、特に、つくばエクスプレスが開業した平成17年度以降は駅周辺に高層住宅や大規模商業施設などが建設され、良質な居住地域として注目を集め、人口の増加が顕著である。道路は常磐自動車道をはじめ国道6号や国道16号などの幹線道路が交差する交通の要衝であり、これらの幹線道路沿いにはいくつもの工業団地が立地し製造・物流の拠点となっている。

柏市周辺の地形は、下総台地の北西端にあたる利根川と江戸川に挟まれた、標高18m～29mの台地であり、利根川・手賀沼水系の大堀川・大津川と江戸川水系の坂川及び東京湾に注ぐ国分川・大柏川の分水界となっている。市内にはいずれも手賀沼水系で、北から地金堀、大堀川、大津川、「染井入り落とし」と呼ばれる河谷、「金山入り落とし」と呼ばれる河谷が流れ、更にそれらの支流などにより樹枝状に開析されている。柏北部中央地区が所在する柏市十倉二、正連寺は、市北部の大堀川と地金堀に三方を囲まれた、標高が18m前後と比較的低く平坦な台地である。

翁原遺跡は事業地区の南寄りに位置し、南北側と東側は「こんぶくろ池」や「弁天池」を水源とする地金堀及び大堀川の支流により開析され、標高は高い所で22mほどで低地と5m前後の標高差がある。

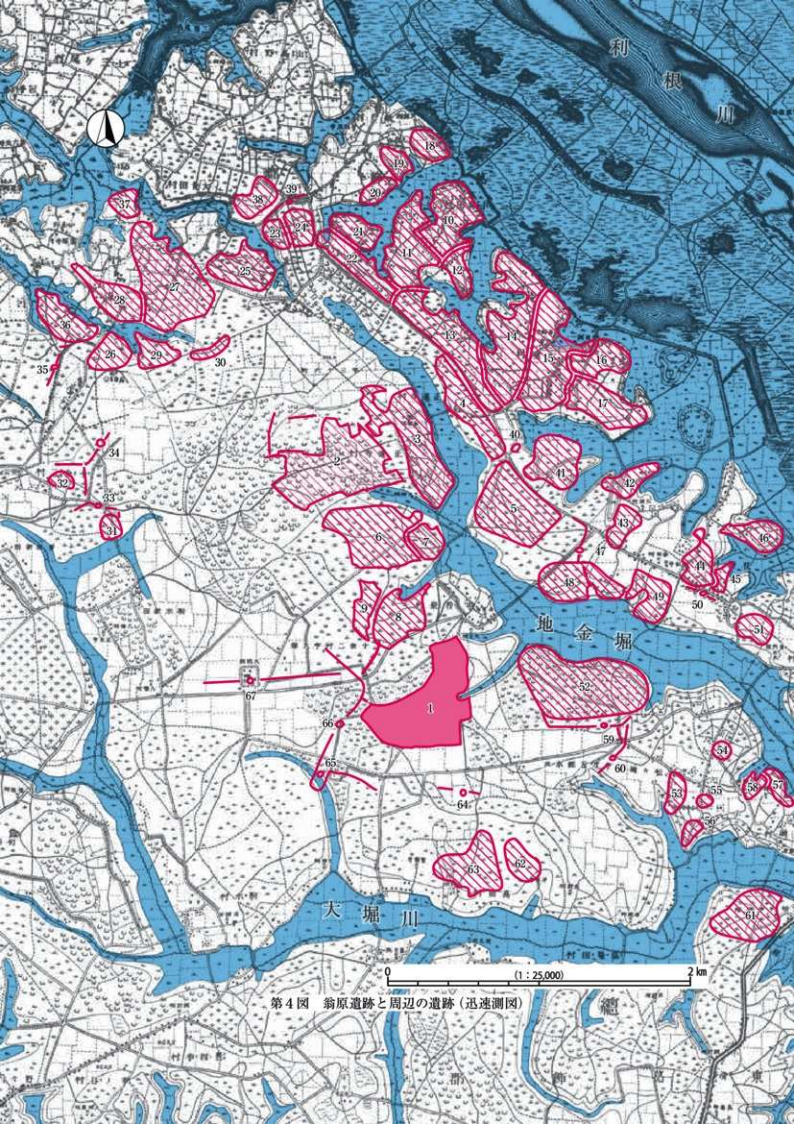
2 周辺の遺跡

本遺跡<1>の周辺では、常磐自動車道路建設事業をはじめとして、現在進行中のつくばエクスプレス関連事業などに伴う大規模な発掘調査が行われ、その調査成果についても既に数多くの報告書が刊行されている。本遺跡を中心とした周辺遺跡の状況については、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書に詳細が記載されているので、ここでは時代ごとに特徴的な遺跡について記述することにし、周辺の遺跡の概要については第2表の一覧に記載した。なお、第3・4図の低湿地範囲は、明治前期の低湿地データ(国土地理院技術資料D1-No.633)を用いて明治前期の迅速測地形図(守谷・流山)をGISで幾何補正した後に、改めて低湿地範囲をトレースし作成した。遺跡範囲は、ふさの国文化財ナビゲーション(千葉県教育委員会2015)を基に、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書並びに柏市教育委員会による柏市内遺跡発掘調査報告書などを参考に、迅速測地形図の地形に合わせて位置や形状を調整して作成した。

第3・4図の範囲は、概ね利根川・手賀沼水系の大堀川北岸および地金堀兩岸の台地にあたる。周辺の遺跡の分布は、本遺跡が立地する手賀沼水系の地金堀西岸の台地、地金堀を北上した大青田谷津周辺の台地、東に向かって利根川に面する地金堀東岸の台地に分かれる。また図の範囲外であるが大堀川を越えた南西の江戸川水系・坂川流域の台地にも遺跡が分布する。これらの遺跡の分布域は、それぞれ柏北部中央地区、常磐自動車道路、柏北部東地区、流山新市街地地区及び流山運動公園周辺地区に相当する。これらの台地全域を覆うような大規模な開発事業に伴う発掘調査により、本地域の台地上の面的な遺跡の分布が明らかになっている。



第3図 翁原遺跡と周辺の遺跡



第4図 翁原遺跡と周辺の遺跡 (迅速測図)

旧石器時代 学史上著名な中山新田Ⅰ遺跡をはじめ、多くの石器群が検出されている。

立川ローム最下層であるⅩ層の石器群については、下総台地北西地域では類例が乏しい。地金堀東岸の富士見遺跡<11>第1文化層は、出土層位はⅨc層下部であるが古相を示す石器群としてあげられる。基部にわずかな加工を施したナイフ形石器と局部磨製石斧に特徴づけられ、単独搬入された多様な珪質石材を用いる。

暗色帯最下部のⅩ層上部～Ⅸ層下部の石器群については、台形様石器と局部磨製石斧、周縁型による石刃生産とナイフ形石器、環状ブロックを特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では、内山遺跡に連続する大割遺跡<6>第1文化層、原山遺跡<8>第Ⅰ・Ⅱa文化層、また本遺跡でもⅨc層からまとまった資料が検出されている。大青田谷津周辺の中山新田Ⅰ遺跡<26>・聖人塚遺跡<29>などは指標的な石器群である。地金堀東岸では富士見遺跡<11>第2文化層・原畑遺跡<13>第1文化層などがあげられる。石刃素材として高原山基盤岩などを多用する一方、信州産黒曜石などの遠隔地石材を利用するなど多様な石材が用いられる。

第二暗色帯中部のⅨ層上部～Ⅷ層の石器群については、台形様石器、小型の石刃生産とブランディング加工のナイフ形石器などを特徴とする石器群が確認されている。また、本遺跡では、Ⅸ層から信州産黒曜石を用いた石刃生産を示す良好な接合資料が出土している。地金堀西岸では原山遺跡第Ⅱb文化層、地金堀東岸では大松遺跡<12>第1文化層・小山台遺跡第2文化層<14>・矢船Ⅱ遺跡<22>第1文化層などがあげられる。高原山産や黒曜石や伊豆柏峠産などの黒曜石が用いられ、遺跡内で消費される。

第二暗色帯最上部のⅧ層～Ⅵ層の石器群については、ブランディング加工のナイフ形石器と「下総型石刃再生技法」と特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では屋敷内遺跡<3>Ⅷ層文化層、原山遺跡第Ⅲ文化層、大青田谷津周辺では聖人塚遺跡<29>第3文化層、地金堀東岸では駒形遺跡<10>第1文化層・富士見遺跡第3文化層・原畑遺跡第2文化層・小山台遺跡第3文化層・矢船Ⅰ遺跡<21>第1文化層・矢船Ⅱ遺跡第2文化層・館林Ⅱ遺跡<24>第3文化層などがあげられる。聖人塚遺跡第3文化層、富士見遺跡第3文化層などの頁岩類の中～大型の石刃を用いる一群は古相を示し、館林(Ⅱ)遺跡第3文化層や小山台遺跡第3文化層などの黒曜石製の小型ナイフ形石器や搔器を伴う一群は後出的な様相を示す。

AT上位のハードローム層下部のⅤ層～Ⅳ層下部の石器群については、角錐状石器や甲高な切出形ナイフ形石器を特徴とする石器群が確認されている。礫・礫群を伴う石器群が増加する。地金堀西岸では屋敷内遺跡Ⅳ～Ⅴ層文化層・原山遺跡第Ⅳ文化層・溜井台遺跡<9>第3文化層、大青田谷津周辺では元割遺跡<30>No.2地点・聖人塚遺跡第2文化層、地金堀東岸では駒形遺跡第2文化層・富士見遺跡第4文化層・原畑遺跡第3文化層・小山台遺跡第4文化層・矢船Ⅱ遺跡第3文化層などがあげられる。高原山産黒曜石・黒色安山岩・頁岩などを多用する。

AT上位のハードローム層上部以上の石器群については、ソフト化が進んでソフトロームに取り込まれるⅣ層からⅢ層にかけて、「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群、有樋尖頭器石器群、細石刃石器群が確認されている。「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群は、全周加工の尖頭器や斜軸の柳葉形のナイフ形石器と礫群に特徴づけられる。地金堀東岸の小山台遺跡第5文化層、上ヶ屋型彫器を特徴とする大松遺跡第2文化層、有樋尖頭器石器群は、本遺跡の大量の礫群を伴う第5文化層、内山遺跡<2>の第4、第5文化層で良好な接合資料を含む石器群がある。地金堀西岸の屋敷内遺跡Ⅲ～Ⅳ層文化層、地金堀東岸の駒形遺跡第3文化層・原畑遺跡第4文化層・矢船Ⅱ遺跡第4文化層・館林Ⅱ遺

跡第5文化層がある。細石刃石器群については、屋敷内遺跡Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層、小山台遺跡第6文化層・矢船Ⅱ遺跡第5文化層がある。

終末期石器群については、矢船Ⅱ遺跡第6文化層で神子柴・長者久保石器群が確認されている。

縄文時代 早期の遺構としては、竈穴や陥穴といったものが中心となるが、鶴ガ島台式期の胸形遺跡、鶴ガ島台式期～茅山下層式期の富士見遺跡、田戸下層式期～野島式期の小山台遺跡などはこの時期の数少ない集落跡として重要な存在である。これらの遺跡は、地金堀東岸の台地上にあり、集落跡は利根川から延びる小支谷を挟んで対峙するような位置関係にある。竈穴や陥穴などについては、調査面積の大小にも関係するが、地金堀西岸の大割遺跡<6>、大青田谷津の中山新田(Ⅰ)遺跡、聖人塚遺跡からまとまった数が検出されている。

前期は堅穴住居跡を中心とした遺構数が急増する。地金堀東岸では関山式期～黒浜式期の胸形遺跡、花積下層式期～黒浜式期の富士見遺跡、花積下層式期～黒浜式期の大松遺跡から大規模な集落が検出されている。3遺跡は利根川から延びる小支谷により樹枝状に開析された同一台地上に位置しており、特に、花積下層式期の堅穴住居跡は3遺跡で一つの集落を形成するように見え、黒浜式期には堅穴住居跡が台地全体に拡大していくことから、この地域における拠点集落として存在していたものと思われる。この3遺跡以外では、地金堀西岸では黒浜式期の屋敷内遺跡・原山遺跡、地金堀東岸では黒浜式期の原畑遺跡・田中小遺跡<41>・上前留遺跡<48>、黒浜式期～浮島式期の小山台遺跡・花前(Ⅰ)遺跡<18>、黒浜式期～興津式期の矢船(Ⅰ)遺跡、黒浜式期～諸磯式期の鴻ノ巣遺跡<52>で堅穴住居跡が検出されている。堅穴住居跡は検出されていないが、地金堀東岸の原遺跡<44>から黒浜式期～諸磯式期の土坑群が検出されている。これらは集落としての規模は小さく、先に述べた拠点集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

中期は、地金堀東岸の大松遺跡<12>で五領ヶ台式期～加曾利E式期の堅穴住居跡が多数検出され、前期から引き続いて集落を形成している。小支谷を挟んで対峙する小山台遺跡でも阿玉台式期～加曾利E式期の堅穴住居跡が多数検出され、2か所の環状集落が存在していたことが明らかになり、大松遺跡とともに当該時期の拠点集落を形成していたものと思われる。小規模な集落としては、地金堀東岸では阿玉台式期の寺下前遺跡<15>・田中小遺跡、阿玉台式期～中峠式期の原畑遺跡、加曾利E式期の原遺跡、大青田谷津周辺では阿玉台式期の中山新田(Ⅱ)遺跡、阿玉台式期～中峠式期の水砂遺跡<25>・聖人塚遺跡、阿玉台式期～加曾利E式期の中山新田(Ⅰ)遺跡などがあげられる。田中小遺跡の放射状に並ぶ掘立柱建物跡と柱穴列の存在が目立つ。これらの遺跡は、前期と同様に拠点集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

後期になると遺跡の数は激減し、拠点的な集落もなくなり、胸形遺跡・富士見遺跡・花前(Ⅰ)遺跡・花前(Ⅱ)遺跡・中山新田(Ⅰ)遺跡で堀之内式期を中心とした堅穴住居跡が1～2軒検出されるにとどまっている。

晩期については、遺物は出土しているものの、遺構の存在は明らかではない。

弥生時代 周辺地域では前期・中期に属する遺構が検出された遺跡はなく、後期も極めて少ない。地金堀東岸で田中小遺跡、香取神社遺跡<49>、鴻ノ巣遺跡、大堀川を隔てて南の呼塚遺跡<61>などから堅穴住居跡が数軒検出されているだけである。これらの堅穴住居跡はいずれも北関東系の影響を受け、長岡式期や臼井南式期に属するものである。常磐自動車道路や柏北部中央地区・柏北部東地区といった広い範

図を面的に発掘調査しているにも関わらず、これらの地区では明確な弥生時代遺構は検出されていない。

古墳時代 前期で注目されるのは、手賀沼に注ぐ大堀川下流の南岸の台地上にある呼塚遺跡から大規模な集落と規模150m×110mと推定される方形環濠が検出されたことである。呼塚遺跡は陸上・水上交通の要衝地にあり、方形環濠とそれに伴う布堀、大型堅穴住居、環濠内に東海系・畿内系・北陸系などの儀礼用の土器が多量に廃棄されていたことなどから、この地域における重要な拠点集落(首長居館)であった可能性が指摘されている。そのほかは地金堀東岸の田中小遺跡から小規模な集落、駒形遺跡・富士見遺跡・原遺跡・宿連寺遺跡<51>、地金堀西岸下流の八幡遺跡<54>から2～3軒の堅穴住居跡が検出されているだけである。

中期では呼塚遺跡で前期から引き続き拠点集落が存在していたものと思われる。この時期は堅穴住居跡が検出される遺跡が増加する傾向にあるが、後期に続かない遺跡が大部分である。地金堀東岸では駒形遺跡・富士見遺跡、矢船(Ⅱ)遺跡、田中小遺跡、大堀川北岸では殿内遺跡<63>などで小規模な集落が検出されている。

後期になると遺構が検出された遺跡は減少し、呼塚遺跡においても典型的な後期の土器を伴う堅穴住居跡は検出されていない。大青田谷津周辺の水砂遺跡<25>、地金堀東岸の尾井戸遺跡<42>から小規模な集落が検出されている。第3・4図の範囲外となるが、呼塚遺跡とは大堀川を挟んで東側に対峙する中馬場遺跡では古墳時代後期から集落が形成され、平安時代に最も規模が大きくなることが知られており、この時期に呼塚遺跡から中馬場遺跡へ拠点集落が移っていったものと思われる。

古墳は地金堀東岸の利根川を望む台地上に分布している。尾井戸遺跡<42>には墳丘は失われているが、土坑を埋葬主体とする6世紀前半の円墳がある。原遺跡には下総型円筒埴輪をもち、帆立貝式前方後円墳の可能性がある6世紀後半の「変則的古墳」がある。さらに東に行くと塚原古墳群<46>がある。

奈良・平安時代 奈良時代は、大青田谷津周辺で多くの遺跡が検出されている。花前(Ⅰ)遺跡<18>～花前(Ⅲ)遺跡<20>・館林(Ⅰ)遺跡・水砂遺跡・中山新田(Ⅰ)遺跡～中山新田(Ⅲ)遺跡から複数の堅穴住居跡が検出されており、水砂遺跡では掘立柱建物跡と小鍛冶跡も検出されている。また大堀川南岸の呼塚遺跡でも少数の堅穴住居跡が検出されている。

平安時代は、花前(Ⅰ)遺跡～花前(Ⅲ)遺跡からは、奈良時代に引き続いて10軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され、その中で、花前(Ⅱ)遺跡<19>では製鉄炉・精錬炉が複数存在していることから、これらの3遺跡は製鉄と鉄製品の管理・供給地としての拠点集落であったと考えられている。また、地金堀西岸下流の鴻ノ巣遺跡では堅穴住居跡から鉄滓と馬形土製品が出土し、大堀川北岸の松ヶ崎泉遺跡<55>からは小鍛冶跡と思われる鍛冶炉をもつ堅穴住居跡が検出されるなど、この地域には製鉄関連遺構をもつ遺跡が多い。古墳時代の概要でも述べた中馬場遺跡は、160軒を超える堅穴住居跡が検出されており、古代東海道における下総国の駅路沿いの拠点集落であったと考えられる。

中・近世 中世は、地金堀西岸の須賀井遺跡<7>から台地整形区画や掘立柱建物跡などが検出されている。遺構の時期は14世紀～15世紀前半としている。また、掘立柱建物跡の規模などから屋敷跡ではなく「土坑墓・火葬墓を含む墓域や小屋・井戸などを伴う作業空間であった。」としている。屋敷内遺跡からは掘立柱建物跡や多数の溝からなる小規模な屋敷跡が検出されている。遺構の時期は15世紀後半～16世紀後半としている。利根川に面する地金堀東岸では中世の屋敷跡と考えられる堀込区画(台地整形区画)や堅穴状遺構などが検出された遺跡がいくつか存在している。富士見遺跡は遺構の時期としては15世紀前半

としている。また、その性格は「掘り込みを伴う『屋敷地』2か所と隣接する墓所からなる一単位的生活空間」であったとしている。小山台遺跡・寺下前遺跡・寺前遺跡でも台地整形区画や堅穴状遺構などが検出されている。これらの遺構は出土遺物は少ないが、古瀬戸後期様式(15世紀代)の期間に機能していたとされている。遺構の性格としては平行もしくは直交する堀や溝で区画された墓域、それに関係する非日常的な建物群、仮小屋や倉庫的な小屋などを想定している。なお、中馬場遺跡では土塁と堀・溝に区画された中に地下式坑や土坑などを伴う掘立柱建物群が複数検出され、前時代に引き続き古代東海道沿いの拠点集落であったと思われる。

近世は、地金堀西岸の屋敷内遺跡で中世末から継続する小規模な屋敷跡が検出されている。(27)SD-001は内山遺跡の(1)～(3)SD-001につながる溝と考えられる。須賀井遺跡でも小規模な屋敷跡が検出されている。地金堀東岸では、富士見遺跡で18世紀後半～19世紀前半を主体とする掘立柱建物跡や区画溝が、小山台遺跡から掘立柱建物跡や土坑墓などが検出されている。駒形遺跡・大松遺跡でも地下式坑などがわずかに検出されているが、調査面積に比べて希薄である。花前(Ⅲ)遺跡からは建物跡が検出され、17世紀後半～18世紀前半の肥前系唐津産陶器や18世紀代～19世紀代の肥前系染など多種多様な陶磁器、在地産の土器、キセル・包丁・刀子等の金属製品など多くの遺物が出土している。遺構の規模や出土遺物の内容などから、富裕農民層の屋敷跡と推定される。花前(Ⅰ)遺跡から17世紀中葉以降の屋敷跡が検出されている。寺前遺跡では18世紀代の掘立柱建物跡や井戸、区画溝が検出されている。近世の牧については、柏市周辺には上野牧と高田台牧が広がっており、本遺跡を含む柏北部中央地区の全ての遺跡が高田台牧の範囲内にある。

参考文献

- 文1 1997 「千葉県埋蔵文化財分布地図(Ⅰ)～東葛飾・印旛地区(改訂版)～」千葉県教育委員会 財団法人千葉県文化財センター
- 文2 2003 「千葉県文化財センター年報No27～平成13年度～」
- 文3 2007 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-柏市溜井台遺跡-」千葉県教育振興財団調査報告第585集
- 文4 2009 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書2-柏市原山遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第631集
- 文5 2011 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書3-柏市農協前遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第657集
- 文6 2012 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書4-柏市大割遺跡・須賀井遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第692集
- 文7 2013 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書5-柏市原山遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第699集
- 文8 2016 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6-柏市大割遺跡・農協前遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文8 2016 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6-柏市大割遺跡・農協前遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文9 2017 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書7-柏市須賀井遺跡-縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第18集
- 文10 2008 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-柏市大松遺跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第589集
- 文11 2009 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書2-柏市駒形遺跡(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財団調査報告第616集
- 文12 2011 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書3-柏市原山遺跡(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財団調査報告

告第660集

- 文13 2011 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書4-柏市大松道跡-縄文時代以降編1」千葉県教育振興財団調査報告第666集
- 文14 2013 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書5-柏市駒形道跡-縄文時代以降編2」千葉県教育振興財団調査報告第691集
- 文15 2014 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書6-柏市富士見道跡-縄文時代以降編1」千葉県教育振興財団調査報告第728集
- 文16 2015 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書7-柏市富士見道跡-縄文時代以降編2」千葉県教育振興財団調査報告第736集
- 文17 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書8-柏市富士見道跡・原畑道跡・駒形道跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第737集
- 文18 2016 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書9-柏市大松道跡-縄文時代以降編2」千葉県教育振興財団調査報告第754集
- 文19 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書10-柏市小山台道跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第763集
- 文20 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書11-柏市花前Ⅱ道跡・花前Ⅲ道跡・矢船Ⅰ道跡・矢船Ⅱ道跡・館林Ⅱ道跡・寺下前道跡・八反目台道跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第764集
- 文21 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書12-柏市小山台道跡A区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第770集
- 文22 2018 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書13-柏市矢船Ⅰ道跡・矢船Ⅱ道跡・駒形道跡・富士見道跡・原畑道跡・花前道跡・花前Ⅲ道跡・寺下前道跡・大松道跡・小山台道跡・八反目台道跡・館林Ⅱ道跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第771集
- 文23 2018 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書14-柏市花前Ⅰ道跡・駒形道跡・富士見道跡・原畑道跡・寺下前道跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第774集
- 文24 2019 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書15-柏市小山台道跡B区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第775集
- 文25 1982 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅰ-館林・水砂・花前Ⅱ-1」財団法人千葉県文化財センター
- 文26 1984 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅱ-花前Ⅰ・中山新田Ⅱ・中山新田Ⅲ」財団法人千葉県文化財センター
- 文27 1985 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅲ-花前Ⅱ-1・花前Ⅱ-2・矢船」財団法人千葉県文化財センター
- 文28 1986 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅳ-元割・聖人塚・中山新田Ⅰ」財団法人千葉県文化財センター
- 文29 1973 「北柏道跡-発掘調査概報」北柏道跡発掘調査団 北柏道跡C地区
- 文30 1974 「柏市鴻ノ巣道跡」財団法人千葉県都市公社
- 文31 1980 「柏市埋藏文化財調査報告書」柏市教育委員会
- 文32 1980 「千葉県柏市尾井戸道跡」尾井戸道跡調査団
- 文33 1981 「殿内道跡発掘調査報告書」(財)柏市都市開発公社 殿内道跡調査団
- 文34 1983 「松ヶ崎(Ⅱ)道跡発掘調査報告書」松ヶ崎(Ⅱ)道跡発掘調査会 山武考古学研究所
- 文35 1986 「柏市埋藏文化財調査報告書12」柏市教育委員会
- 文36 1988 「昭和62年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文37 1989 「昭和63年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文38 1990 「平成元年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文39 1990 「平成2年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文40 1990 「柏市埋藏文化財調査報告書16-田中小道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文41 1992 「平成3年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文42 1992 「柏市埋藏文化財調査報告書20」柏市教育委員会
- 文43 1992 「柏市埋藏文化財調査報告書22 殿台道跡 寺前道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文44 1995 「柏市埋藏文化財調査報告書29 呼塚道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文45 1996 「柏市埋藏文化財調査報告書31」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文46 1997 「平成7年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会

- 文47 1997 「柏市埋蔵文化財調査報告書33 水砂遺跡(Ⅱ)」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文43 1992 「柏市埋蔵文化財調査報告書22 殿台遺跡 寺前遺跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文44 1995 「柏市埋蔵文化財調査報告書29 呼塚遺跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文45 1996 「柏市埋蔵文化財調査報告書31」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文46 1997 「平成7年度市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文47 1997 「柏市埋蔵文化財調査報告書33 水砂遺跡(Ⅱ)」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文48 1998 「平成8年度市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文49 1999 「平成9年度市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文50 2001 「柏市埋蔵文化財調査報告書44」柏市教育委員会
- 文51 2002 「平成12年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文52 2002 「柏市埋蔵文化財調査報告書48 寺前遺跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文53 2003 「平成13年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文54 2003 「柏市埋蔵文化財調査報告書50 呼塚遺跡」柏市教育委員会
- 文55 2005 「平成15年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文56 2006 「平成16年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文57 2006 「柏市埋蔵文化財調査報告書54」柏市教育委員会
- 文58 2007 「平成17年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文59 2007 「柏市埋蔵文化財調査報告書61 寺前遺跡第9次調査」柏市教育委員会 加藤建設株式会社
- 文60 2008 「平成18年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文61 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書62 平成20年度柏市呼塚遺跡8次調査報告書」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文62 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書63 平成20年度柏市呼塚遺跡第10次調査報告書」有限会社勾玉工房Mogi
- 文63 2009 「平成19年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文64 2010 「原遺跡(第1次・2次)」柏市埋蔵文化財調査報告書67
- 文65 2011 「平成21年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文66 2011 「柏市埋蔵文化財調査報告書68」柏市教育委員会
- 文67 2012 「平成23年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文68 2012 「柏市埋蔵文化財調査報告書71 柏市呼塚遺跡(第15次)」株式会社地域文化財研究所
- 文69 2013 「柏市埋蔵文化財調査報告書75 原畑遺跡(第26次)」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文71 2013 「原遺跡(第3～6次)」柏市埋蔵文化財調査報告書74
- 文71 2014 「平成24年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文72 2014 「柏市埋蔵文化財調査報告書79 千葉県柏市呼塚遺跡(第17次)」株式会社地域文化財研究所
- 文73 2015 「平成25年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文74 2016 「平成26年度柏市市内道跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文75 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書82」柏市教育委員会
- 文76 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書83 千葉県柏市呼塚遺跡(第22次)」有限会社勾玉工房Mogi
- 文77 2021 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書8-柏市屋敷内遺跡」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第36集
- 文78 2022 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書9-柏市内山遺跡」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第46集

その他参考文献

- 2005 「千葉県の歴史 通史編 古代2」千葉県
- 1964 「柏市根戸中馬場住居址調査報告書」柏市教育委員会
- 1972 「中馬場・妻小原調査報告書」日本国有鉄道常磐線複々線工事関係道跡調査団
- 1976 「中馬場遺跡 第三次調査報告書」中馬場遺跡第三次調査団
- 1999 「柏市埋蔵文化財調査報告書38 中馬場遺跡(第4次)」柏市教育委員会 柏市道跡調査会

第2表 周辺の遺跡概要一覧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第2章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

翁原遺跡の調査成果としては、旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、中・近世などの遺構・遺物が検出されており、第2節において詳述するが、ここでは旧石器時代の概要を記す。

旧石器時代 中央に埋没谷が走るほぼ南北の台地に分かれ、今回の西側の地点はその南側の南西部にあたり、多数のブロックが分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 X層を主体として、X層～Ⅶ層から出土している。局部磨製石斧が出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。総計14点が出土している。

第2文化層 Ⅸ層を中心に出土しており、石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。総計827点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。

第3文化層 Ⅶ層を中心に出土した石器群である。総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。

第4文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。総計316点が出土し、7か所の集中地点で構成される。

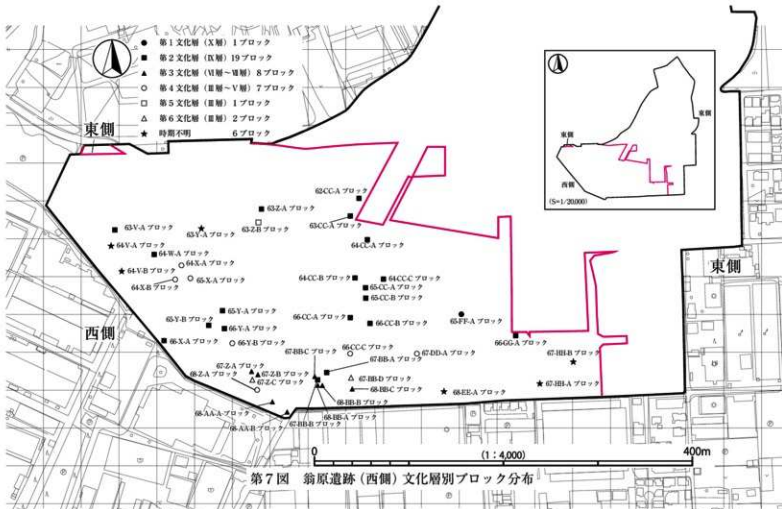
第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東内野型の有穂尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。

第2節 旧石器時代の遺構と遺物

旧地形 翁原遺跡は地金堀の西岸、地金堀と大堀川に開析された標高17m～22m付近の舌状台地に位置する。現在、大堀川は北千葉導水路、地金堀はコンクリートで整備された水路として市街地を流れている。翁原遺跡の北に位置する屋敷内遺跡・農協前遺跡間のボーリング調査の成果によると、両遺跡間の谷部では、常総粘土層直下の更新世水成層が深さ2～3m、幅300mに渡り侵食されており、かつての地金堀が水量が豊富だが流域幅が広く、浅く緩やかに手賀沼に向かって流下していたことがわかる。また、舌状台地の縁辺にあたる屋敷内遺跡東側の緩斜面では、対岸の農協前遺跡が立地する地金堀東岸の台地比べて常総粘土層の堆積が薄いことから、本遺跡が立地する舌状台地がMIS5c(約10万年前)以降の比較的遅い時期に離水したことが分かる。よって常総粘土層の上に関東ローム層が堆積した頃、この舌状台地の縁辺では、地金堀の低地との高低差が今よりもさらに緩やかであったと推定される。今まで記述したことから、最終氷期における翁原遺跡の周辺では、北側と南側については現在の「こんぶくろ池」や「弁天池」周辺に広がる低地が地金堀の広大な流域と一体化しひとつの氾濫原を形成し、東側については低地に張り出した舌状台地が次第に緩斜面となりそのまま地金堀に接続していたと推定される。遺跡が立地する舌状台地、低地に続く緩やかな斜面、眼下に流れる広大な地金堀、それを囲む湿地帯という、水辺へのアクセスに富む景観が復元されよう。

基本層序 本遺跡の立川ローム層序は第5図のとおりである。



Ⅲ層 明黄褐色ローム土。ソフトローム層。ソフト化したハードロームを含む。

Ⅳ～Ⅴ層 黄褐色ローム土。大部分は第1暗色帯に相当する。Ⅳ層はソフト化しているところが多い。

Ⅵ層 明褐色ローム土。硬質。AT（始良丹沢火山灰）がブロック上に含まれる。ソフト化が進みⅢ層のクラックがⅥ層まで到達するところがある。

Ⅶ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯上部に相当する。湧水の影響によりⅣ層と分層できないところがある。

Ⅷ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯下部に相当する。赤色スコリアを含む。

X層 黄褐色ローム土。硬質。Ⅷ層より軟化する。

文化層概要 石器群は、西側地区のほぼ全体に分布しているが、特に中央部では大量の石器や礫群を伴うブロックが多く検出されている。

出土層位と石器群の様相から6枚の文化層を設定した。第1～3文化層はAT下位の後期旧石器時代前半期石器群、第4～6文化層はAT上位の後半期石器群である。このうちAT上位の後半期石器群は、概ね立川ロームⅢ層を中心にⅤ層からⅦ層にかけて包含されている。しかしながら本地域ではこれらを出土層位で区分することが難しく、本遺跡においても石器群の出土層位に明らかな差は認められなかったが、石器群の様相からは時期差が認められたことから、文化層を設定した。

6枚の文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 X層を主体として、X層～Ⅶ層から出土している。局部磨製石斧が出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。しかし、数は少ないが、下総台地の下層（X層～Ⅳ層）の遺跡に散見されるいわゆる海沢産の特徴を持つチャートが出土している。総計14点が出土し、そのうち1点離れて出土した遺物があるが、それ以外は1か所の集中地点で構成される。西側地区の東側に分布している。

第2文化層 Ⅳ層を中心に出土しており、石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。石器群の内容から、さらに2枚の文化層に細分される可能性もあるが、今回は1枚の文化層にまとめた。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。総計827点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。ほぼ西側地区全体に分布している。時期細分される可能性がある。

第3文化層 Ⅶ層～Ⅵ層から出土した石器群である。総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。西側地区の中央南側にまとまっているが、一部は第2文化層の石器群の可能性もある。

第4文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。総計316点が出土し、7か所の集中地点で構成される。西側地区の中央から西側に分布している。

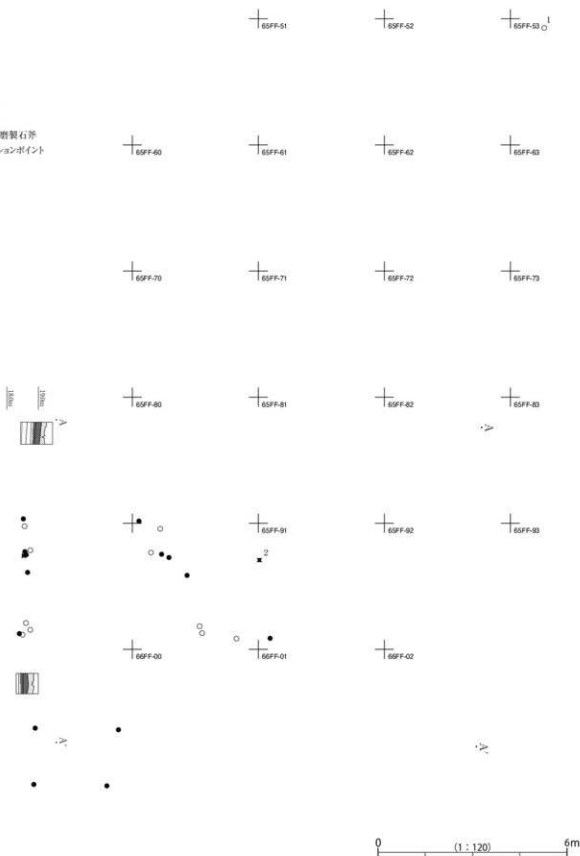
第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東田野型の有樋尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。ホルンフェルスの横長剥片を生産する特徴的な接合資料がある。総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。西側地区の中央北側に分布している。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。西側地区の中央南側に分布している。

時期不明 出土層位が明確でないこと、明確に時期を決定できる資料が発見されていないこと、あるいは複数の文化層の可能性があることなどから帰属時期を決定できなかった石器群で、総計75点が出土し、6か所の集中地点で構成される。



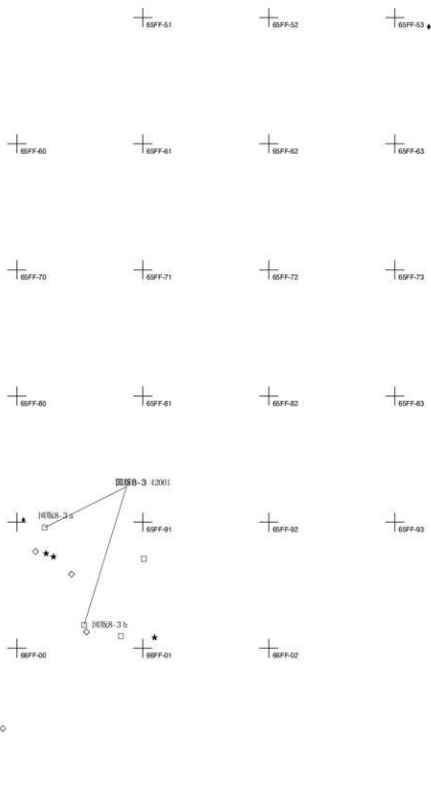
- 測片
- 砂片
- 局部磨製石斧
- ・ セクションポイント



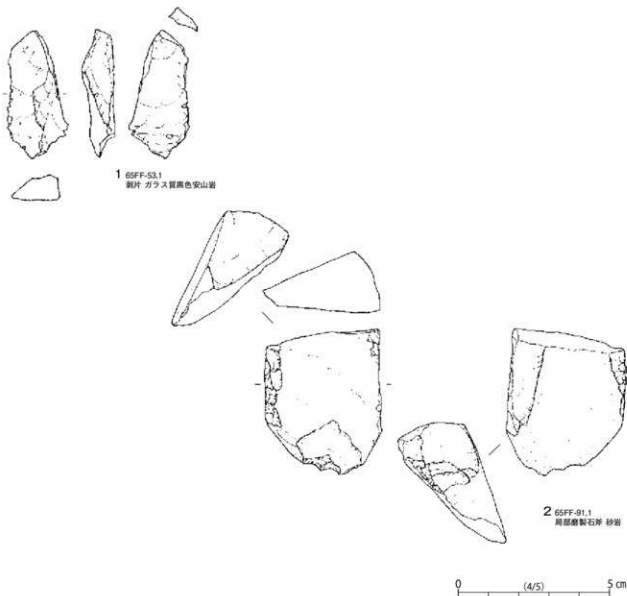
第8図 65FF-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



- ガラス質黒色安山岩
- 砂岩
- ◇ チャート
- ★ ホルンフェルス



第9図 65FF-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



第10図 65FF-Aブロック出土遺物

1 63Z-Aブロック（第11～13図、第4表、図版2・8）

西側地区のほぼ中央、63Z-08・15・16・18・24～26・37グリッドに分布する。8.6 m×20.7 mの範囲から24点の石器が出土した。出土層位は、Ⅸc層～Ⅶ層で、0.74mの高低差をもってⅨc層～Ⅸa層を中心に包含される。

石器器種は、楔形石器・剥片・砕片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・頁岩・玉髓・蛇灰岩で構成され、ガラス質黒色安山岩・頁岩が主体である。

1は比較的珪化度の高い緑色の頁岩あるいは緑色凝灰岩の楔形石器である。表面末端の細かい剥離痕と表裏上部の剥離痕が対向し、上部右側の稜線には潰痕状の剥離痕が残る。また、両側縁にも対向する種状の切断面が見られる。最終的には、ほぼ90度転回した方向からの剥離により、裏面の器体中央に残るような大きな剥離があり、本個体は廃棄されている。また、今回掲載していないが、蛇灰岩（蛇紋岩）の石器は、石材から石斧関係の調整剥片などの可能性が考えられる。

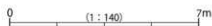
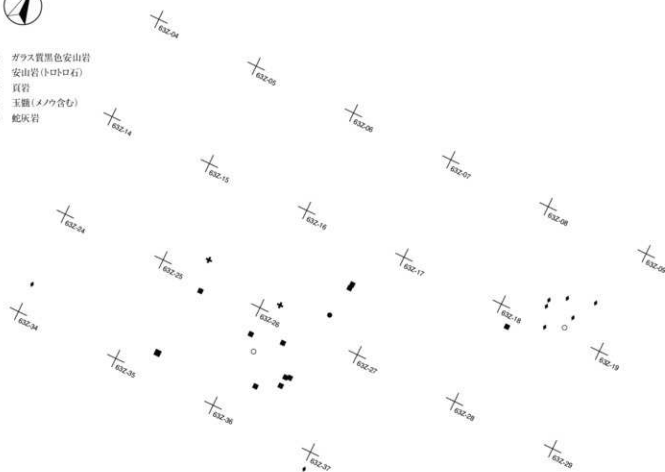


第11図 63Z-Aブロック出土遺物分布(1)-器種別-

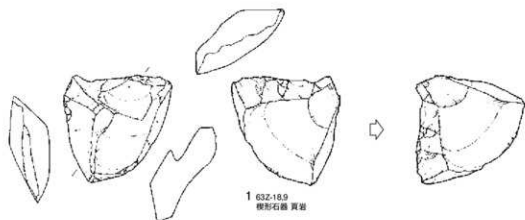
石材 / 産地	天然石 花崗岩	角閃岩 花崗岩	ナイン 花崗岩	白雲母 花崗岩	紫雲母 花崗岩	黒雲母 花崗岩	二重 加工	燧石 花崗岩	斑片 花崗岩	斑片 花崗岩	斑片 花崗岩	石炭 花崗岩	石灰 花崗岩	砂岩 花崗岩	堆積 層	点数合計	重量合計 (g)		
GA										8						8	33.3%	97.25	56.9%
TD										1						1	4.2%	1.38	0.8%
SH						1				8	2					11	45.8%	43.91	25.7%
CC										2						2	8.3%	2.9	1.7%
OC										1	1					2	8.3%	25.46	14.9%
合計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	24	100.0%	170.9	100.0%



- ガラス質黒色安山岩
- 安山岩(トトロ石)
- 頁岩
- + 玉髄(メノウ含む)
- 蛇灰岩



第12図 63Z-Aブロック出土遺物分布(2) -石材別-



第13図 63Z-Aブロック出土遺物

2 62CC-Aブロック（第14～18図、第5表、図版2・8・9）

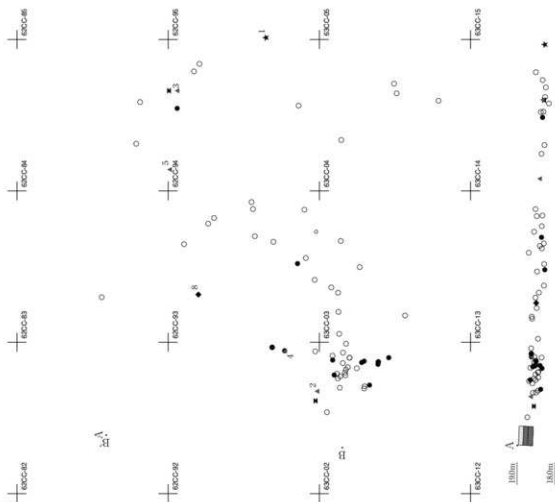
西側地区の中央北側、62CC-83・84・92～95、63CC-02～04グリッドに分布する。8.2m×10.1mの範囲から69点の石器が出土した。出土層位はⅨc層～Ⅸa層で、0.43mの高低差をもってⅨc層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・安山岩・トロトロ石・流紋岩・チャート・頁岩・玉髄・黒曜石で構成される。黒曜石のナイフ形石器・微細剥離痕のある石器・剥片などが主体である。

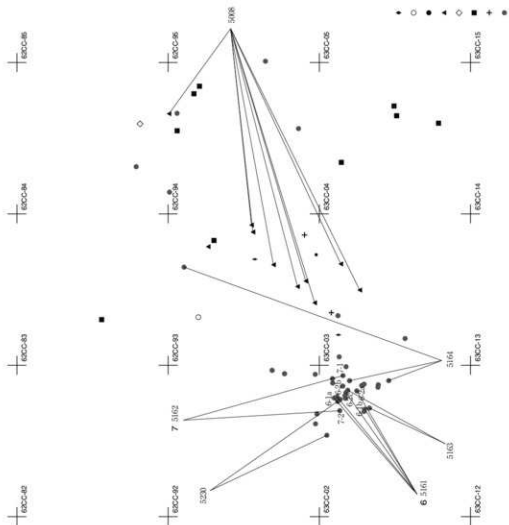
1は信州産と考えられる透明度のない良質な黒曜石のナイフ形石器である。石刃と考えられる縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。下部が欠損しているが、左側縁は全体に急角度の調整が施され、右側縁は基部側の一部に急角度の調整が施されていることから、2側縁加工のナイフと思われる。2～5は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の微細剥離痕のある剥片で、すべて石刃を素材としている。2は表面と右側面の上部の剥離痕を除きほぼ全面に自然面が残っていることから、角礫状の原石から剥離されたものと思われる。なお、右側面の下部の細長い2面は剥離痕の可能性が高い。表面左側縁と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られ、末端は欠損する。3は表面の下部に左方向からの、同じく左下半部に末端からの剥離面を除いて加撃方向と同一の剥離面が複数見られる。また、表面右側下部には自然面が残っている。表面左側縁上半と裏面右側縁の上部と下部に微細な剥離痕が見られる。4・5は表面に素材と同方向の剥離痕が見られる。4は正面左側縁と右側縁の一部、裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。なお、末端は調整が折れか判断できないが、細かい剥離痕が見られる。ノッチの部分を使用した可能性が高い。5は両面の左側縁と右側縁の上部に微細な剥離痕が見られる。末端は欠損する。6（接合資料05161）は灰褐色の不純物を多少含む透明度のある黒曜石の石刃と考えられる縦長剥片5点（2個体）の接合資料である。6-1は2点、6-2は3点が接合してそれぞれ1個体となる。6-1の背面には同剥片の剥離方向に直交する剥離面が見られることから作業面を作出する剥片と思われる。6-2の背面には末端からの剥離痕が残っていることから、両設打面の石核から剥離され、打面の転回が6-1の剥離後、数枚の剥片を剥離した後に行われている。7（接合資料05162）は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の石刃と考えられる縦長剥片2点の接合資料である。7-2の末端は欠損しており、また、両者とも打面側が新規欠損している。8は安山岩の敲石である。上下両端に比較的特徴的な敲打痕が見られる。

第5表 62CC-Aブロック石器組成

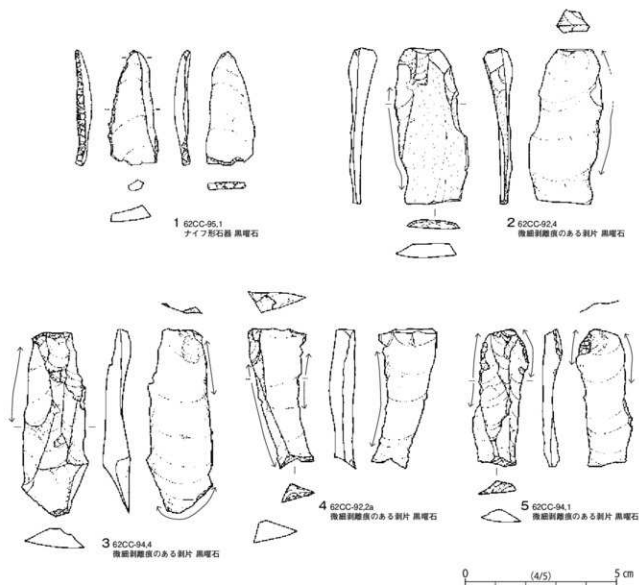
石材・器種	本測数	角礫状 石核	ナイフ 形石器	角礫状 石片	原岩	流紋 岩	微細 剥離	二次 加工	剥離 剥片	剥片	砕片	石核	石片	敲石	頁岩	玉髄	点検合計	重量合計 [g]				
GA										2							2	2.9%	4.9	1.1%		
AN														1			1	1.4%	142.95	33.1%		
TO											1						1	1.4%	0.06	0.0%		
RH										8	1	1					10	14.5%	103.27	23.9%		
CH										1							1	1.4%	0.6	0.1%		
SH										8	1						9	13.0%	55.39	12.8%		
CC										2							2	2.9%	13.56	3.1%		
OB			1					4		27	10	1					43	62.3%	111.3	25.8%		
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	48	13	2	0	1	0	69	100.0%	432.03	100.0%



第14図 62CC-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



第15図 62CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



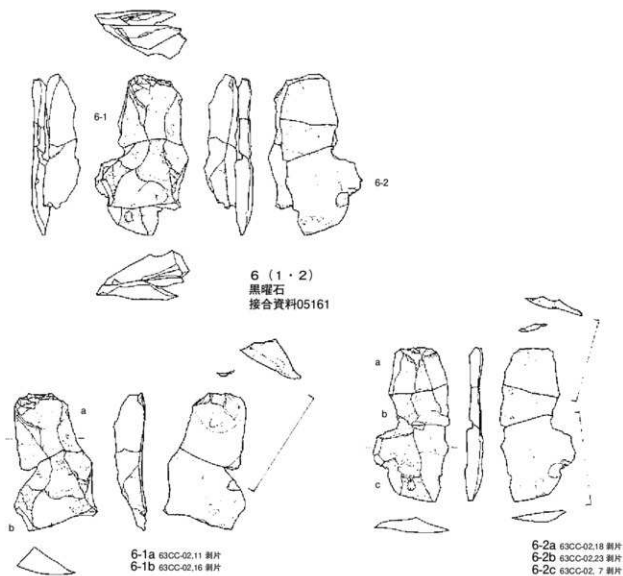
第16図 62CC-Aブロック出土遺物(1)

3 63CC- Aブロック (第19～21図、第6表、図版2・10)

西側地区の中央北側、63CC-23・33・40～42・51・52グリッドに分布する。8.5 m × 13.2 mの範囲から17点の石器と1点の礫が出土した。なお、本ブロックは7 mほど離れて8.5 m × 3.8 mと2.0 m × 0.7 mの2か所に分布する。出土層位はⅨ c 層～Ⅶ層で、0.46 mの高低差をもってⅨ c 層～Ⅸ a 層を中心に包含される。

石器器種は、微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、ガラス質黒色安山岩・頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩のみである。

1は黒色頁岩の二次加工のある剥片、2は頁岩の微細剥離痕のある剥片で、すべて石刃を素材としている。1は表面左側縁の一部にプランティング状の細かい調整加工が行われている。末端は欠損している。なお、打面側を基部とする部分加工のナイフ形石器の可能性があり。2は表面左側縁下部と裏面右側縁の

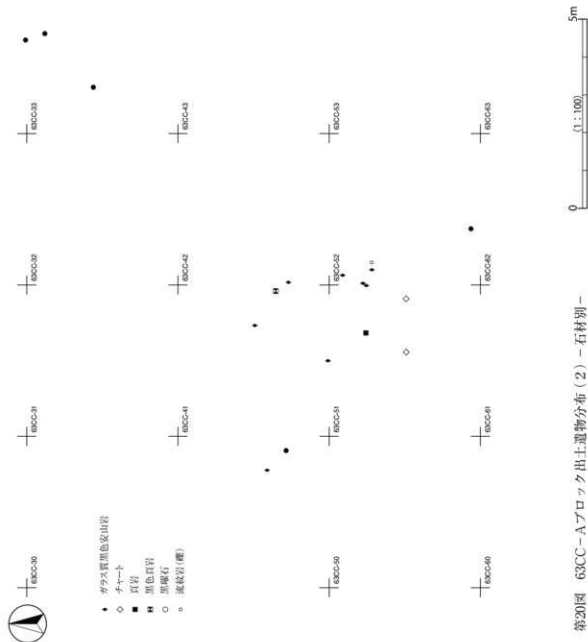


第17図 62CC-Aブロック出土遺物(2)

下半部に微細な剥離痕が見られ、打面側を欠損する。なお、末端はヒンジである。図版 10-3 は、ガラス質黒色安山岩の石核である。求心的な剥離により小型で不定形な剥片を剥離している。

第6表 63CC-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器 石核	角頭状 石核	ナイフ 形石核	台形棒 石核	部器	部器	複形 石核	二次 加工	薄板 状部	部片	部石刀	部石棒	部片	部片	石核	石棒	部石	台石	部石	棒部 片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													5	2	1						8	44.4%	56.64	42.6%
CH													2								2	11.1%	2.05	1.5%
SH									1												1	5.6%	41.55	29.8%
BS								1													1	5.6%	8.83	6.3%
OB													5								5	27.8%	29.19	20.9%
PNR																				1	1	5.6%	1.09	0.8%
合計	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	12	2	1	0	0	0	0	1	18	100.0%	139.35	100.0%



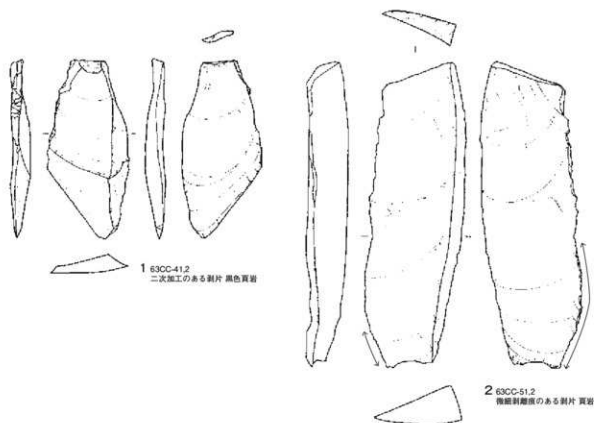
第20図 63CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

5 63V-Aブロック(第22～26図、第8表、図版2・11)

西側地区の西側、63V-99、64V-07～09・18・19グリッドに分布する。11.4 m × 7.0 mの範囲から25点の石器が出土した。出土層位はⅡ層で、0.78 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・粘板岩で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩・チャートで構成される。ナイフ形石器はチャート・頁岩で、剥片もこの2種が主体である。

1は灰褐色で頁岩に似たチャートの二側縁加工のナイフ形石器である。打面側を基部としている。正面の器体左半分は節理である。左側縁の基部と先端部、右側縁の基部に細かい調整が行われており、右側縁に微細な剥離痕が見られる。2は1に比べ若干珪化度のある暗灰色のチャートの縦長剥片あるいは石刃である。3(接合資料19001)は灰褐色で珪化度の高い頁岩の剥片2点(1個体)の接合資料である。本来



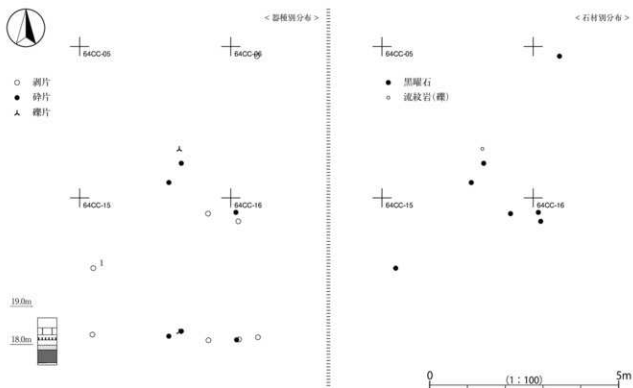
第21図 63CC-Aブロック出土遺物

0 (4/5) 5 cm

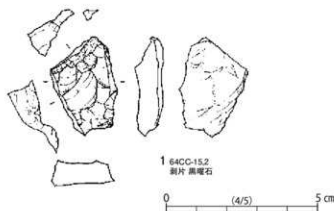
であれば、2個体であるが、接合資料の末端では主要剥離面のリングが連続することからほぼ同時に剥離したものとした。図版 11-4 はガラス質黒色安山岩の石核である。比較的小型の扁平な礫の表面の上下からの加撃により小型で不定形な剥片を剥離している。上部の稜線が多少潰れ気味であることから両極石核の可能性がある。図版 11-5 は基部加工のナイフ形石器である。石材は緑灰色で緑色凝灰岩に類似した細粒の頁岩としたが、新鮮な面が黒色であることから、黒色頁岩の可能性がある。打面側を基部として、両側縁の基部に細かい調整が行われている。図版 11-6 ~ 10 は各種石材による石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。

第8表 63V-Aブロック石器組成

石材 / 種類	実測剥片	角礫状石核	ナイフ形剥片	全形礫石	片状	礫核	二次加工	角礫状剥片	礫石片	礫石核	剥片	片状	石核	石片	礫石	片石	礫石	片石	總計	点数合計	重量合計 (g)		
GA												2		1					3	11.1%	15.02	179.0%	
RH												1							1	3.7%	15.02	7.0%	
CH			1									8	4						13	48.1%	26.78	12.5%	
HO												1							1	3.7%	4.04	1.9%	
SH			1									5							6	22.2%	24.48	11.4%	
SL												1							1	3.7%	9.23	4.3%	
SAR																		1	1	3.7%	111.03	51.9%	
CHR																		1	1	3.7%	6.39	3.9%	
合計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	16	4	1	0	0	0	0	3	28	100.0%	214.25	100.0%



第22図 64CC-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第23図 64CC-Aブロック出土遺物

6 64W-Aブロック (第27・28図、第9表、図版3・11)

西側地区の西側、64W-67～69・76・77グリッドに分布する。11.4 m × 1.7 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅺ層で、0.78 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩のみである。ナイフ形石器は黒曜石で、剥片はガラス質黒色安山岩が主体である。

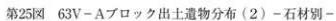
1は灰白色の不純物を含む透明度のない高原山産と考えられる黒曜石のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は上半部を中心に微細な調整が施され、右

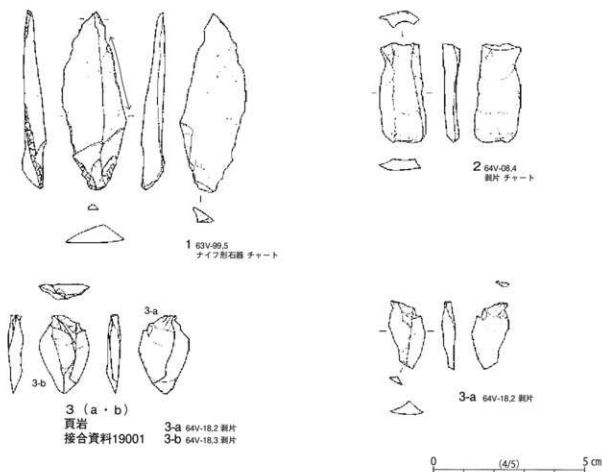


第24図 63V-Aブロック出土遺物分布(Ⅰ) - 器種別 -

側縁は全体に急角度の調整が入念に施されている。裏面先端の右側に衝撃による可能性のある剥離痕が見られる。なお、裏面右側縁の下半部は剥離時の欠損の可能性もあるが、不純物により上部の調整と下部の欠損の新旧関係は不明である。仮に使用時の欠損と考えると表面左側縁の調整は全体に施されていることになる。図版11-2はガラス質黒色安山岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。図版11-3はホルンフェルスの剥片である。下半部を欠損することから、断定はできないが、打面部に多少潰痕状の剥離痕が両面に見られることや線状であることなどから、両極剥片の可能性がある。

石材 / 階種	床頭壁 石造	角柱状 石造	ナイフ 形切石 石造	窓廻り 石造	基礎 石造	煙突 石造	二次 加工	階段 敷面	天井	廊下石 貼付	廊下石 貼付	天井	給排水 石造	石膏	障子紙 貼付		通数合計	重量割合 (%)		
G/A												9					9	64.3%	54.25	38.0%
H/O												1					1	7.1%	33.96	24.1%
O/B			1														1	7.1%	3.82	2.7%
R/RH																3	3	21.4%	48.65	34.6%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	14	100.0%	140.08	100.0%





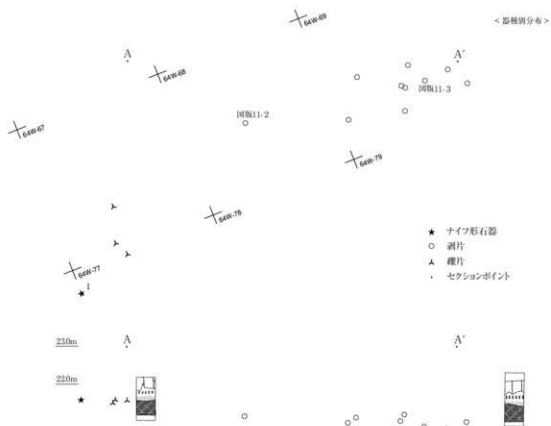
第26図 63V-Aブロック出土遺物

7 64CC-Bブロック (第29～31図、第10表、図版3・12・13)

西側地区のほぼ中央、64CC-80・91～94、65CC-00・01～04・10・11・13～15グリッドに分布する。19.2 m × 14.3 mの範囲から55点の石器と5点の礫が出土した。出土層位はⅢ層～Ⅹ層で、1.44 mの高低差をもってⅤ層を中心に包含される。

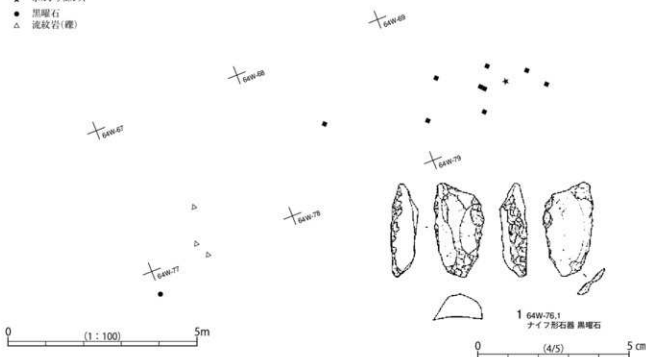
石器器種は、ナイフ形石器・台形様石器・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・砕片が主体である。石器石材は、チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成される。ナイフ形石器は頁岩・黒曜石で、剥片・砕片はチャートが主体である。

1は透明度のない黒灰色の黒曜石のナイフ形石器である。打面側を先端部としている。左側縁の全体と右側縁の基部に細かい調整が行われており、右側縁上半に調整と異なる微細な剥離痕が見られる。なお、左側縁先端に残る折断面の下の剥離痕は、周辺とは多少光沢が異なることからガジリの可能性が考えられるが、実体顕微鏡での剥離面の観察では風化に差がないことから、調整加工とした。2は珪化度の高い灰褐色の頁岩のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は中間部に急角度の調整が施され、右側縁は全体に急角度の調整が施されている。先端部は欠損している。3は灰白色の地に黒色の線が入るチャートの台形様石器あるいはナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。急角度で対向する調整が両側縁に施されているが、先端部と右側縁の上部は欠損している。欠損部位を考えるとナイフ形石器の可能性が高い。4は黄粉をまぶしたような泥質のホルンフェルス



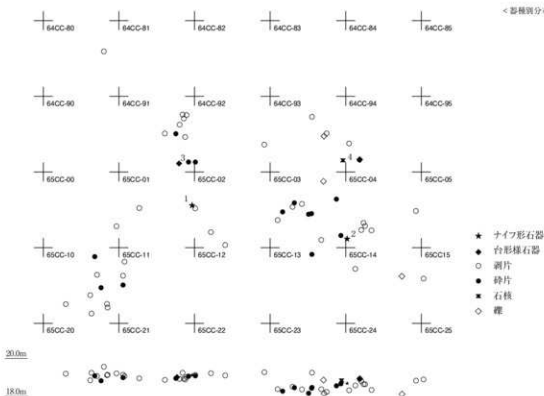
< 石材別分布 >

- ガラス質黒色安山岩
- ★ ホルンフェルス
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)

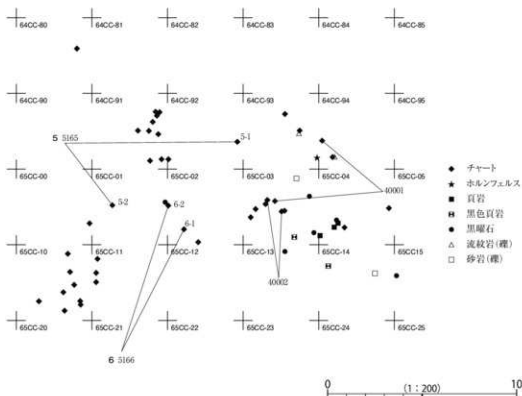


第27図 64W-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

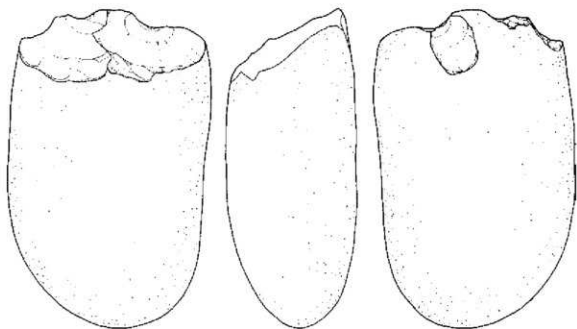
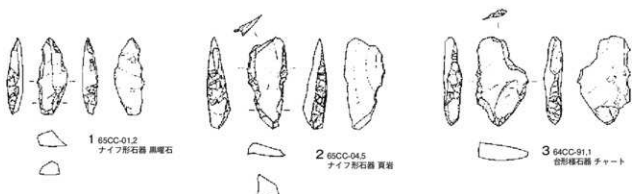
第28図 64W-Aブロック出土遺物



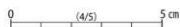
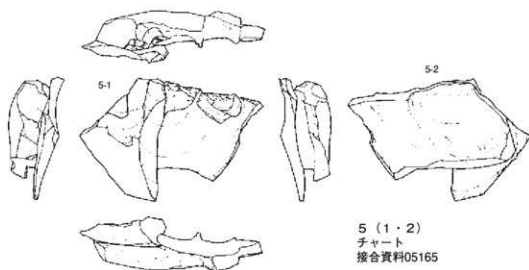
＜石材質分布＞



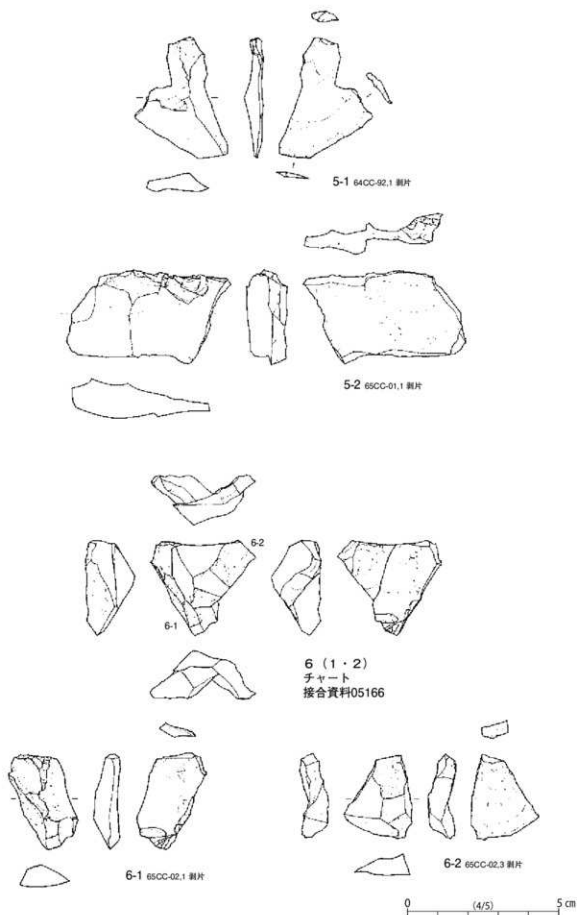
第29図 64CC-Bブロック出土遺物分布－器種別・石材別－



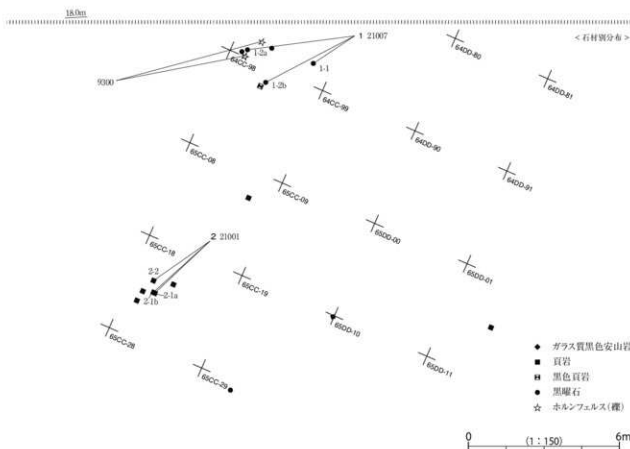
4 64CC-93.2
石核 ホルンフェルス

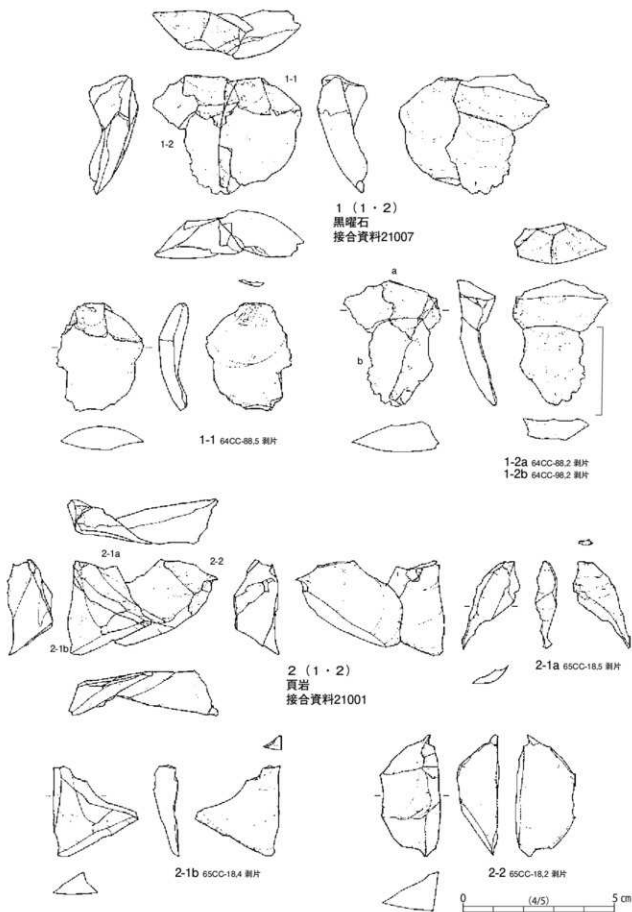


第30図 64CC-Bブロック出土遺物(1)



第31図 64CC-Bブロック出土遺物(2)





第33図 64CC-Cブロック出土遺物

9 65CC- Aブロック (第34～38図、第12表、図版3・14・15)

西側地区のはほぼ中央、65CC-25・26・34・36・36・45・46・54・63・73・83・84 グリッドに分布する。10.0 m × 18.2 m の範囲から 21 点の石器が出土した。出土層位はⅤ層で、1.43 m の高低差をもって包含される。65CC-B ブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・安山岩・流紋岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩で構成される。ナイフ形石器は頁岩で、剥片を含み頁岩が主体で、ガラス質黒色安山岩がこれに次ぐ。

1 は灰褐色と黒灰色の縞や線が入る珪化度の高い頁岩の部分加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁基部に細かい調整、右側縁上部に急角度の調整を施している。器体の下半部には自然面、同上部には稜上調整が見られる。2 は良質なチョコレート頁岩の二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁基部と右側縁全体に急角度で細かい対向調整を施している。背面には素材の剥離軸とは異なる右方向からの剥離痕が見られる。3 は灰褐色のチャートの石核である。打面と作業面を 90 度入れ替えながら、不定形な剥片を剥離している。4（接合資料 21012）はガラス質黒色安山岩の石核 2 点の接合資料である。65CC-B ブロックの 4-2 の裏面に残るポジティブと思われる剥離面から、大型の剥片を素材としたと考えた。4 から小型で不定形な剥片を 90 度転回して数枚剥離後、4-1・4-2 に欠損し、その後もそれぞれを石核として小型で不定形な剥片を剥離している。図版 15-5 は灰褐色の珪化度の高い頁岩の石刃状の縦長剥片である。剥離時に右側縁を槌状に欠損しているが、欠損面に微細な剥離痕は見られない。図版 15-6 は良質なチョコレート頁岩の剥片である。明らかに作業面と見られる剥離面はないが、全体形状や下面に残る剥離面、左側に見られる打面調整と思われる剥離痕から打面再生剥片の可能性がある。

第12表 65CC-Aブロック石器組成

石材 / 種別	大涌割	角隠れ 石割	ナイフ 形石割	巾形石 石割	彫割	透割	彫り石 石割	二次 加工	彫割 彫割	彫計	彫石込	彫石割	彫計	彫計	石割	石彫	彫石	台石	彫石	彫計	彫計合計	彫割合計 (%)		
GA															4	2					6	28.6%	155.08	37.0%
AN															1						1	4.8%	2.65	0.6%
BNH															1						1	4.8%	30.65	7.3%
CH																1					1	4.8%	38.26	9.1%
HD															3						3	14.3%	96.87	23.1%
SH			2																					
合計	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	3	0	0	0	21	100.0%	419.36	100.0%

10 65CC- Bブロック (第39～43図、第13表、図版3・15・16)

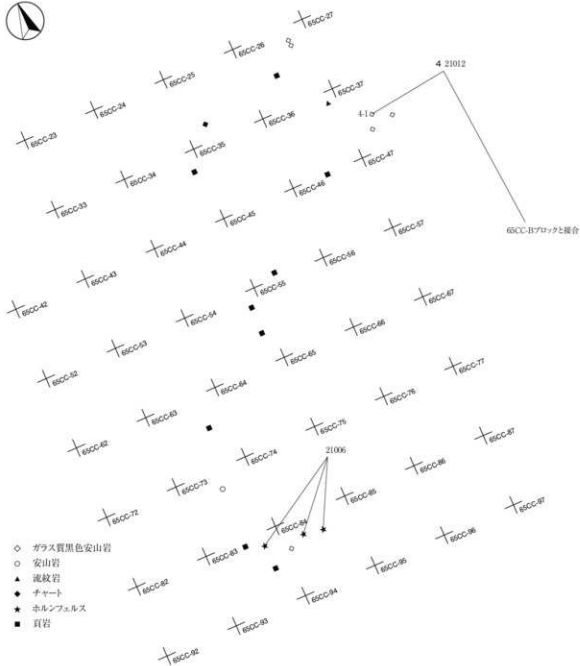
西側地区のはは中央、65CC-86・87・96～98、66CC-06～08・17グリッドに分布する。7.7 m × 11.9 mの範囲から49点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅵ層で、0.39 mの高低差をもってⅤ層を中心に包含される。65CC-Aブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、楔形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・玉髄で構成される。ガラス質黒色安山岩が主体で、頁岩がこれに次ぐ。

1は珪化度の高い灰褐色の頁岩の楔形石器である。裏面に対向する細かい剥離痕が見られることから両

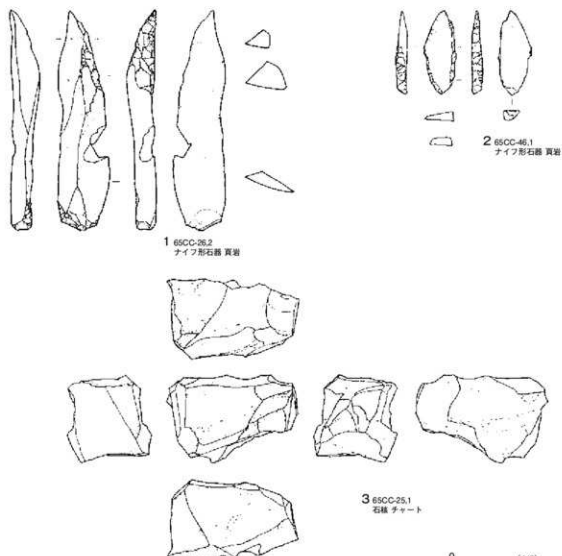


第34図 65CC-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



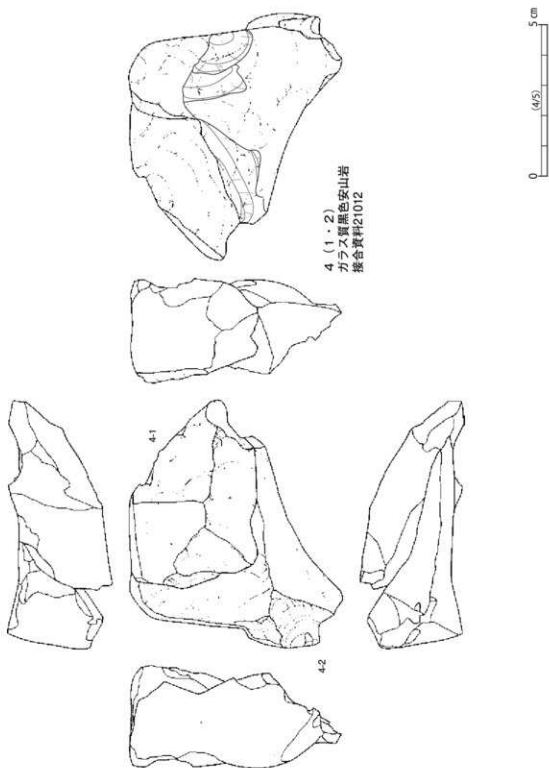
第35図 65CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

極石核の可能性が高い。2は黄粉をまぶしたような泥質のホルンフェルスの二次加工のある剥片である。表面に自然面の残る縦長剥片の左側縁に急角度の調整を施している。打面側を基部とするナイフ形石器の可能性が高い。3はガラス質黒色安山岩の石核である。大型の楕円礫を素材として、不定形な剥片を剥離している。4（接合資料21005）は黒灰色の頁岩の石核1点・剥片3点の接合資料である。大型の石核から4-1～4-3を剥離し、数枚の小型の剥片を剥離した後、4-4が剥離されている。4-1～4-3は剥離した際、4-1・4-2と4-3の2つに欠損したが、前者は上下の節理・自然面を打面として、4-3のような小型で不定形な剥片を剥離している。図版16-5は灰褐色・灰白色・灰黒色が混じる比較的真化度の高い頁岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。表面に自然面を残し、背面に残る剥離面の方向は加撃軸と同一である。火撥ねによる剥離痕に類似する痕跡が見られることから、色調の変化は被熱による可能性がある。図版16-6・7は灰白色のトロトロ石の石器である。図版16-6は表面に自然面を残す石刃状の縦長剥片、図版16-7は表面の右半分に自然面を残す縦長剥片を素材とした石核である。素材は全面が自然面の剥片であったと思われる。左側に裏面から加撃して小型で不定形な剥片を剥離している。図版16-8・9はガラス質黒

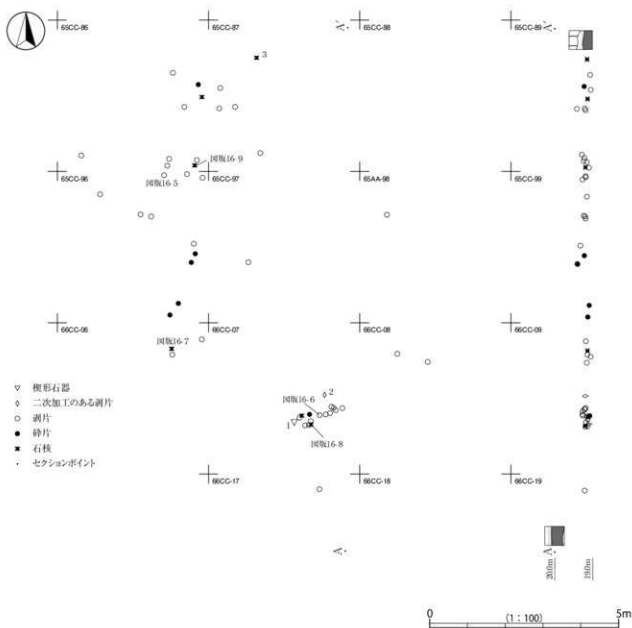


第36図 65CC-Aブロック出土遺物(1)

色安山岩の石核である。図版 16-8 は小型の角礫を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら、小型で不定形な剥片を剥離している。図版 16-9 は表面の左半分に自然面を残す縦長剥片を素材とした石核である。図版 16-7 とは逆に、表面から加撃して小型で不定形な剥片を剥離している。



第37図 65CC-Aブロック出土遺物(2)



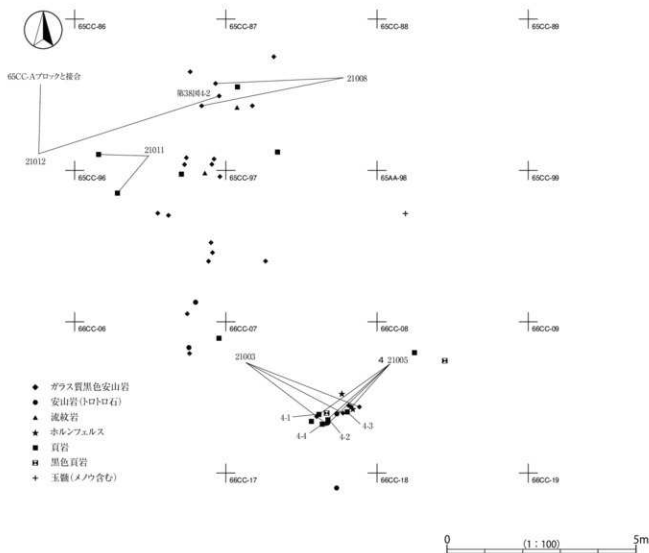
第39図 65CC-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

11 66CC-A ブロック (第4・44・45図、第14表、図版3・17)

西側地区のほぼ中央、66CC-00・01・10～12グリッドに分布する。22 m×6.0 mの範囲から8点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅶ層で、0.49 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

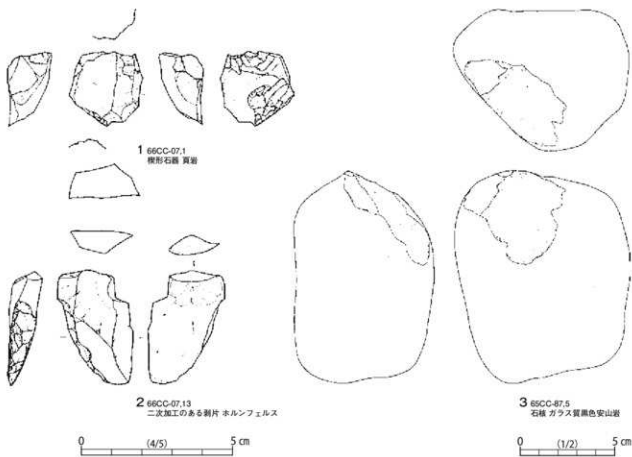
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。ナイフ形石器・石核の黒色頁岩が主体である。

1は黒色頁岩のナイフ形石器である。剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は全体に急角度の調整が行われており、特に打面部と想定される中間部は対向調整が施されている。右側縁は基部に急角度の対向調整が施されている。2は自然面が黄土色、内部が黄土色の地に黄灰色が混じ



第40図 65CC-Bブロック出土遺物分布 (2) - 石材別 -

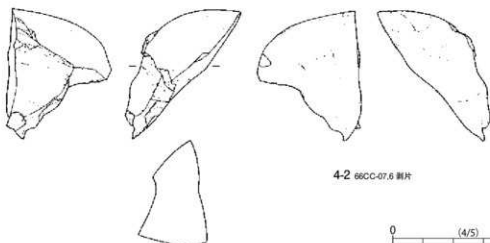
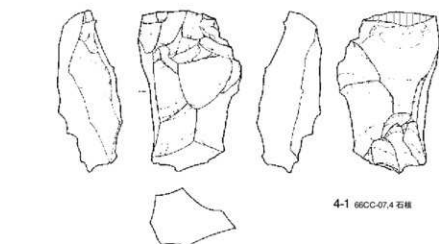
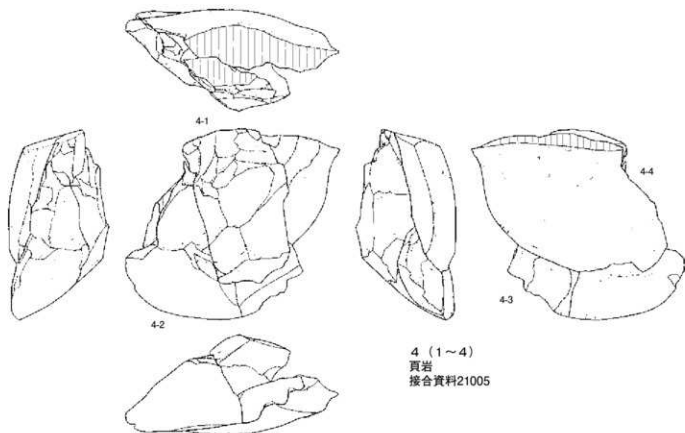
る嶺岡産と考えられる頁岩の二次加工のある剥片である。上部を欠損した縦長剥片の左側縁に調整加工を施している。なお、図では、調整加工と表現したが、左側縁の自然面の部位は稜縁が磨耗しているように見えることから剥離前の剥離痕 (自然面) の可能性が高い。また、右側縁の自然面より上の部位についても、全体的に磨耗しているように見えることから節理 (自然面) の可能性が高い。3 (接合資料 21009) は黒色頁岩の石核 1 点・剥片 1 点の接合資料である。3 の表面の左右に残るような大型の剥片、さらに 3-1 などの不定形な剥片を剥離した後、3-2 が節理で分割されている。3-2 はその後も小型で不定形な剥片を剥離している。図版 17-4 は灰白色の不純物を含み黒色と黒灰色が交互に混じる透明度のない黒曜石の剥片である。



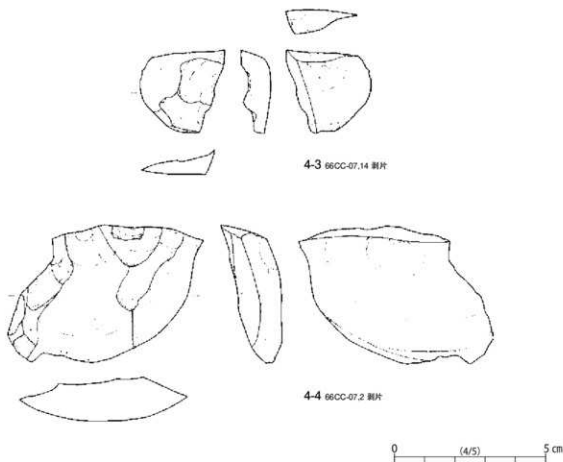
第41図 66CC-Bブロック出土遺物(1)

第14表 66CC-Aブロック石器組成

石材 / 種類	尖頭器	角縁状 石器	ナイフ 形石器	合形縁 石器	手鐲	環状 石器	二次 加工	環状 石器	割片	割石片	割石縁	割片	砕片	石核	石片	磨石	合石	磨石	環 状片	点数合計	重量合計 (g)		
GA												2								2	25.0%	7.81	18.1%
SH							1													1	12.5%	3.65	8.5%
BS			1									2		1						4	50.0%	22.09	51.2%
OB												1								1	12.5%	9.96	22.2%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	8	100.0%	43.11	100.0%



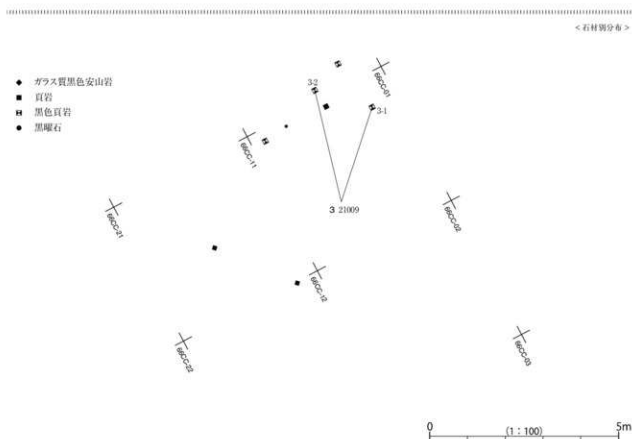
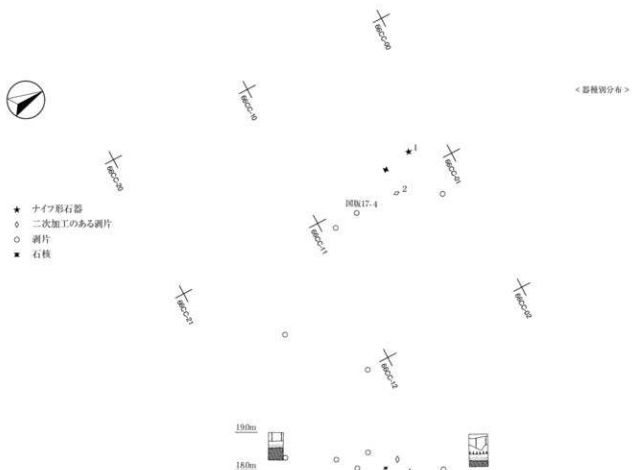
第42図 65CC-Bブロック出土遺物(2)



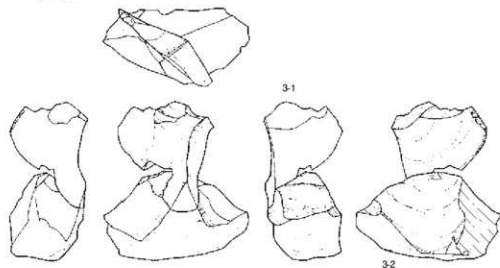
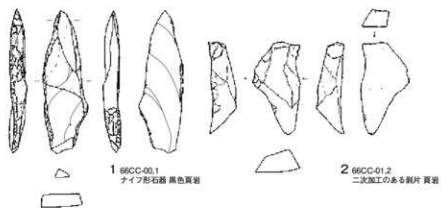
12 66CC- Bブロック (第46・47図、第15表、図版3・17)

第15表 66CC-Bブロック石器組成

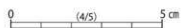
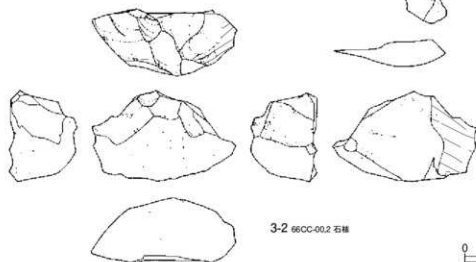
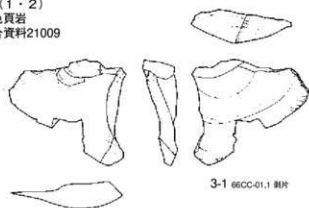
石材の種類	天然石	角閃岩	ナイフ 石目	金形目 石目	黒色 系目	緑色 系目	樹皮 石目	二次 加工	海胆 目	原片	磨石片	磨石板	荒片	砕片	石壁	石床	磨石	台石	磨石	磨 片	点数合計	重量合計 [kg]		
GA														3							3	30.0%	68.45	30.2%
PH								2													2	20.0%	75.72	33.4%
SH								1						4							5	50.0%	82.80	36.4%
合計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	10	100.0%	226.95	100.0%



第44図 66CC-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



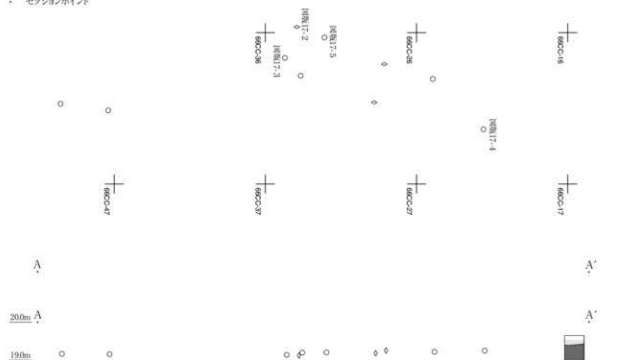
3 (1・2)
黒色頁岩
接合資料21009



第45図 66CC-Aブロック出土遺物

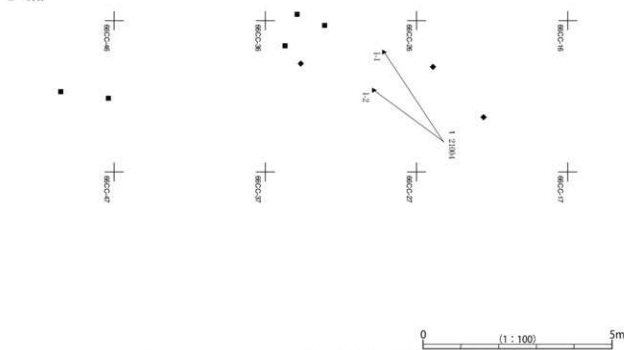
- ◇ 二次加工のある割片
- 割片
- ・ セクションポイント

< 器種別分布 >

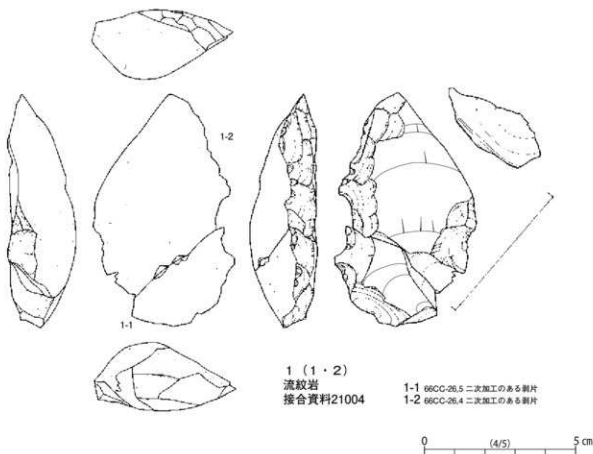


< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ▲ 流紋岩
- 頁岩



第46図 66CC-Bブロック出土遺物分布－器種別・石材別－



第47図 66CC-Bブロック出土遺物

頁岩の二次加工のある剥片である。縦長剥片の裏面の左側縁下部と右側縁上部に細かい調整加工を施している。上部は欠損している。いわゆる台形様石器などの未成品の可能性があるが、詳細は不明である。図版 17-3 は自然面が灰褐色の比較的珪化度の高いチョコレート頁岩の石刃状の縦長剥片である。上部を欠損する。図版 17-4 はガラス質黒色安山岩で、自然面を打面とする縦長剥片である。図版 17-5 は自然面が黄土色・灰白色、内部は赤灰褐色が混じる比較的珪化度の高いチョコレート頁岩の縦長剥片である。表面全体がほぼ自然面であることから、大型の礫から剥離されたものと思われる。

13 65Y-A ブロック (第 48～60 図、第 16 表、図版 3・4・18～23)

西側地区の西側、65Y-76・77・85～87・97・98、66Y-06・07・16 グリッドに分布する。128 m×17.6 m の範囲から 126 点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅵ層で、1.22 m の高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・搔器・二次加工のある剥片・微細な剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器や搔器などの利器も顕著である。石器石材は、頁岩・黒曜石で構成されるが、黒曜石が主体である。ナイフ形石器は黒曜石・頁岩で、これも前者が主体である。

1～8 は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石のナイフ形石器で、上部を欠損する 7 を除いて石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としており、1 を除いて打面側を基部としている。1～6 は二側縁

加工で、1・3・4は左刃、2・5・6は右刃である。7は基部のみの遺存で全体形状は不明である。8は左側縁全体に急角度の調整加工を施した一側縁加工のナイフ形石器である。9は上部が灰白色、下部がチョコレート色の珪化度の高い頁岩のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としており、打面側を基部としている。左側縁全体に急角度の調整加工を施した一側縁加工のナイフ形石器である。右側縁下部は三日月状の折れで、先端部もごく一部欠損している。

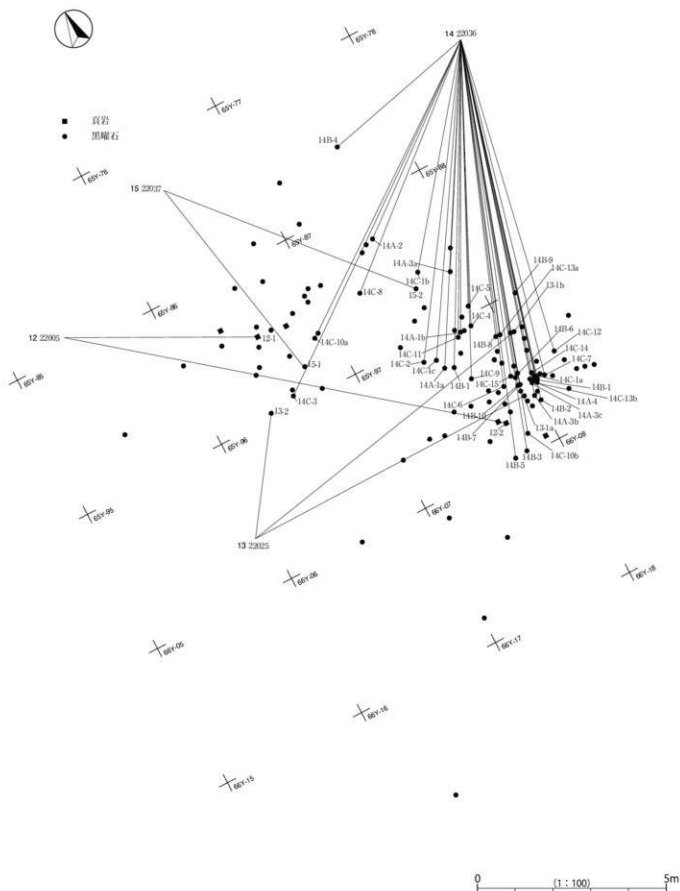
10は灰白色の不純物を含む若干白濁した半透明の信州産と考えられる良質な黒曜石の石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として、表面左側縁全体に比較的急角度の調整加工、表面右側縁上部と裏面左側縁上部に浅く薄い調整加工を行っている。また、背面に残る2つの稜の内、左側上部の稜は潰れている。彫刻刀面作出のための調整は器体中央の稜から斜め左方向に2回行われている。始めに左側縁上部に残る剥離痕に似た比較的大きな調整①を行い、続いて樋状の調整②を行っている。

11は透明な地に黒灰色の霞が混じる透明度の高い良質な黒曜石の微細剥離痕のある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として、表面右側縁の一部、裏面右側縁中間部に微細な剥離痕が見られる。

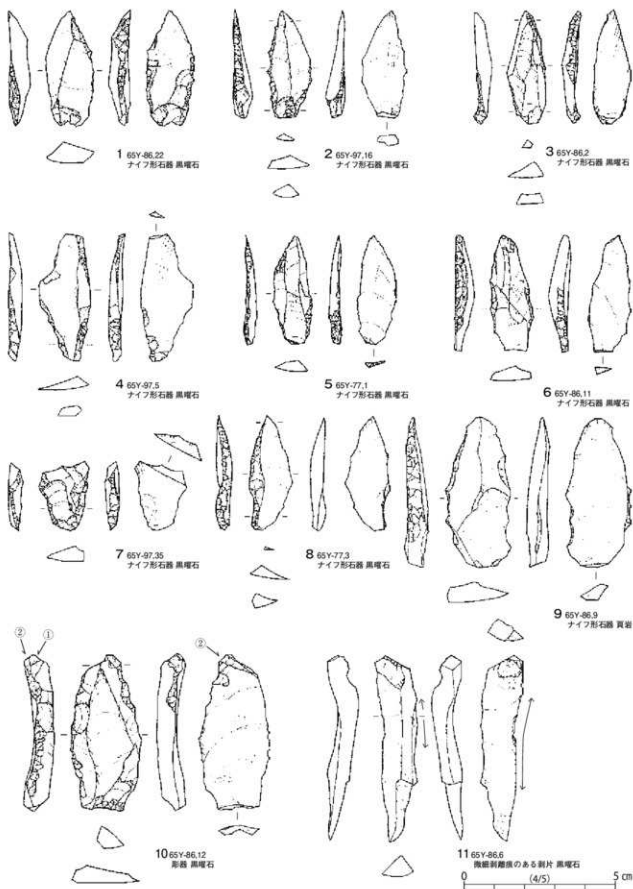
12（接合資料22005）は珪化度の高いチョコレート頁岩の二次加工のある剥片1点・剥片1点の接合資料である。12-1は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の右側縁下部にプランティング状の細かい調整加工を施している。12-2は12-1と同一打面の石核から剥離された石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。両者とも頭部調整が顕著である。

13（接合資料22025）は表面全体が白濁した不透明で良質な黒曜石の石刃あるいは石刃状の縦長剥片3点（2個体）の接合資料である。13-1は上下に欠損している。13-2は13-1と同一打面の石核から剥離された石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。末端は欠損している。両者の下部には稜上調整の可能性のある細かい剥離痕が見られる。

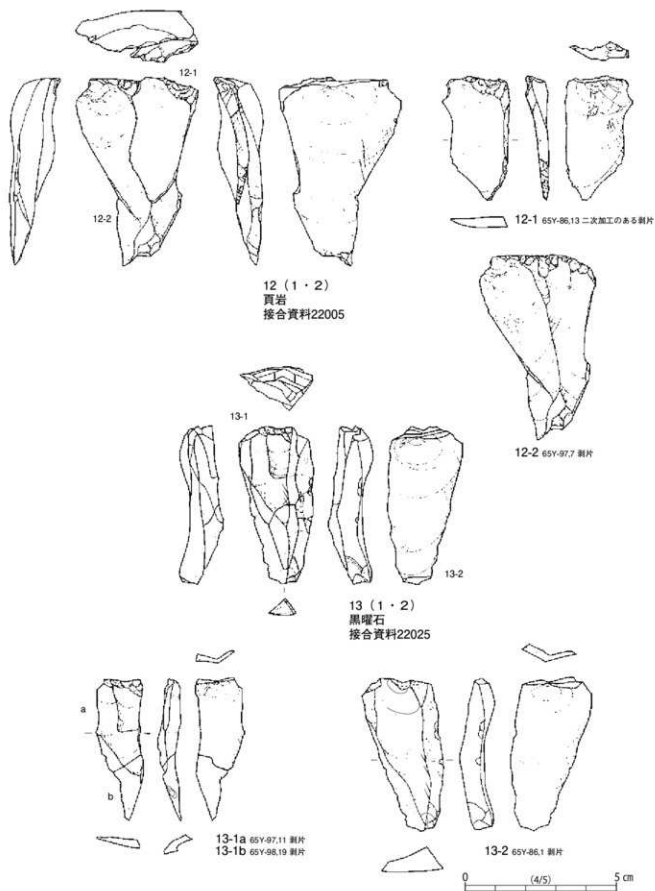
14（接合資料22036）は表面全体が白濁しているが信州産と考えられる不透明で良質な黒曜石の石核4点・剥片32点（25個体）の接合資料で、14Aは石核1点・剥片6点（3個体）、14Bは石核1点・剥片9点、14Cは石核2点・剥片17点（13個体）である。14A・14B・14Cのそれぞれに石核を含むことから3つの工程に分けたが、大きく14A・Bと14Cに2分される。比較的大型で縦長の楕円礫を素材として、14A-1を剥離し、14A-2～14A-4を剥離した後、この縦長剥片を素材として、14A-2を剥離して打面を作出し、14A-3などの縦長剥片を剥離している。14Aの剥離後も14Bを剥離し、14Cの打面を作出している。14B-1～14B-3・14B-5の一部に同一のポジティブな剥離面が見られる。比較的厚みのある大型の剥片である14Bを素材として、14B-1～14B-9の石刃状の縦長剥片や不定形な剥片を剥離している。なお、本ブロックには、接合しなかったが、わずかにポジティブな剥離面を残す同一母岩の可能性のある剥片が数点ある。しかし、それらを含めたとしても1/3ほどは空白となり、サンプリングエラーがなければ、他のブロックに持ち出されていると考えられる。14Cは大きく①（14C-1～14C-3）、②-1（14C-4～14C-7）・②-2（14C-8～14C-11：石核1点含む）、③（14C-12～14C-15：石核1点含む）の3つの工程に分けられる。まず、14Bの剥離により作出された打面に大きく平坦な打面調整を行い、14C-1～14C-3の不定形な剥片を剥離している。14C-3には大きくポジティブな剥離面が残っており、この段階で①と②・③に分割されたことが分かる。次に②-1（14C-4～14C-7）の縦長剥片が剥離され、その後、14C-8により打面を作出し、②-2（14C-8～14C-11）の個体で縦長剥片などが剥離されている。また、③（14C-12～14C-15）の個体



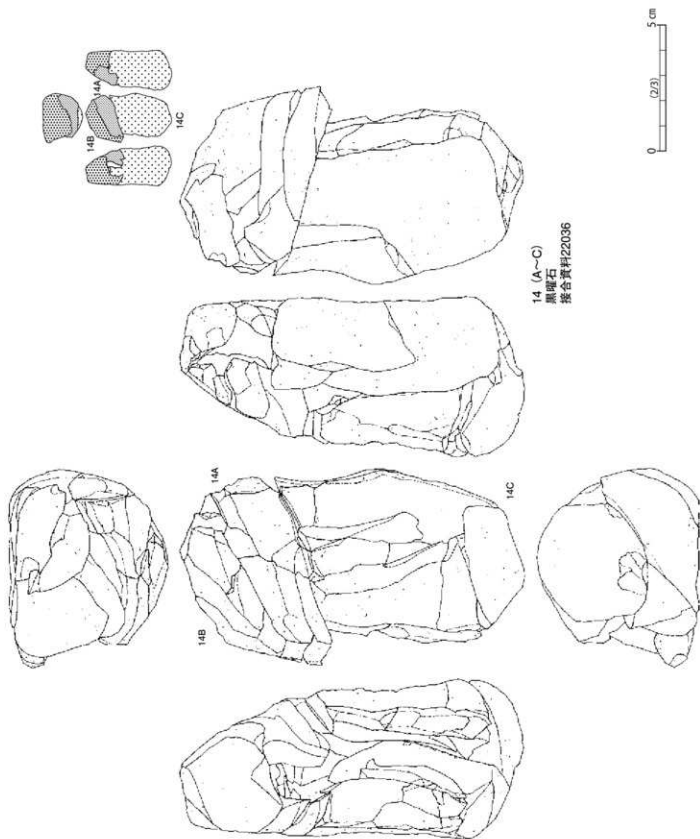
第49図 65Y-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



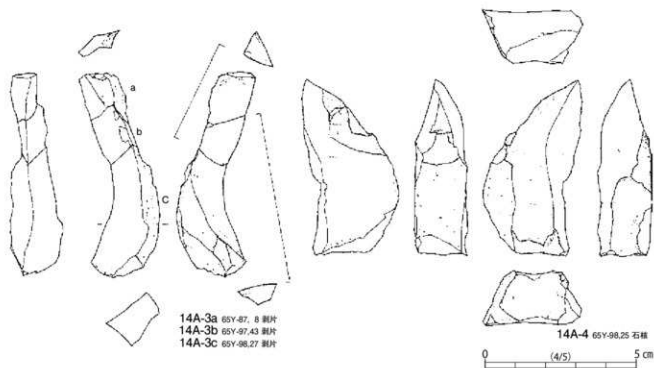
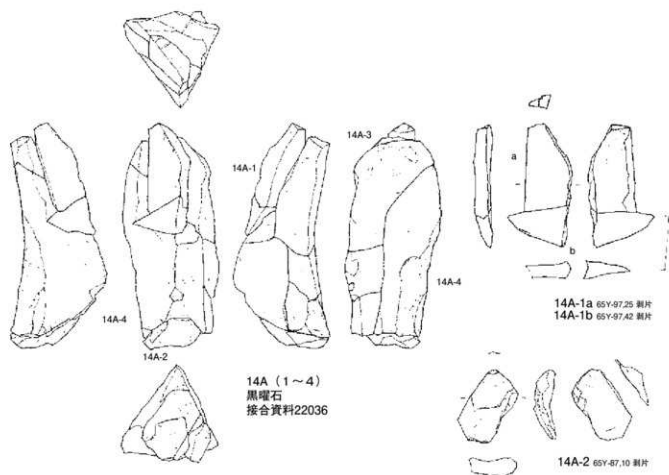
第50図 65Y-Aブロック出土遺物(1)



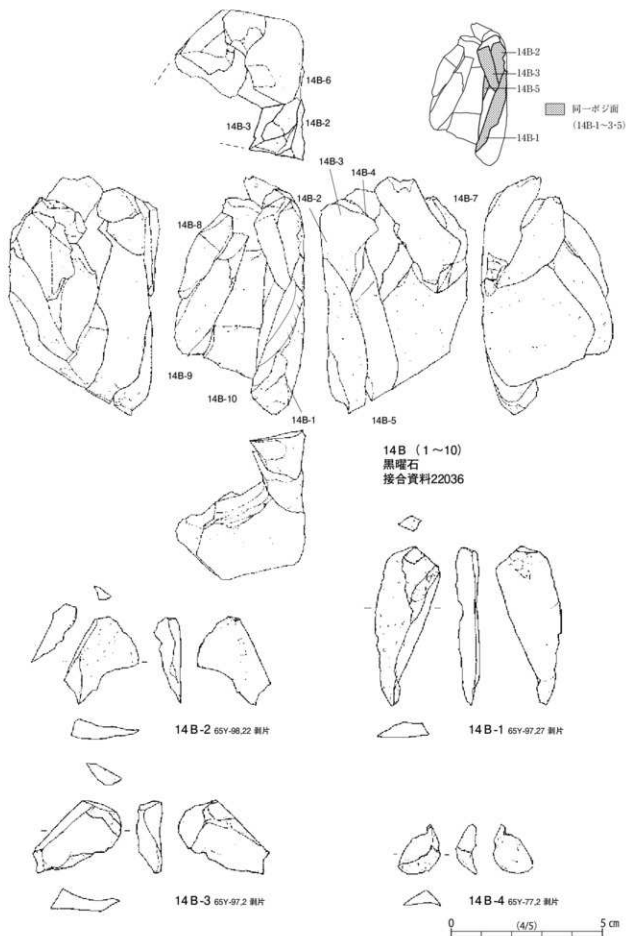
第51図 65Y-Aブロック出土遺物(2)



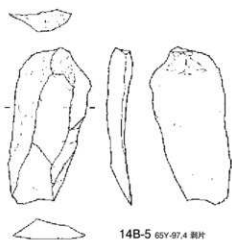
第52図 65Y-Aブロック出土遺物(3)



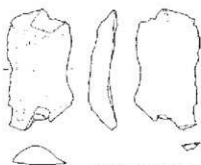
第53図 65Y-Aブロック出土遺物(4)



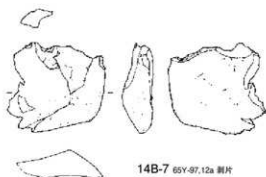
第54図 65Y-Aブロック出土遺物(5)



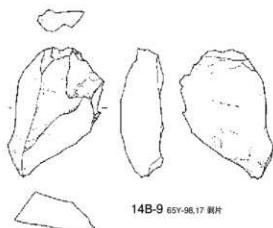
14B-5 65Y-97.4 剥片



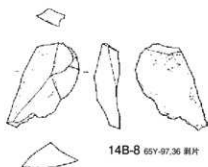
14B-6 65Y-97.39a 剥片



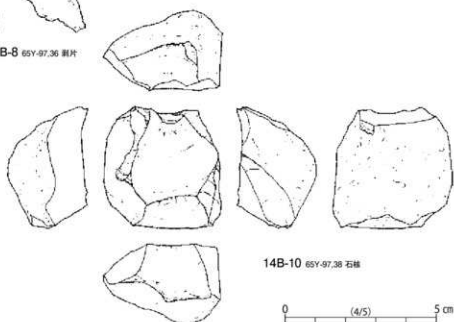
14B-7 65Y-97.12a 剥片



14B-9 65Y-98.17 剥片



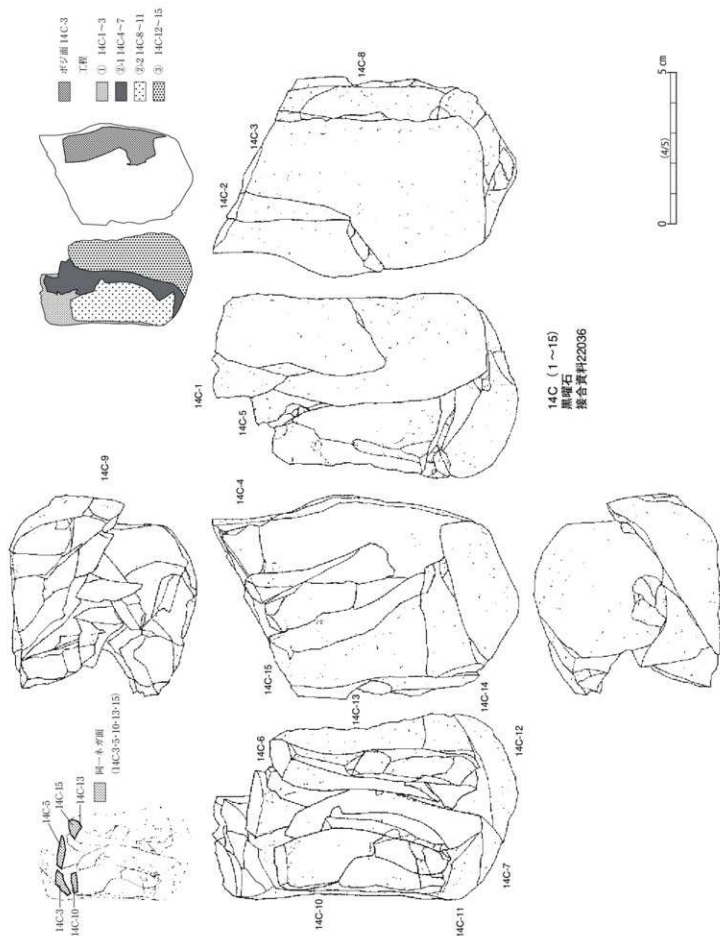
14B-8 65Y-97.36 剥片



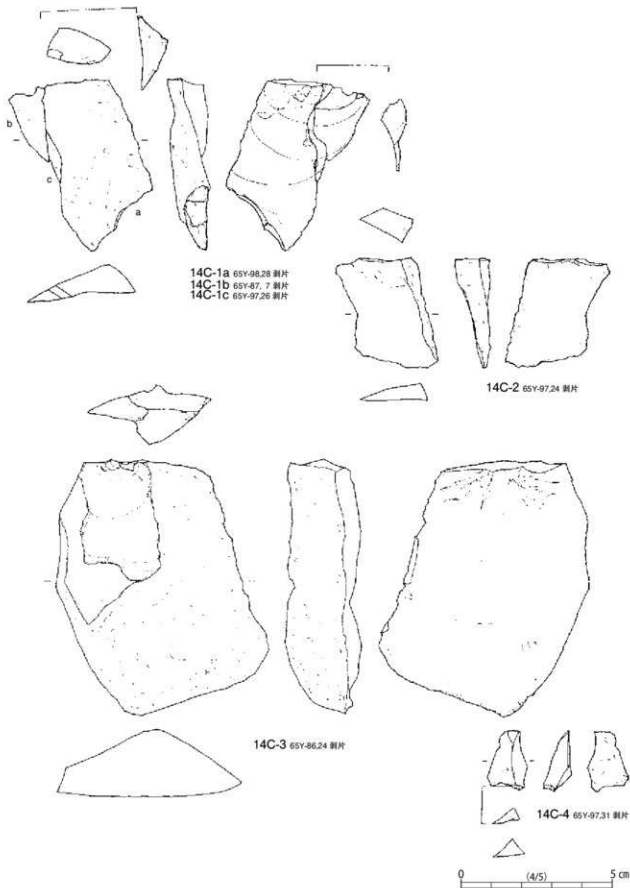
14B-10 65Y-97.38 石核



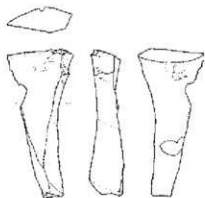
第55図 65Y-Aブロック出土遺物(6)



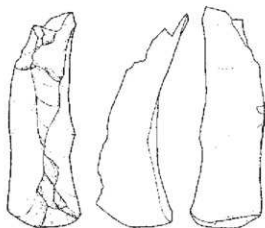
第56図 65Y-Aブロック出土遺物 (7)



第57図 65Y-Aブロック出土遺物(8)



14C-5 65Y-87, 1 割片



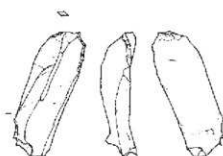
14C-7 65Y-98.21 割片



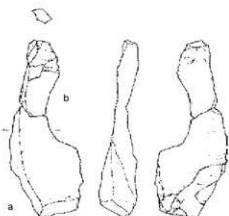
14C-6 65Y-87.32 割片



14C-8 65Y-87.13 割片



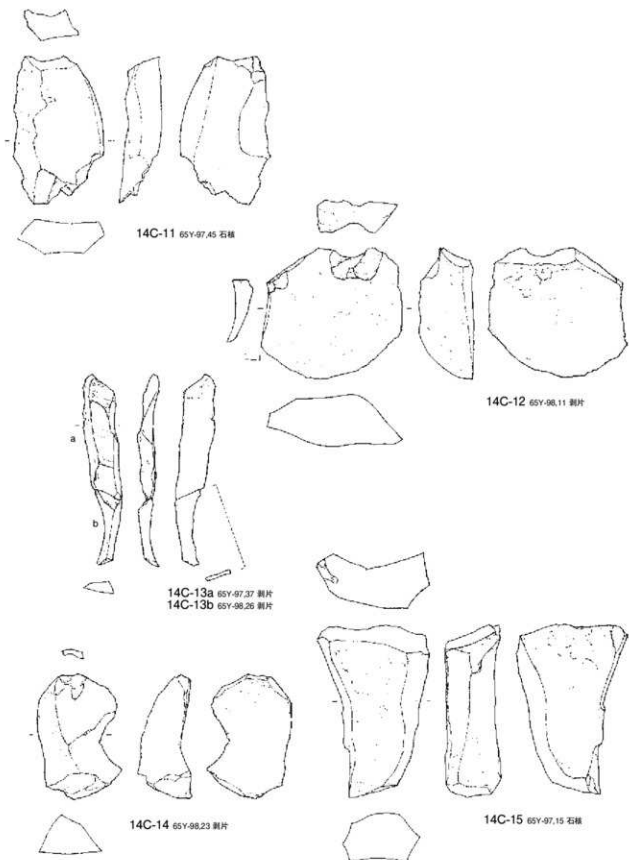
14C-9 65Y-87.28 割片



14C-10a 65Y-86.23 割片
14C-10b 65Y-87, 3 割片



第58図 65Y-Aブロック出土遺物(9)



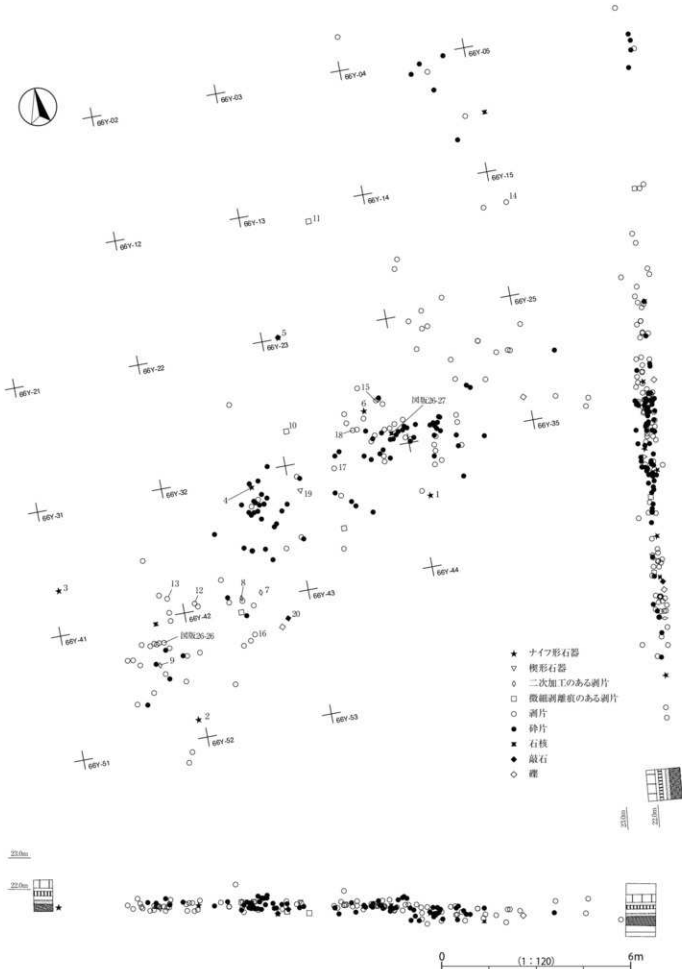
第59図 65Y-Aブロック出土遺物 (10)

14 65Y-Bブロック (第61～69図、第17表、図版3・4・23～26)

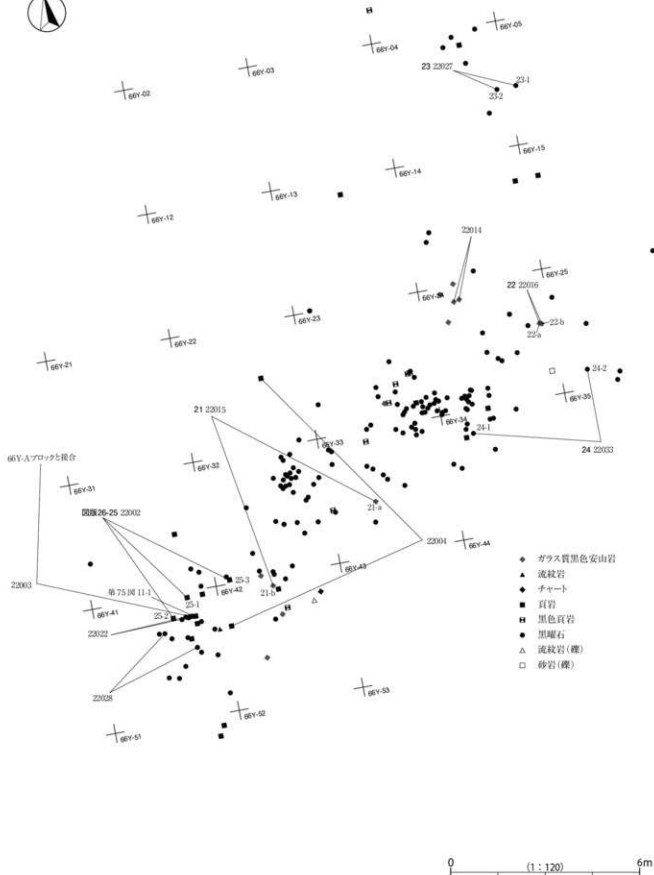
西側地区の西側、65Y-04、66Y-04・05・13～15・22～25・31・32～34・41・42・51グリッドに分布する。23.4 m×9.8 mの範囲から197点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はⅠ層～Ⅲ層で、1.24 mの高低差をもってⅠ層を中心に包含される。66Y-Aブロックとブロック間接合がある。

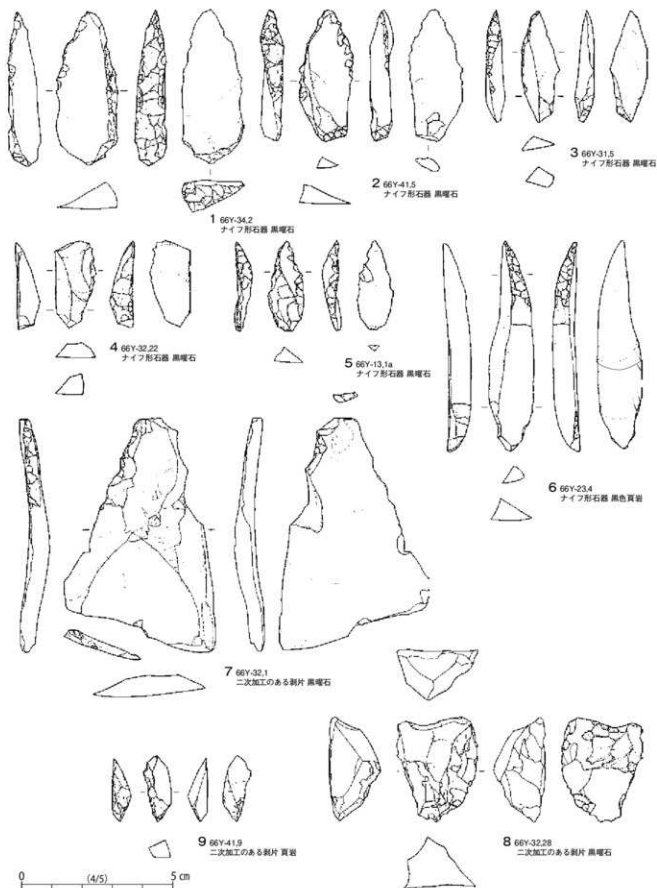
石器器種は、ナイフ形石器・楔形石器・二次加工のある剥片・微細な剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。65 Y-Aブロック同様、剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も顕著である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・チャート・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成される。石器の器種組成は65 Y-Aブロックと同様であるが、石材組成については、黒曜石が主体であることは変わらないが、65 Y-Aブロックと異なり、他の石材が客体的に伴っている。

1・2・4は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る良質な黒曜石、3・5は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材としている。1を除いて打面側を基部としており、2・5は打面を残している。1・2・4は一側縁加工、3は左側縁上半が裏面、右側縁下半が表面からの錯向剥離による部分加工、5は左側縁全体と右側縁下部に細かい調整を施した二側縁加工のナイフ形石器である。5の右側縁上部については、細かい剥離痕が見られ、この加工により先端部が対称になることから調整の可能性もあるが、多少ノッチ状であること、裏面側に伴うことが多い縦溝状の剥離痕が見られることから使用による剥離と考えた。それから、1の左側縁全体、4・5の一部に対向剥離が見られる。6は黒灰色の黒色頁岩の部分加工のナイフ形石器である。打面側を先端部としている。右側縁上部は対向剥離、左側縁下部は稜上から調整が施されている。7・8は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る透明度のある良質な黒曜石の二次加工のある剥片である。7は表面左側縁上部と裏面右側縁上部に細かい調整が施されており、表面左側縁下半部には微細な剥離痕が見られる。また、裏面右側縁中央の大きな剥離痕は製作時の欠損と考えられる。8は裏面側の上部を中心に比較的大きな調整が施されている。石核あるいは楔形石器の可能性もある。9は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の二次加工のある剥片である。二側縁あるいは左側縁の一側縁加工のナイフ形石器の可能性もある。10・11は微細剥離痕のある剥片である。10は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る透明度のある黒曜石で、稜付石刃状の縦長剥片の両面両側に微細な剥離痕が見られる。11は黄灰色で珪化度の高い良質な頁岩で、両面ともポジティブな不定形な剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。12～18は石刃あるいは石刃状の剥片である。12・13は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石で、12は透明な地に黒灰色の縞が入り、13は薄墨を流したような石材である。14はチョコレート色を主体とし、下部が黄灰色の珪化度の高い良質な頁岩である。15～17は黒色頁岩で、16の背面の剥離方向は打撃方向とは逆である。18はガラス質黒色安山岩で、稜上調整が見られることや自然面が残っていることから、初期の段階で剥離された稜付石刃の可能性もある。19は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが全体を占める透明度のある良質な黒曜石の楔形石器である。裏面側の両端に対向する剥離痕が見られる。20は黄黒色のチャートの敲石としたが、下部の打撃痕は自然面の可能性があり、何らかの原石かもしれない。21・22はガラス質黒色安山岩の石器である。21(接合資料22015)は微細剥離痕のある剥片2点(1個体)の接合資料である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の両面の左側縁の下部と裏面右側縁上部に細かい剥離痕が見られる。下部部は石核の底面である。22(接合資料22016)は石刃あるいは石刃状の縦長剥片2点(1

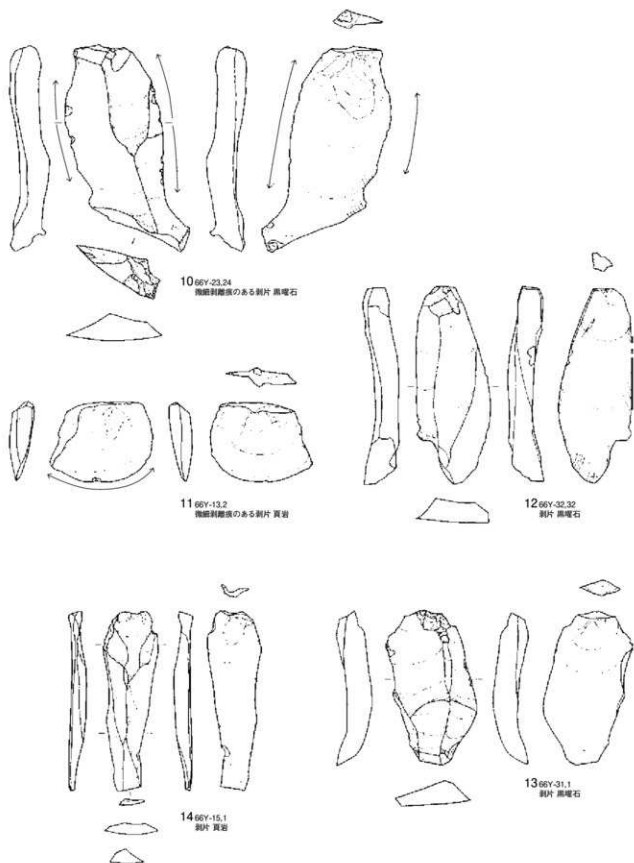


第61図 65Y-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

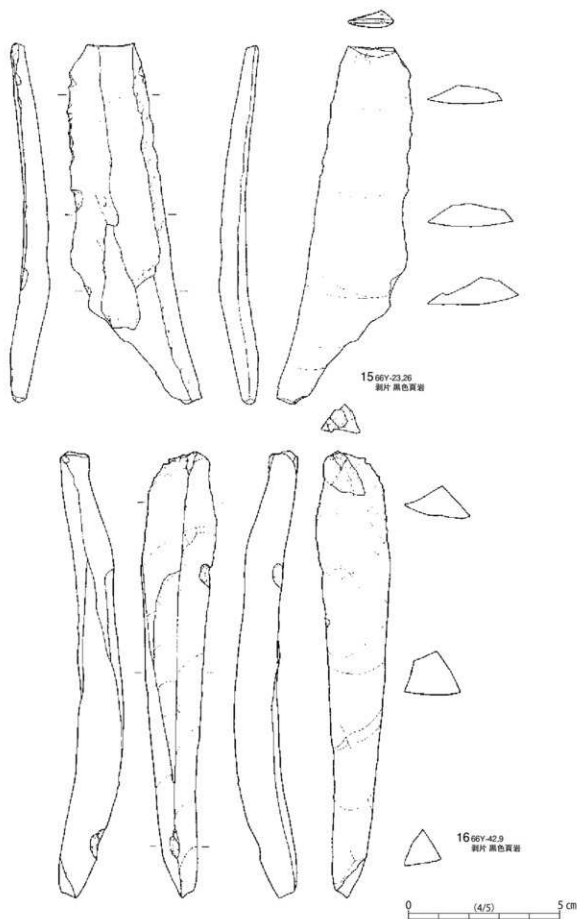




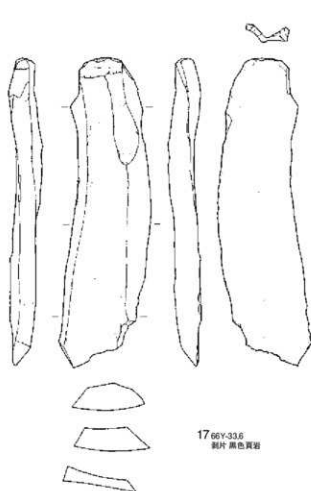
第63図 65Y-Bブロック出土遺物(1)



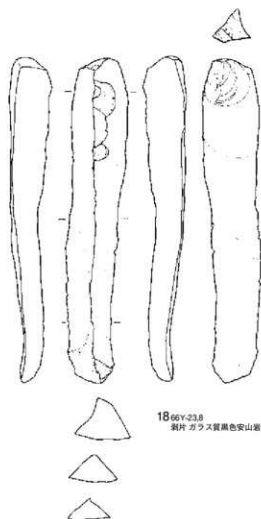
第64図 65Y-Bブロック出土遺物(2)



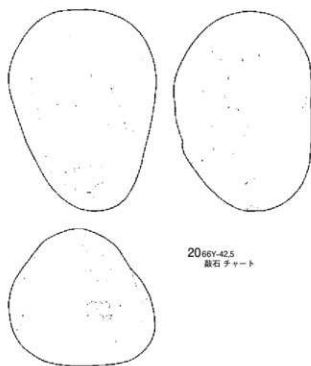
第65図 65Y-Bブロック出土遺物（3）



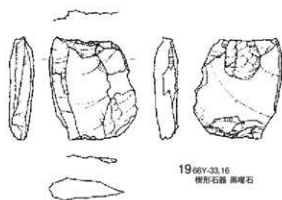
17 66Y-33.6
割片 黒色頁岩



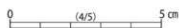
18 66Y-23.8
割片 ガラス質黒色安山岩



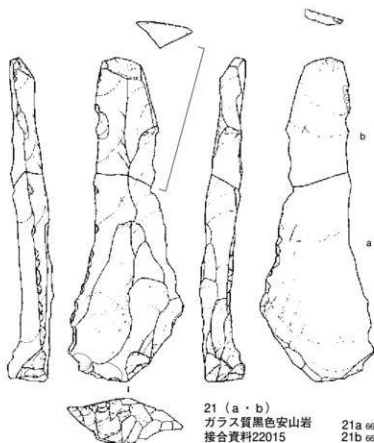
20 66Y-42.5
敷石 チャート



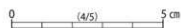
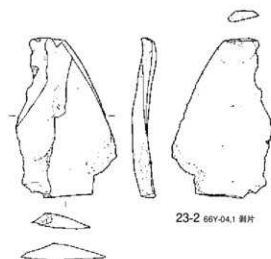
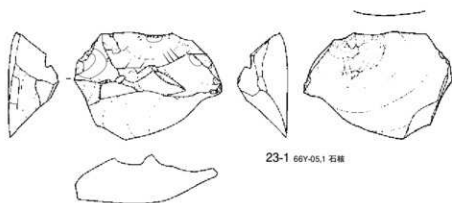
19 66Y-33.16
楔形石器 黒曜石



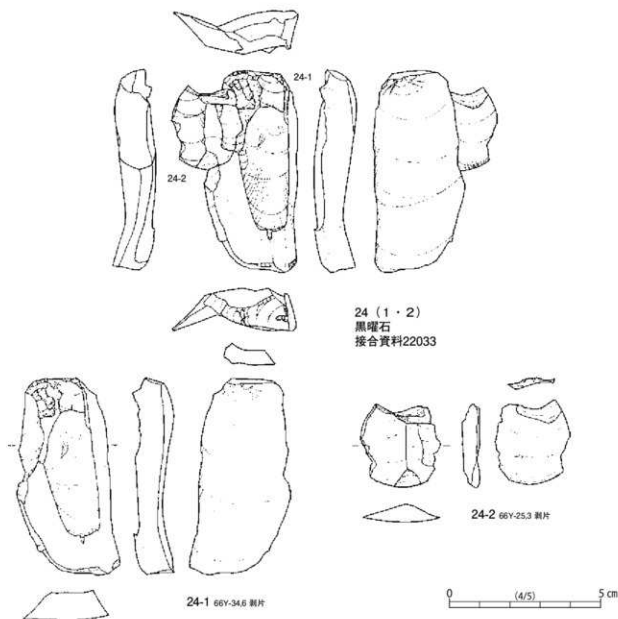
第66図 65Y-Bブロック出土遺物(4)



第67図 65Y-Bブロック出土遺物(5)



第68図 65Y-Bブロック出土遺物(6)



第69図 65Y-Bブロック出土遺物(7)

個体)の接合資料である。23・24は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤあるいは縞が入る透明度のある良質な黒曜石の接合資料である。23(接合資料22027)は石核1点・剥片1点の接合資料である。23-1は素材の主要剥離面を打面として、不定形な剥片を2点ほど剥離している。24(接合資料22033)は剥片2点の接合資料である。24-1は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。図版26-25(接合資料22002)は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。比較的大型の剥片を素材として、不定形な剥片を剥離した後、図版26-25-2の剥離で打面を再生して不定形な剥片を剥離し、さらに打面を調整している。なお、図版26-25-3は素材の主要剥離面を打面として剥離されており、図版26-25-1に残る作業面の主要な打撃方向とは異なる。図版26-26は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の不定形な剥片である。図版26-27は信州産と考えられる不透明な黒曜石の石核で、それほど大きくない縦長の角礫を素材として、打面調整や頭部調整を行いながら縦長剥片を剥離している。

第17表 65Y-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角張状 石	ナイフ 形石	台形 石	斧頭	鐮	磨製 石	二次 加工	剥片	細石刀	細石棒	剥片	砕片	石核	石片	磨石	台石	磨石	磨片	点数合計	重量合計		
GA								2				11								13	6.5%	123.55	8.0%
RH												1								1	0.5%	5.68	0.4%
CH																1				1	0.5%	198.79	12.8%
SH								1	1			15	3	1						21	10.6%	138.73	8.9%
BS			1									7								8	4.0%	163.79	10.6%
OB			5				1	2	1			63	79	2						153	76.9%	374.02	24.1%
RHR																			1	1	0.5%	335	21.6%
SAR																			1	1	0.5%	210.88	13.6%
合計	0	0	6	0	0	0	1	3	4	0	0	97	82	3	0	1	0	0	2	199	100.0%	1550.44	100.0%

15 66Y-Aブロック (第70～75図、第18表、図版3・4・27～29)

西側地区の西側、66Y-18・19・27～29・36～39・46～48・58、66Z-02・10・20・31グリッドに分布する。23.8 m × 16.1 mの範囲から110点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅲ層で、1.18 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。65Y-Bブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。本ブロックも65Y-A・Bブロック同様、剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も顕著である。石器石材は、トロトロ石・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、砂岩・チャートである。石器の器種組成は65Y-Aブロックと同様であるが、石材組成については、65Y-Bブロックに近く、黒曜石が主体であることは変わらないが、他の石材が客体的に伴っている。礫・礫片が伴うことも共通する。

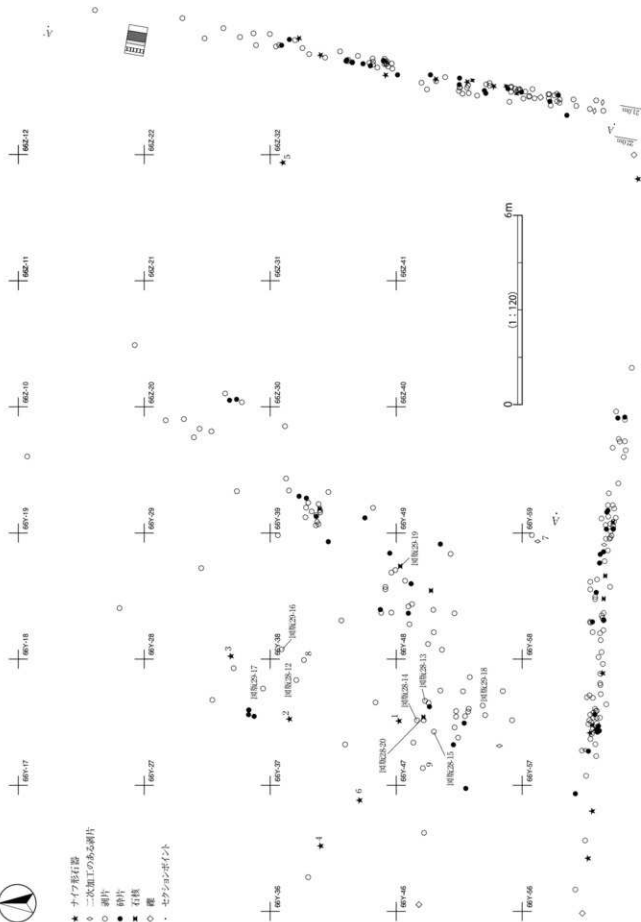
1～3・6は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石で、1・3は透明な地に黒灰色のモヤが入り、2・6は透明な地に黒灰色の縞が入るナイフ形石器である。すべて、打面側が基部で石刃状の縦長剥片を素材としている。1は左側縁と右側縁下部に調整を施した二側縁加工で、さらに裏面基部加工が施されている。2は左側縁の上半の調整加工と下半の自然面、右側縁下部に調整を施した二側縁加工で、裏面右側縁の一部にも調整加工が見られる。3は両側縁の下部と裏面左側縁の下部にも調整加工が見られる基部加工で、両側縁の上・下半に微細な剥離痕が見られる。6は先端部のみの遺存で、左側縁に細かい調整加工を行っている。4はトロトロ石、5は黒色頁岩のナイフ形石器である。両者とも打面側が基部で、石刃状の縦長剥片を素材としている。4は左側縁と右側縁下部に調整を施した二側縁加工、5は上半を欠損しており、右側縁下部に細かい調整加工を行っている。7は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の二次加工のある剥片である。縦長の折断剥片の折面を打面として大きめの調整加工を行っているが、小型で不定形な剥片を剥離した石核の可能性が高い。右側縁に細かい剥離痕、左側縁に微細な

第18表 66Y-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器 石核	角張状 石核	ナイフ 形石核	台形 石核	斧頭	鐮	磨製 石核	二次 加工	剥片	細石刀	細石棒	剥片	砕片	石核	石片	磨石	台石	磨石	磨片	点数合計	重量合計 [g]		
TO			1																	1	0.9%	2.05	0.3%
SH								1				27	3	1						32	28.6%	182.93	27.9%
BS			1																	1	0.9%	2.95	0.4%
OB			4					1				52	16	3						76	67.9%	305.23	46.6%
SAR																			1	1	0.9%	20.15	3.1%
CHR																			1	1	0.9%	142.25	21.7%
合計	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	79	19	4	0	0	0	0	2	112	100.0%	655.96	100.0%



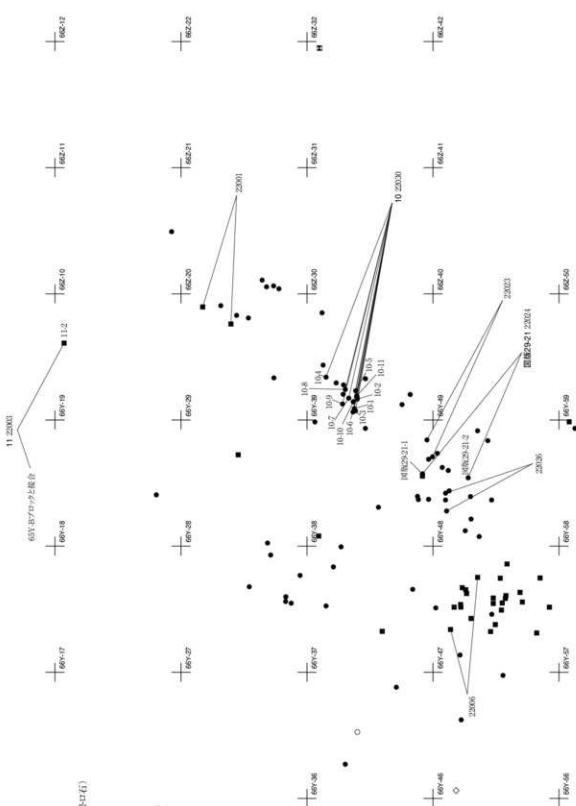
- ★ ナイフ形石器
- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- ✕ 石核
- ◇ 礫
- ・ セクションポイント



第70図 66Y-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

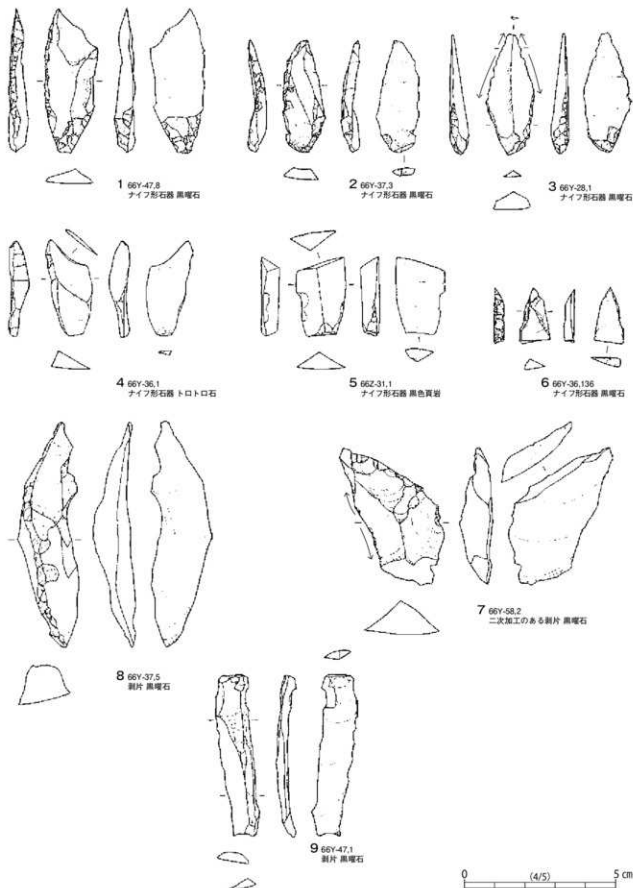


- 安山岩 (ノロノロ石)
- 頁岩
- 黑色頁岩
- 黒曜石
- 砂岩 (礫)
- ◇ チャート (礫)

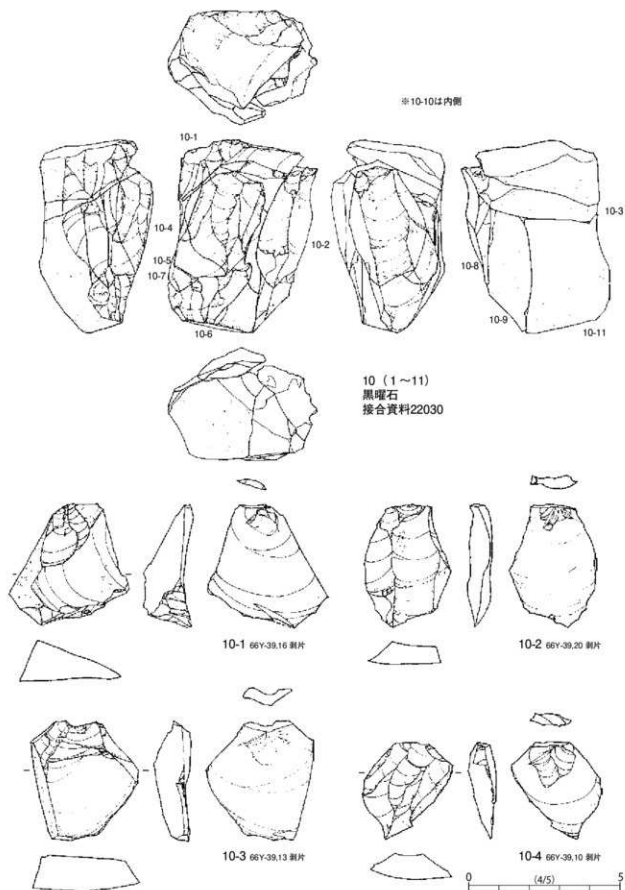


第71図 66Y-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

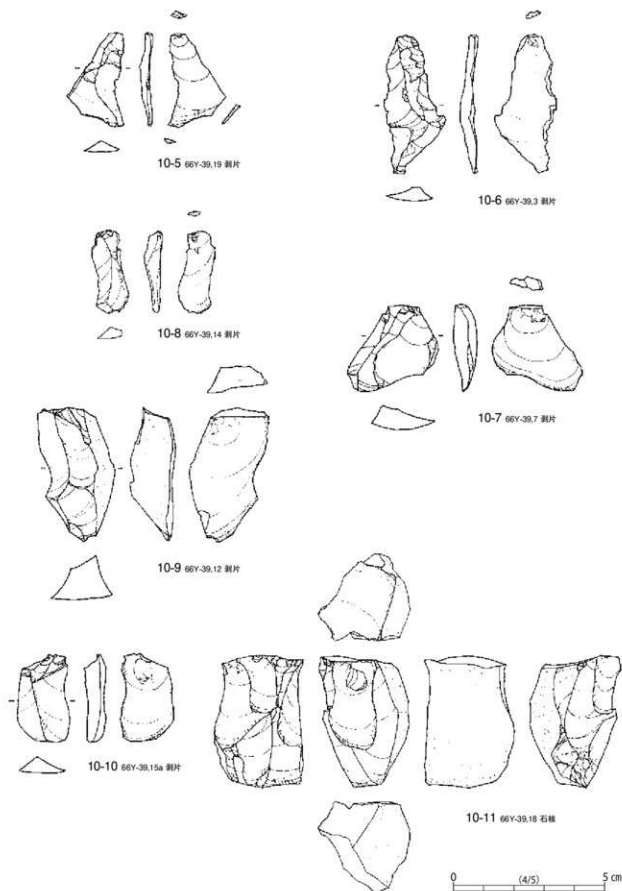




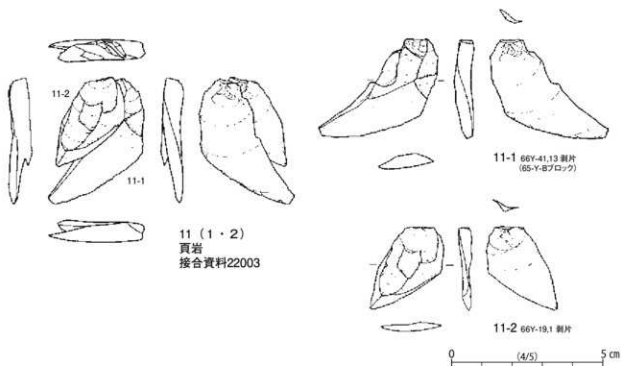
第72図 66Y-Aブロック出土遺物(1)



第73図 66Y-Aブロック出土遺物(2)



第74図 66Y-Aブロック出土遺物(3)



第75図 66Y-Aブロック出土遺物(4)

剥離痕が見られる。8・9は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石の剥片で、8は薄墨を流したような稜付石刃である。9は灰色と黒灰色の縞が入る石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。10（接合資料 22030）は信州産と考えられる薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の石核1点・剥片10点の接合資料である。10-1を剥離して打面を再生し、打面調整を行いながら、10-2など数枚の剥片を剥離後、再び10-3を剥離して打面を再生している。その後は10-3の剥離によって作成された平坦な剥離面を打面として、10-4→10-5→10-6→10-7を剥離後、10-8→10-9や10-10を剥離している。本個体では、打面を複数回再生しながら、単設打面の石核10-11からやや縦長の不定形な剥片を剥離している。11（接合資料 22003）は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の剥片2点の接合資料で、両者とも軸のずれた不定形な剥片である。65Y-Bブロックの11-1と本ブロックの11-2がブロック間接合である。図版 28-12、29-17-19-21は信州産と考えられる良質な黒曜石で、図版 28-12は濃赤褐色、図版 29-19は漆黒、図版 29-17は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入り、図版 29-21は薄墨を流したような黒曜石である。図版 28-13～16・18、図版 29-20は珪化度の高い良質な頁岩で、図版 28-13、図版 29-16はチョコレート色、図版 28-14・15・20は灰白色、図版 18は緑灰色・灰褐色である。図版 28-12～14は石刃あるいは石刃状の縦長剥片、図版 28-15は不定形、図版 29-16は横長剥片、図版 29-17・18は縦長剥片、図版 29-19は不明である。図版 29-17の打面は線状で打撃時の衝撃により、裏面側は大きく剥離（落）している。図版 29-18の末端は石核の底面と思われる。図版 29-20は打面と作業面を転移しながら、小型で不定形な剥片を剥離している。被熱によると考えられる剥落の痕跡が見られる。図版 29-21（接合資料 22030）は石核1点・剥片1点の接合資料である。比較的大型の縦長剥片を素材として、素材の末端の折面と思われる平坦な面を打面として図版 29-21-1などの小型で不定形な剥片を数枚剥離した後、素材の打面側を調整して、新たに打面を出して小型で不定形な剥片を剥離した後、図版 29-21-2の石核が廃棄されている。

16 66X-Aブロック (第76図、第19表、図版4・29)

西側地区の西側、66X-61・62・70・71・81 グリッドに分布する。3.7 m×7.9 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅨc層で、0.22 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、台形楕石器・剥片・砕片・石核・打製石斧で構成される。台形楕石器・打製石斧が伴うことが特徴で、剥片等も少数である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。石材組成については、黒曜石の台形楕石器、ホルンフェルスの打製石斧も含め、頁岩以外は単独石材である。

1 は信州産と考えられる透明な地に黒色のモヤが入る良質な黒曜石の台形様石器である。横長剥片を横位に用い、表面の両側縁に細かい調整加工、裏面の左側縁全体と右側縁下半部に細かい調整加工、同下半部に器体中央を超えるような大きな平坦な調整加工を施している。先端部の中央には衝撃剥離によく見られる発生部が折り曲げて浅い縦溝状剥離を複合する剥離痕、先端部の両面には微細な剥離痕が見られる。

2 は比較的硬質で泥質のホルンフェルスの打製石斧である。裏面に自然面を全面に残す比較的薄手の縦長剥片を素材として、表面の左側縁の一部と右側縁の中央部に細かい調整、裏面の刃部を除く全周に比較的大きく平坦な調整、刃部には裏面と同様の細かい調整を行っている。

図版 29-3 は黒色頁岩の石核である。裏面に素材の主要剥離面を残している。打面と作業面を転移しながら様々な方向から小型で不定形な剥片を剥離している。

第19表 66X-Aブロック石器組成

石材 / 産地	天然石 花崗岩	天然石 大理石	人工石 化粧石	合成材 花崗岩	天然石 花崗岩	天然石 花崗岩	二次 加工	陶器 製品	磁器 製品	板石	砂岩	花崗岩	石英 石	珪藻土	合成 樹脂	複合材	その他	備考	点数合計	重量合計 [kg]		
GA												1						1	9.1%	7.56	3.4%	
CH																		1	9.1%	15.34	6.9%	
HO														1				1	9.1%	100.92	45.4%	
SH											5	1						6	54.5%	62.06	27.9%	
BIS													1					1	9.1%	25.38	11.4%	
OIB				1														1	9.1%	10.87	4.9%	
合計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	1	1	1	0	0	0	11	100.0%	222.13	100.0%

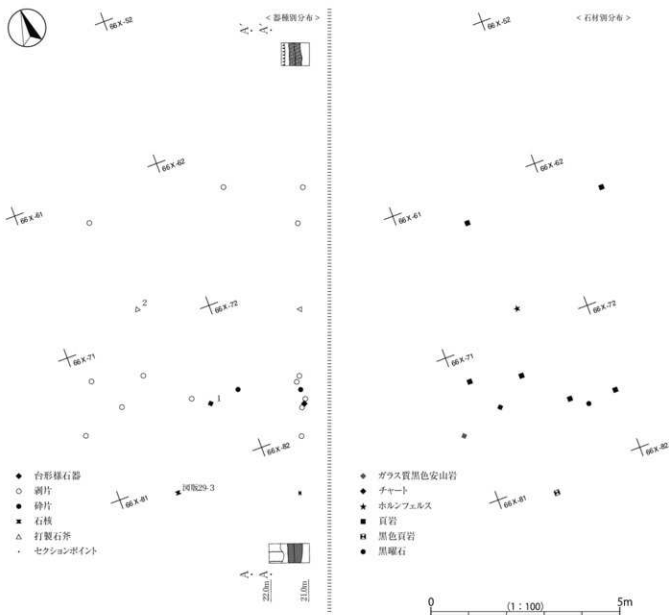
17 67BB- Aブロック (第78・79図、第26表、図版4・30)

西側地区の中央南側、67BB-74・84・85グリッドに分布する。1.6 m × 3.9 mの範囲から15点の石器が出土した。出土層位はⅨ中層～Ⅶ層である。0.74 mの高低差をもってⅨ中層～Ⅸ上層を中心に包含される。

石器器種は、剥片・砕片と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・ホルンフェルス・黒色頁岩・玉髄・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・チャートで構成される。石材組成については、ホルンフェルスが多いが、他の石材の数量もそれほど変わらない。

1はガラス質黒色安山岩の横長剥片である。2はトロトロ石の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。

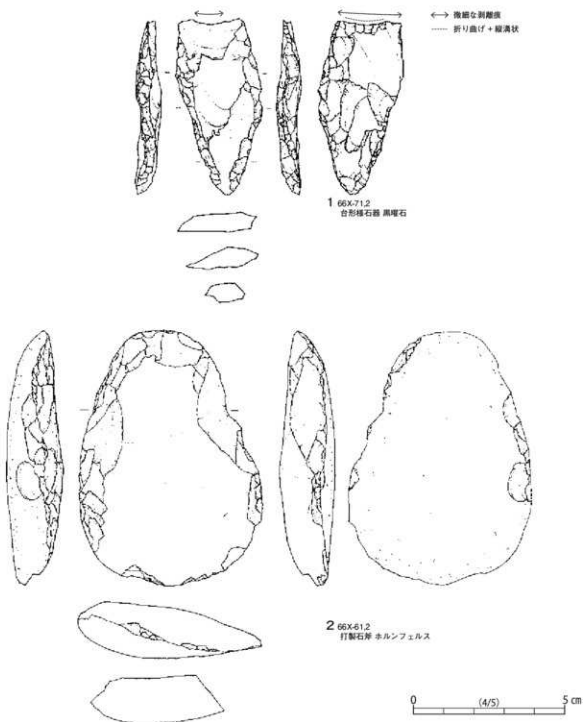
図版 30-3 はトロトロ石の不定形な剥片である。図版 30-4 は塊状に剥離したと考えメノウの縦長剥片としたが、石核の可能性がある。



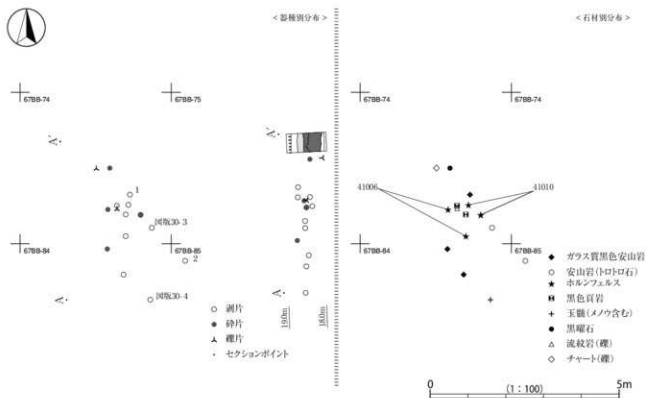
第76図 66X-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

第20表 67BB-Aブロック石器組成

石材・器種	尖頭器 石器	角縁器 石器	ナイフ 形石器	台形縁 石器	斧頭 器種	鐮 器種	磨製 石器	二次 加工	磨片 製器	磨片	磨石刀	磨石棒	磨片	磨片	石槌	石砵	磨石	台石	磨石	厚 板片	点数合計	重量合計 [g]		
GA										2	1									3	17.6%	16.87	21.9%	
TO										2										2	11.8%	25.44	33.0%	
HO										4	2									6	35.3%	14.96	18.9%	
BS										2										2	11.8%	3.77	4.9%	
CC										1										1	5.9%	15.31	20.1%	
OB													1							1	5.9%	0.04	0.1%	
RHR																			1	1	5.9%	0.43	0.8%	
CHR																			1	1	5.9%	0.4	0.5%	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	4	0	0	0	0	0	2	17	100.0%	77.02	100.0%



第77図 66X-Aブロック出土遺物



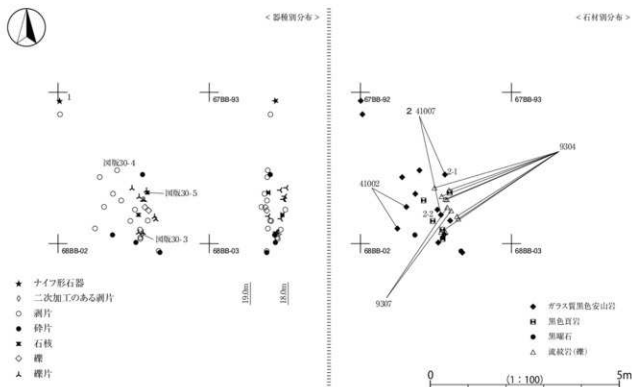
第79図 67BB-Aブロック出土遺物

18 67BB-Bブロック (第80・81図、第21・22表、図版4・30)

西側地区の中央南側、67BB-92、68BB-02 グリッドに分布する。1.9 m × 5.0 m の範囲から 22 点の石器と 35 点の礫が出土した。出土層位はⅨ上層～Ⅲ下層である。0.63 m の高低差をもってⅨ層を中心に包含される。本ブロックは第3あるいは第4文化層の可能性はある。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩のみである。本ブロックはほかの同文化層のブロックに比べると礫・礫片を多く伴うことが特徴である。

1 はガラス質黒色安山岩の基部調整のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打面側を基部としている。基部からほぼ中央まで比較的大きな調整加工を施している。2 (接合資料41007) はガラス質黒色安山岩の石核 1 点・砕片 1 点の接合資料である。表面全体が自然面の剥片を素材として、腹面から右側面下部に搔器の刃部作出のような小型の縦長剥片、同じく腹面から周縁を巡るように小型の横長剥片を剥離した後、表面から 21 を含む中型あるいは小型の横長剥片を剥離している。さらに、素材の末端から搔器の刃部作出のような小型の縦長剥片を剥離している。22 は石核としたが、搔器など石器の調整加工のような剥離痕が見られることから、石核以外に何らかの石器の機能を持たせようとした複合石器かもしれない。図版 30-3・4 はガラス質黒色安山岩の石器で、図版 30-3 は横長剥片の末端に粗い調整加工を施した二次加工のある剥片であるが、ナイフ形石器などの未成品の可能性はある。図版 30-4 は幅広い石刃状の縦長剥片である。図版 30-5 は黒色頁岩の石核である。比較的厚みのある横長剥片を素材として表面から横長剥片を剥離している。また、左側の先端に搔器の刃部作出のような小型の剥片を剥離した剥離痕が見られる。



第80図 67BB-Bブロック出土遺物分布－器種別・石材別－

19 66GG- Aブロック (第82・83図、第23表、図版4・30)

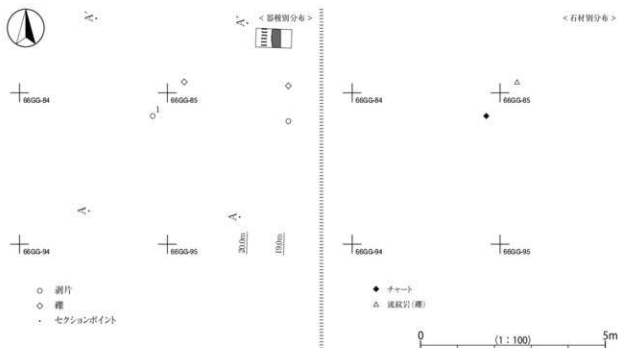
西側地区の東側、66GG-75・84グリッドに分布する。1.4 m × 0.2 m の範囲から1点の石器と1点の礫が出土した。出土層位はⅨ層である。0.06 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、チャートのみ、礫石材は、流紋岩のみである。それぞれ1点のみの小規模なブロックである。

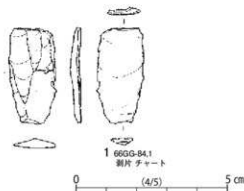
1は黒灰褐色のチャートの石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。打面側と末端は欠損している。

第23表 66GG-Aブロック石器組成

石材 / 種類	天然石 花崗岩	天然石 大理石	人工石 花崗岩	人工石 大理石	珪藻土 系	樹脂 系	複合 材	二次 加工	陶器 製品	紙片	顔石 花崗岩	顔石 大理石	紙片	珪藻土 系	石膏	珪藻土 系	珪藻土 系	珪藻土 系	珪藻土 系	珪藻土 系	点数合計	重量合計 [g]		
CH													1								1	50.0%	1.64	28.7%
PHH																					1	50.0%	4.68	71.3%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	100.0%	5.72	100.0%



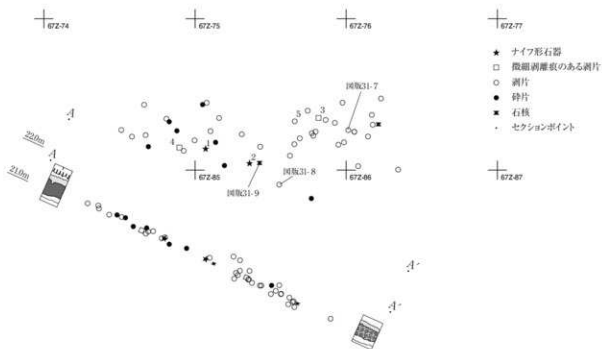
第82図 66GG-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



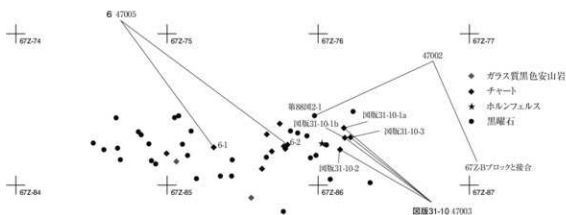
第83図 66GG-Aブロック出土遺物



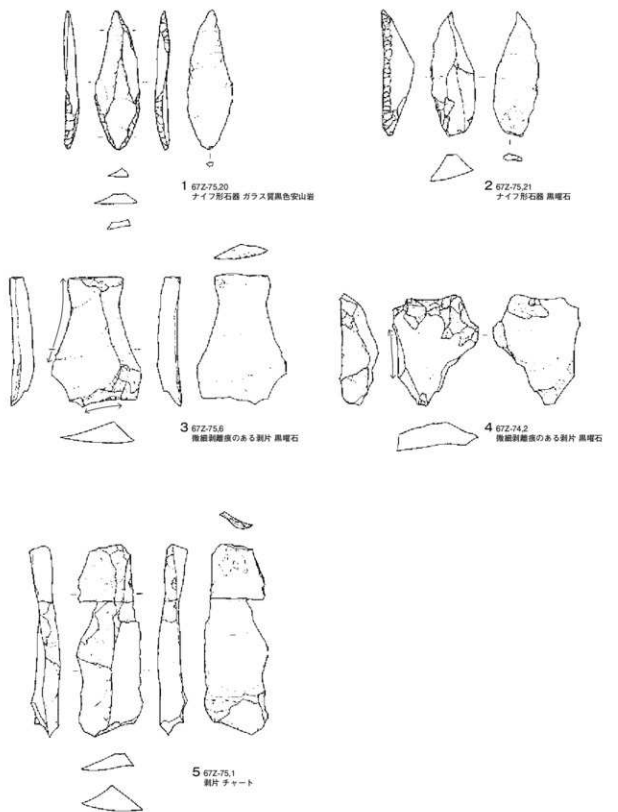
< 器種別分布 >



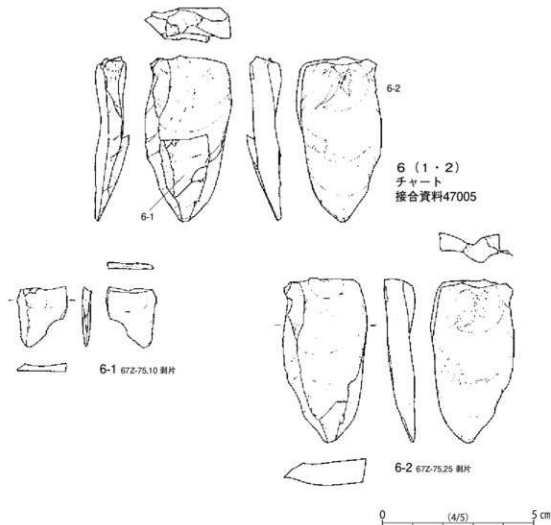
< 石材別分布 >



第84図 67Z-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第85図 67Z-Aブロック出土遺物(1)



第86図 67Z-Aブロック出土遺物(2)

2 67Z- Bブロック (第 87・88 図、第 25 表、図版 4・32)

西側地区の中央南側、67Z-76・86・87 グリッドに分布する。3.0 m × 2.6 m の範囲から 31 点の石器が出土した。出土層位はⅢ層～Ⅴ層である。0.46 m の高低差をもってⅤ層～Ⅵ層を中心に包含される。67Z-A ブロックとブロック間接合がある。

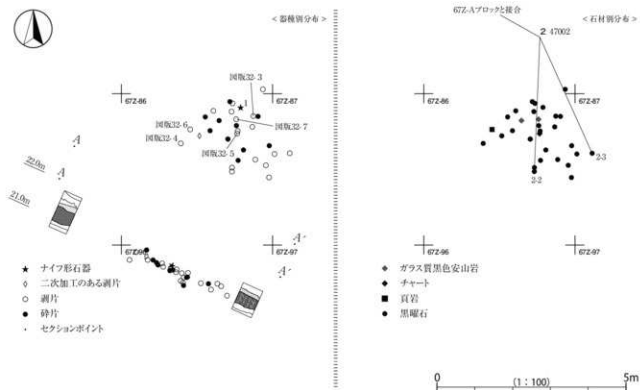
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片で構成される。67Z- A ブロック同様、剥片が主体で、ほぼ同様の器種組成であるが、石核が伴わない。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒曜石で構成され、黒曜石が主体で、67Z- A ブロックと異なり、他の石材はほぼ単独である。

1 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る良質な黒曜石の一個縁加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁の上半は腹面、同下半は背面に細かい調整加工を施している。打面は線状でそのまま残置している。2 (接合資料 47002) は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の剥片 3 点の接合資料である。67Z- A ブロックの 2-1 と本ブロックの 2-2・2-3 がブロック間接合である。同一の打面から小型で不定形な剥片を剥離している。図版 32-3・4 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る良質な黒曜石の石刃状の縦長剥片で、図版 32-3 は稜上調整が見られることから稜付石刃、図版 32-4 の末端は石核の底面の可能性が高い。

図版 32-5 は灰褐色のチャート、図版 32-6 は珪化度高い灰褐色の良質な頁岩の石刃状の縦長剥片である。図版 32-5 は左側縁と末端にかけて自然面が残っている。図版 32-6 の末端は多少肥厚している。図版 32-7 はガラス質黒色安山岩の剥片である。下半部を欠損しているため詳細は不明だが、石刃状の縦長剥片の可能性はある。

第25表 67Z-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角縁状 石片	ナイフ 石片	台形種 石片	条縁	磨製 石片	二次 加工	磨製 石片	剥片	細石刀	細石槍	剥片	砕片	石槍	石矛	磨石	砕石	厚石	磨片	点検合計	重量合計 (g)		
GA												1	1							2	6.5%	10.69	19.9%
CH												1								1	3.2%	7.87	14.7%
SH												1								1	3.2%	6.24	11.6%
OB			1				1					15	10							27	87.1%	28.05	53.8%
合計	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	18	11	0	0	0	0	0	0	31	100.0%	53.66	100.0%



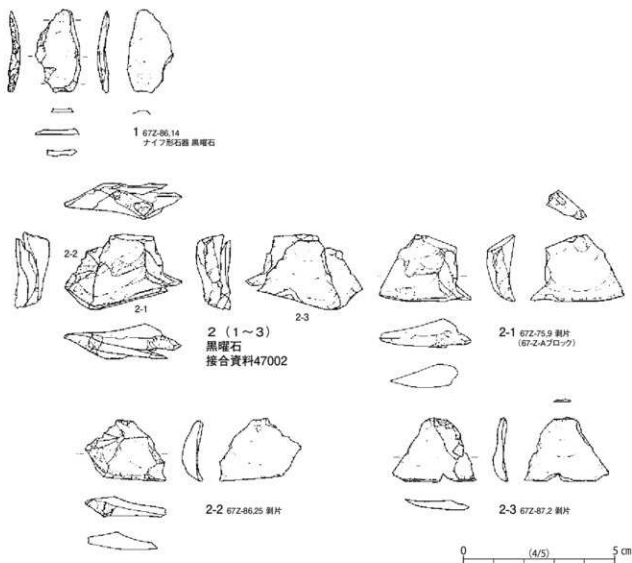
第87図 67Z-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

3 68AA-Aブロック (第89・90図、第26表、図版5・32)

西側地区の中央南側、68AA-30・31グリッドに分布する。1.8m × 2.9mの範囲から5点の石器が出土した。出土層位はⅣ層～Ⅵ層である。0.23mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石器石材は、チャート・黒曜石で構成される。黒曜石の剥片を主体とする小規模なブロックである。

1は高原山産の可能性がある黄灰色の不純物を含む透明度のある黒色の黒曜石の石刃状の縦長剥片であ

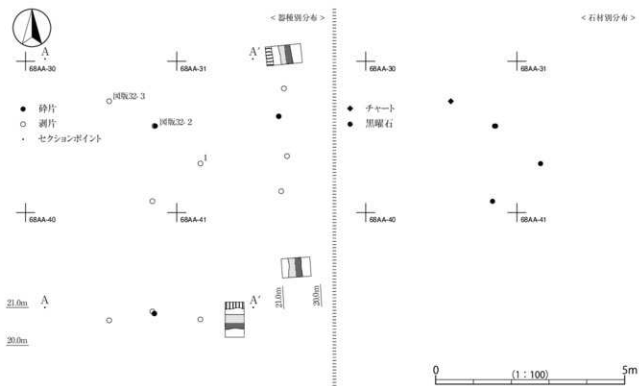


第88図 67Z-Bブロック出土遺物

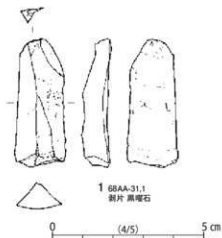
る。末端は折面としたが、折断面に裏面からの細かい剥離痕が見られることから、二次加工のある剥片の可能性はある。図版 32-2 は高原山産の可能性のある黄灰褐色の不純物を含む透明度のある黒灰色の黒曜石の剥片である。図版 32-3 は灰色・緑灰色のチャートの剥片である。玉髄質の部分が縞状に入ることなど、海沢産のチャートに多少類似している。

第26表 68AA-Aブロック石器組成

石材 / 種類	尖頭器	角座状 石器	ナイフ 形石器	台形棒 石器	条器	棒器	磨製 石器	二次 加工	海胆 削器	剥片	細石刀	細石棒	剥片	砕片	石核	石片	磨石	台石	厚石	磨 鏡片	点数合計	重量合計 (g)	
CH													1							1	20.0%	4.91	32.5%
OB													3	1						4	80.0%	10.22	67.5%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	5	100.0%	15.13	100.0%



第89図 68AA-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

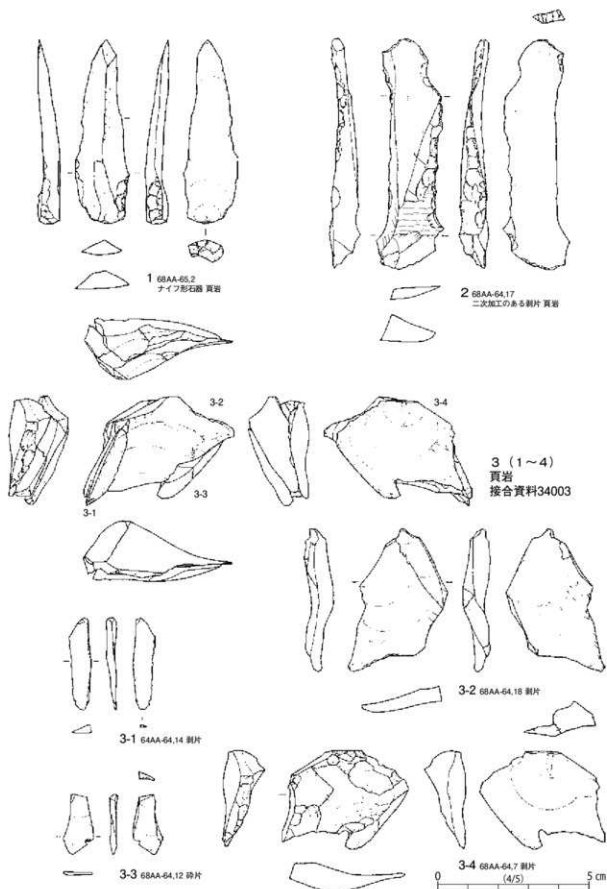


第90図 68AA-Aブロック出土遺物

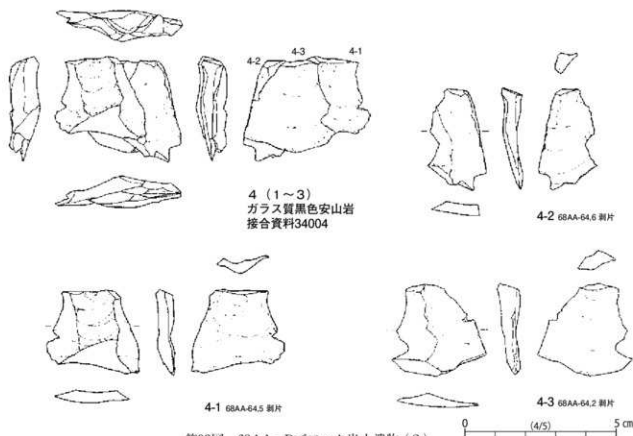
4 68AA-Bブロック (第91～93図、第27表、図版5・32・33)

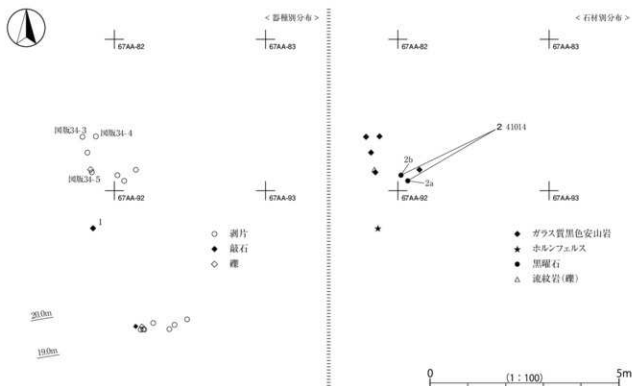
西側地区の中央南側、68AA-64・65 グリッドに分布する。3.0 m × 5.5 m の範囲から 21 点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅲ層である。0.31 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器・二次加工のある剥片などの利器を伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒曜石で構成され、頁岩が主体である。



第92図 68AA-Bブロック出土遺物(1)





第94図 67BB-Cブロック出土遺物分布－器種別・石材別－

6 68BB-Aブロック (第97・98図、第29・30表、図版5・35)

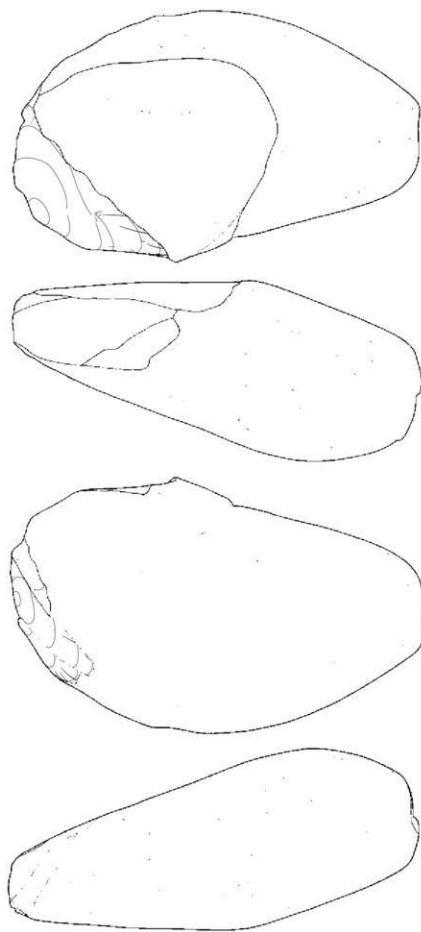
西側地区の中央南側、67BB-81・82・91グリッドに分布する。3.6 m × 3.5 mの範囲から77点の石器が出土した。出土層位はⅦ層～Ⅲ中層である。0.91 mの高低差をもってⅦ層を中心に包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・砕片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩・チャートで構成され、流紋岩が主体である。本ブロックは剥片・砕片が主体であるが、礫群が伴うことが特徴である。

1は黒色頁岩の石核である。縦長剥片の左側面下半部から末端にかけて一部被熱による剥落が見られることから、不明な部分も多少あるが、主要剥離面を打面として、左側面下半部で小型で不定形な剥片を2枚ほど剥離している。また、裏面左側縁の一部にも剥離痕が見られるが、人為的な剥離が不明である。

2 (接合資料41004)は黒色頁岩の二次加工のある剥片2点 (1個体)の接合資料である。横長剥片の裏面右側縁に小型の剥離痕が見られ、石核の可能性もある。この個体にも被熱による剥落が見られ、本個体自身も被熱による欠損の可能性が高い。なお、表面側の器体中央上部に顕著なポジティブなバルブを持つ剥離面があり、この面は被熱の影響で、当個体の剥離時に生じたものと考え、複数の剥離面が見られることも勘案して、当該面を表面としたが、同じく被熱の影響で、複数の剥離面が主要剥離面側で生じたとの考えも可能である。

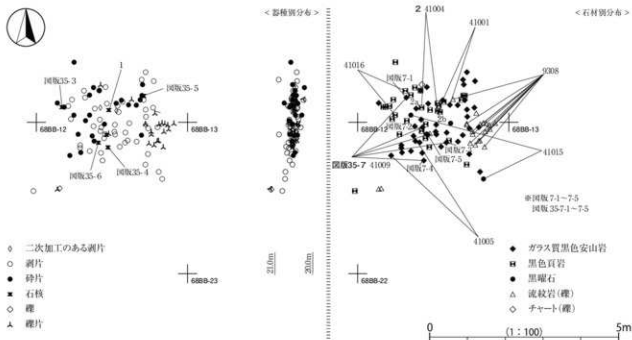
図版35-3～5は黒色頁岩の石核で、厚手の剥片の主要剥離面などを打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版35-6はガラス質黒色安山岩の石核で、厚手の剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。



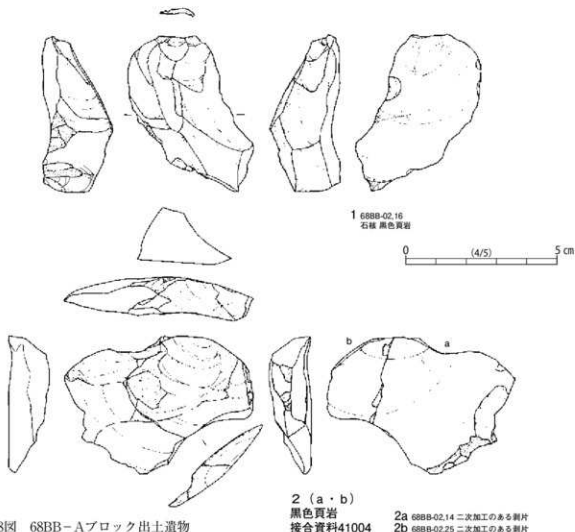
1 67BB-91.1
黒石 中レンジェルス



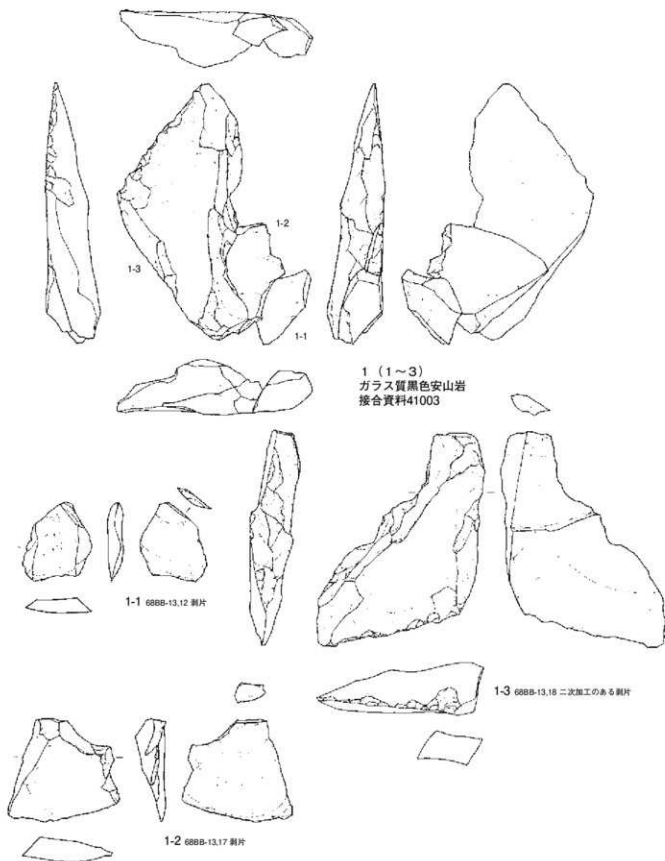
第95図 67BB-Cブロック出土遺物 (1)



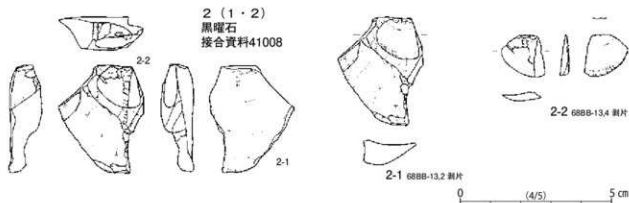
第97図 68BB-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第98図 68BB-Aブロック出土遺物



第100図 68BB-Bブロック出土遺物(1)



第101図 68BB-Bブロック出土遺物(2)

8 68BB-Cブロック (第102～104図、第32表、図版5・37)

西側地区の中央南側、68BB-14・15・25グリッドに分布する。3.0 m × 3.2 mの範囲から36点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はⅦ層～Ⅳ層である。0.29 mの高低差をもってⅦ層を中心に包含される。

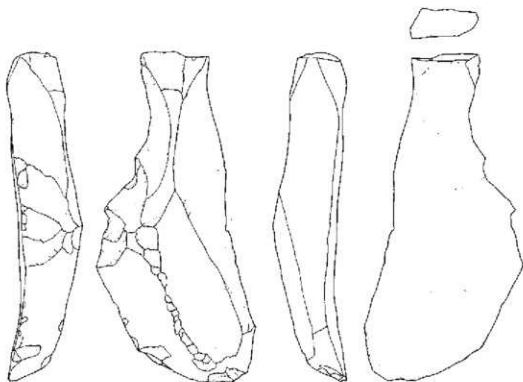
石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・砕片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材、は流紋岩・砂岩で構成される。

1・3は黒色頁岩の二次加工のある剥片である。1は大型の石刃あるいは石刃状の縦長剥片の左側縁上半に大型の剥離痕、同下半に小型の剥離痕が見られ、石核あるいは石核を転用した二次加工のある石器の可能性ある。器体中央下半の細かい稜上調整は多少後で磨耗していることから自然面の可能性ある。3は不定形な剥片の左側縁に剥離痕が見られる。末端は石核の底面と思われる。石核の可能性ある。2はトロトロ石の二次加工のある剥片である。右側縁上半は打面と作業面を入れ替えながら調整を行っており、石核の可能性ある。

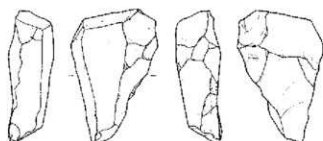
4は珪化度の高い灰褐色の頁岩の石核である。素材の形状は不明だが、上面に残る平坦な剥離面から大型の剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。

5は黒色頁岩の両面にポジティブな剥離面を残す縦長で不定形な剥片である。

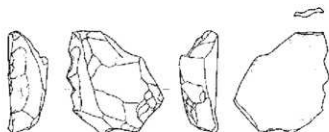
図版37-6・7はガラス質黒色安山岩の二次加工のある剥片で、図版37-6は左側縁下部、図版37-7は右側縁に調整加工が施されている。図版37-8はガラス質黒色安山岩の石核で、自然面を残す厚い不定形な剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。図版37-9は黒色頁岩の石核で、比較的厚い不定形な剥片の主要剥離面を打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版37-10(接合資料41011)はホルンフェルスの石核1点・剥片2点の接合資料である。不定形な剥片を素材とし、平坦な自然面を打面として図版37-10-1・2などの小型で不定形な剥片を剥離している。



1 688B-15.14
二次加工のある剥片 黒色頁岩



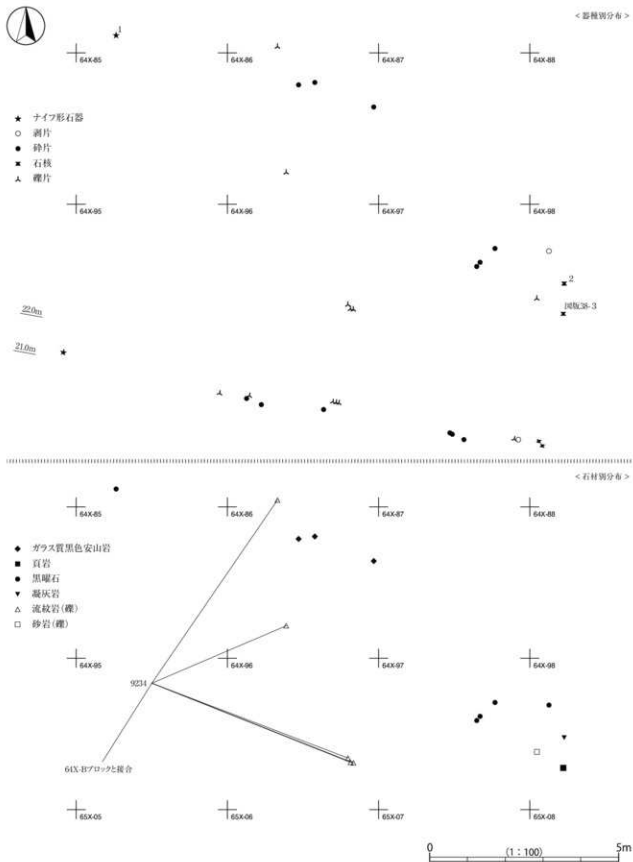
2 688B-15.24
二次加工のある剥片 トロトロ石



3 688B-15.21
二次加工のある剥片 黒色頁岩



第102図 68BB-Cブロック出土遺物(1)



第106図 64X-Aブロック出土遺物分布－器種別・石材別－

2 64X-Bブロック (第107・109図、第34表、図版5・6・38)

西側地区の西側、64X-95、65X-04・05・14・15グリッドに分布する。9.0m × 4.6mの範囲から35点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅲ層である。0.69 mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。礫について64X-Aブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、礫・礫片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩のみで、礫石材は、流紋岩のみである。

1はガラス質黒色安山岩の不定形な剥片である。右側面を欠損する。

第34表 64X-Bブロック石器組成

石材 / 器種	剥片	礫・礫片	点数合計	重量合計 (g)
GA	1		1	2.9%
OB		34	34	97.1%
合計	1	34	35	100.0%



第107図 64X-Bブロック出土遺物

3 65X-Aブロック (第108・110図、第35表、図版5・6・38)

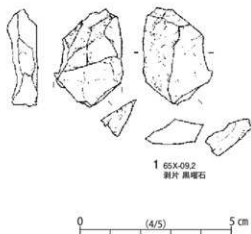
西側地区の西側、65X-08・09・19グリッドに分布する。9.7 m × 5.6 mの範囲から2点の石器と11点の礫が出土した。出土層位はⅢ層である。0.37 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、本ブロックも64X-Bブロック同様、礫・礫片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒曜石で構成され、それぞれ1点のみである。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され、流紋岩が主体である。

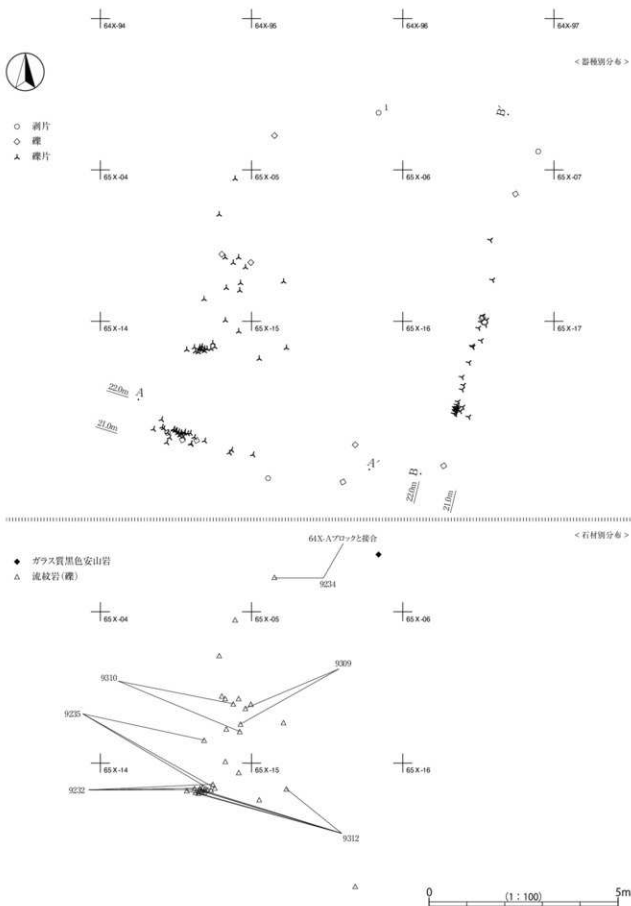
1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の剥片である。下部を欠損し、裏面左半分も本資料の剥離時に同時に剥離したものと思われる。打点部はダブルコーンで割れ円錐が顕著である。

第35表 65X-Aブロック石器組成

石材 / 器種	剥片	礫・礫片	点数合計	重量合計 (g)
GA	1		1	7.7%
OB	1		1	7.7%
OB		10	10	76.9%
SAR		1	1	7.7%
合計	2	11	13	100.0%



第108図 65X-Aブロック出土遺物



第109図 64X-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

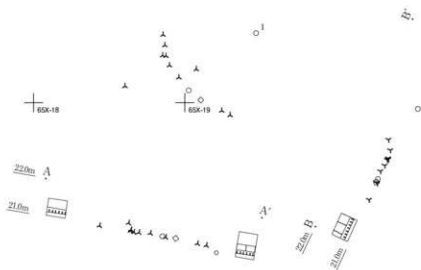


- 剥片
- ◇ 礫
- ▲ 礫片

65X-08

65X-09

< 器種別分布 >

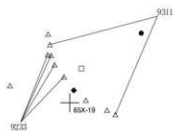


65X-09

< 石材別分布 >

- ガラス質黒色安山岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)

65X-18



0 (1 : 100) 5m

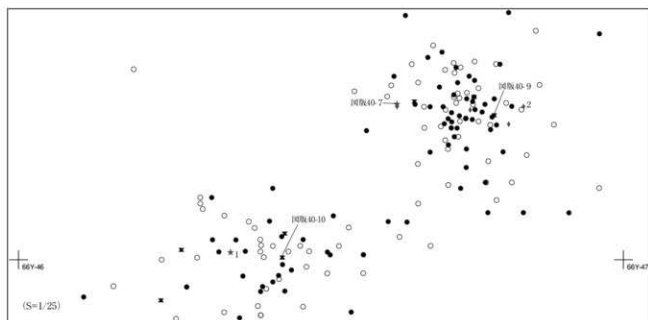
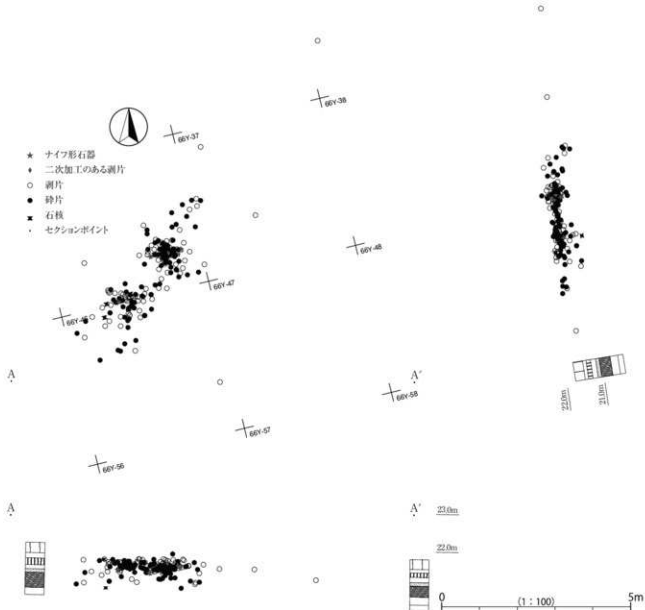
第110図 65X-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

4 66Y-Bブロック(第111～116図、第36表、図版3・38～40)

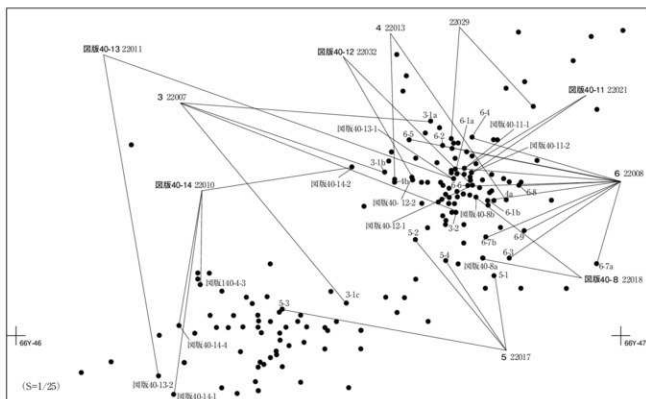
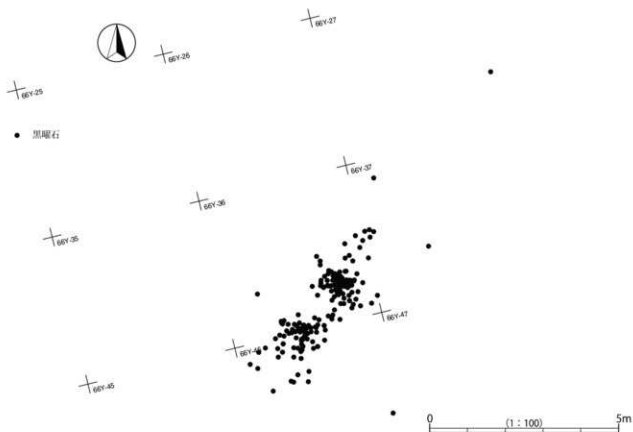
西側地区の中央南側、66Y-28・36・37・46 グリッドに分布する。9.6 m×4.4 mの範囲から119点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅲ層である。0.90 mの高低差をもってⅨ層～Ⅲ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成され、剥片・砕片が主体で特に砕片が多く、他にナイフ形石器・二次加工のある剥片などの利器を伴う。石器石材は、黒曜石のみである。

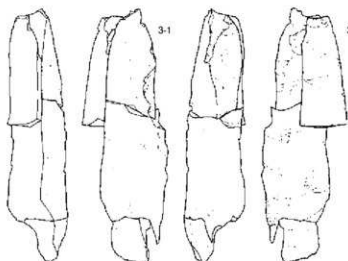
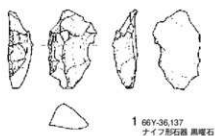
1・2は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の石器である。1は二側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁の中央部に細かい調整加工、右側縁下部に微細な調整加工を施している。2は二次加工のある剥片で右側を半分以上欠いた剥片の左側縁上部に縦溝状の調整加工を施している。3～6は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の接合資料である。3(接合資料22007)は剥片4点(2個体)の資料である。角礫の石核から3枚ほど縦長剥片を剥離した後、3-1、3-2が剥離されている。3-1・2は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。なお、3-1の表面には3枚ほどの剥離痕以外に多数の剥離痕が見られるが、全体が磨耗していること剥離方向もランダムであることなどから自然面と判断した。4(接合資料22013)は二次加工のある剥片2点(1個体)の資料である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の右側縁下部に細かいあるいは微細な調整加工を施している。なお、本資料の器体中央半分にも3同様の光沢の異なる剥離痕が見られ、多少磨耗していることなどから自然面と判断した。3は自然の営為により剥離された可能性があるが、4は原産地で人為的に剥離された資料が放置されて若干風化後、遺跡に持ち込まれた可能性はある。5(接合資料22017)は石核1点・剥片3点の資料で、5-4は同一母岩の非接合資料である。5-3の表面に自然面、裏面左側にポジティブな面が残っていることから、それほど厚みのない剥片を素材として、不定形な剥片を数枚剥離し、5-1の剥離で打面を作出して、5-2などの縦長剥片を剥離している。6(接合資料22008)は剥片11点(9個体)の資料である。原石は幅と厚さの4面に自然面を残していることから、それぞれ約5 cm、長さは5 cm以上の長方体(子供の拳大)の角礫と考えられる。角礫に上面に打面を作出し、左側面側で上方向から6-1などを剥離し、180度打面を転回して、右側面側から裏面側にかけて6-5など数枚剥離した後、再び180度打面を転回して、6-2→6-3→6-4を剥離している。その後、表面側で裏面斜め方向から6-6→右方向から6-7→手前方向から6-8→右方向から6-9など打面を入れ替えながら不定形な剥片を剥離し、石核は持ち出されている。図版40-7～14は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の石器である。図版40-7は不定形な剥片の打面側を先端とし、両側縁の基部に非常に粗い鋸歯状の調整加工を施した切出形のナイフ形石器である。図版40-8(接合資料22018)は剥片2点(1個体)の資料である。後上調整が見られることから、後付石刃の可能性が高い。図版40-9・10は石核である。図版40-9は欠損時の剥離痕の可能性があるが、主要剥離面側から、図版40-10は表面側から主要剥離面を切るように小型で不定形な剥片を剥離している。図版40-11～13(接合資料22021・22032・22011)はそれぞれ石核1点・剥片1点の資料で、厚めの剥片を素材として小型で不定形な剥片を剥離している。図版40-14(接合資料22010)は石核1点・剥片3点の資料で、上方向から図版40-14-1→14-2→手前方向から図版40-14-3など不定形な縦長剥片を剥離し、その後も図版14-4から小型で不定形な剥片を剥離している。



第111図 66Y-Bブロック出土遺物分布(1) -器種別-



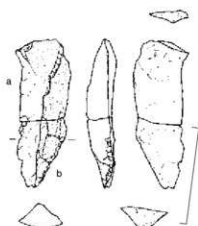
第112図 66Y-Bブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



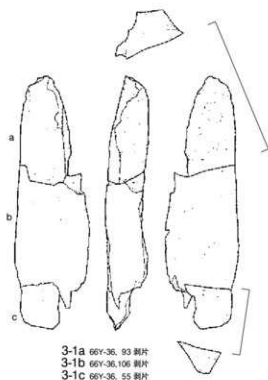
3-2 66Y-36.130 剥片



3 (1・2)
黒曜石
接合資料22007



黒曜石
接合資料22013

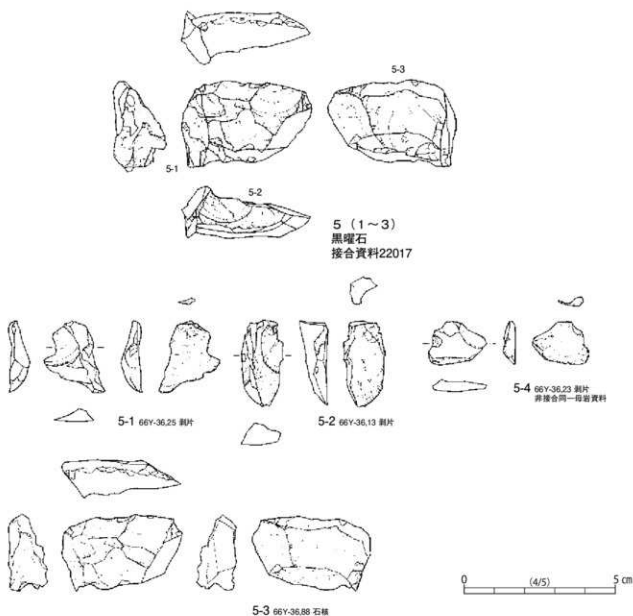


3-1a 66Y-36. 93 剥片
3-1b 66Y-36.106 剥片
3-1c 66Y-36. 55 剥片

4a 66Y-36. 91 二次加工のある剥片
4b 66Y-36.124 二次加工のある剥片



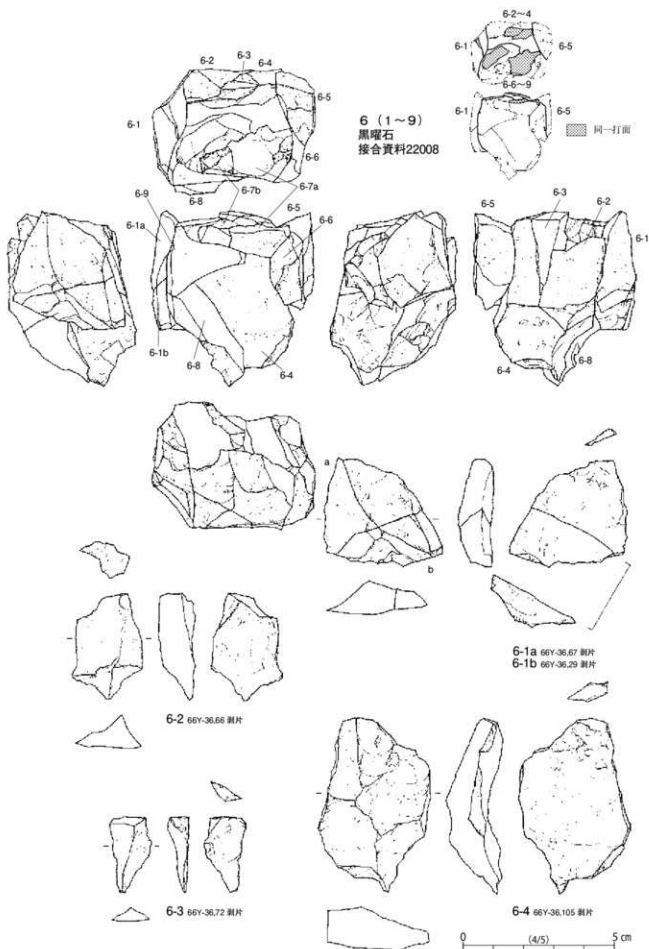
第113図 66Y-Bブロック出土遺物(1)



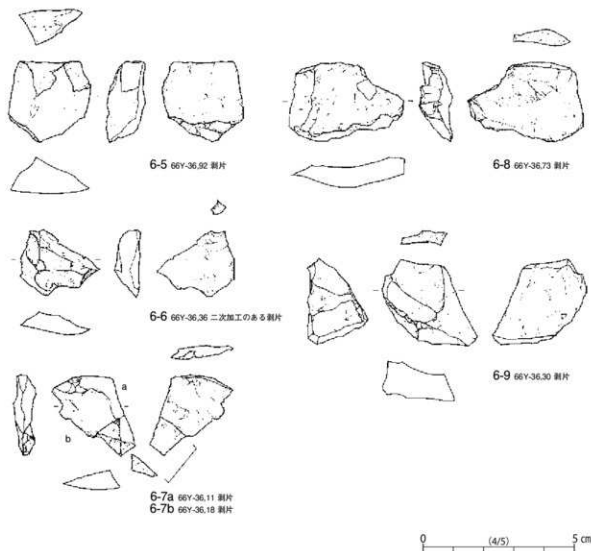
第114図 66Y-Bブロック出土遺物(2)

第36表 66Y-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角磨石 石核	ナイフ 形石核	台形石 石核	斧頭	鐮	磨石 石核	二次 加工	磨石 石核	剥片	磨石 石核	剥片	石核	石片	磨石 石核	台石	磨石 石核	磨石 石核	点検合計	重量合計 (g)
OB			2	0	0	0	0	4		0	0	0	91	95	7				199	100.0%
合計	0	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	91	95	7	0	0	0	199	100.0%



第115図 66Y-Bブロック出土遺物(3)



第116図 66Y-Bブロック出土遺物(4)

5 67DD-Aブロック(第117・118図、第37表、図版6・40)

西側地区の中央南側、67DD-08-09グリッドに分布する。9.1 m × 0.2 mの範囲から3点の石器が出土した。出土層位はⅢ層である。0.09 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器のみである。石器石材は、頁岩・黒曜石で構成される。ナイフ形石器のみの小規模なブロックである。

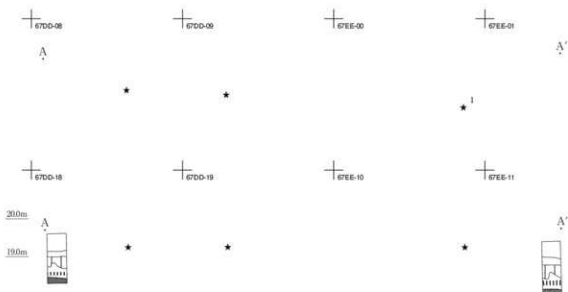
1は珪化度の高い灰褐色の頁岩の側縁あるいは部分加工のナイフ形石器である。不定形な剥片の打面側を基部とし、①左側縁上部は裏面から粗い鋸歯状の加工、②器体中央部は左側へ稜上から粗い調整加工、右側縁下部の一部に細かい調整加工を行っている。①と②の剥離面の新旧関係から調整の順番は①→②である。先端は欠損している。

2(接合資料09001)は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石で、二側縁加工のナイフ形石器2点(1個体)の接合資料である。横長剥片を横位に用い、右側縁と左側縁下部に粗い調整加工を行っている。器体中央で欠損している。



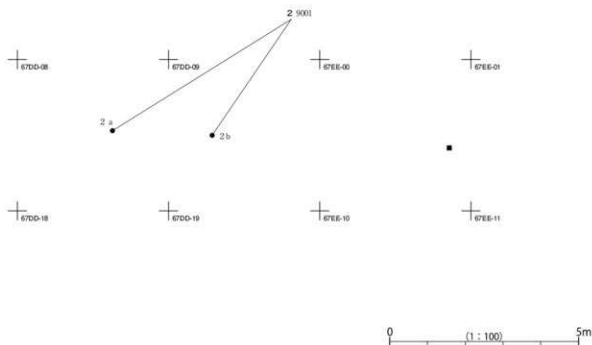
- ★ ナイフ形石器
- ・ セクションポイント

< 器種別分布 >



< 石材別分布 >

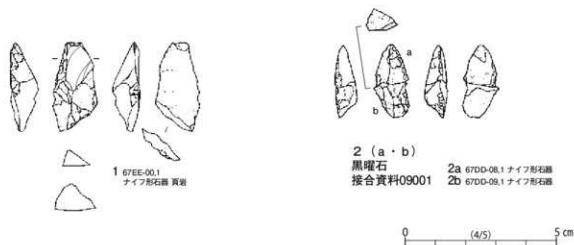
- 頁岩
- 黒曜石



第117図 67DD-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

第37表 67DD-Aブロック石器組成

石材 / 種類	タイプ	点数合計 (%)	重量合計 (g)	
SH	1	33.3%	2.85	63.2%
OB	2	66.7%	1.66	36.8%
合計	3	100.0%	4.51	100.0%



第118図 67DD-Aブロック出土遺物

6 66CC-Cブロック (第119・120図、第38表、図版6・41)

西側地区の中央南側、67CC-02・03・11・12グリッドに分布する。7.0 m × 7.4 mの範囲から30点の石器と4点の礫が出土した。出土層位はV層～IV層である。0.44 mの高低差をもってIV層を中心に包含される。

石器器種は、角錐状石器・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石と礫・礫片で構成され、剥片が主体であるが、角錐状石器などが伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、黒曜石が主体であるが、角錐状石器を含むガラス質黒色安山岩がこれに次ぐ。礫石材は、流紋岩のみである。

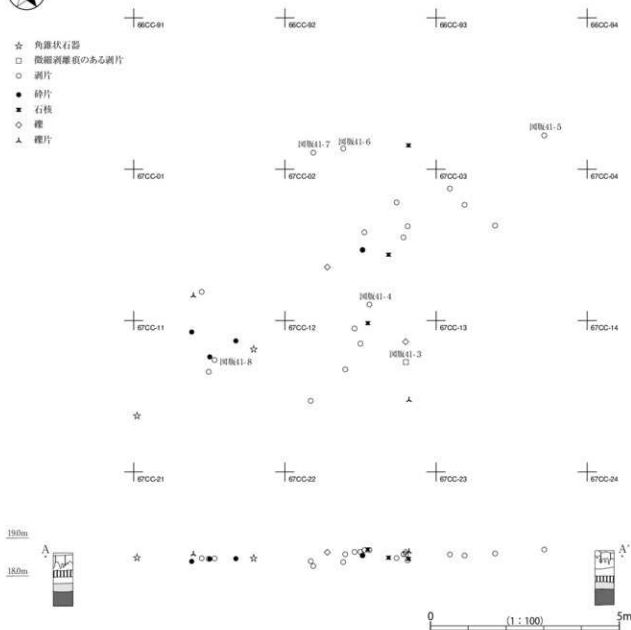
1 (接合資料 37002) はガラス質黒色安山岩2点 (1個体) の角錐状石器である。横長剥片を横位に用い、右側縁全体と左側縁中央部の半分に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。器体はほぼ中央で欠損している。

2 (接合資料 37001) は黒色頁岩の不定形な剥片2点の接合資料である。

図版 41-3 は珪化度の高いチョコレート頁岩の微細剥離痕のある剥片で、右側縁に剥離痕がみられる。図版 41-4 は黄土色のチャートの縦長剥片である。図版 41-5 ～ 7 は黒灰色で緻密なガラス質黒色安山岩の剥片である。図版 41-8 は灰色の泥質のホルンフェルスの剥片である。図版 41-9・10 (接合資料 37005・37004) は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の接合資料である。図版 41-9 は剥片2点の資料で、上方向から図版 41-9-1 → 右方向から図版 41-9-2 を剥離している。図版 41-10 は石核2点・剥片1点の資料である。上方向から図版 41-10-1 → 図版 41-10-2 を剥離し、図版 41-10-2 と図版 41-10-3 は石核として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版 41-11 (接合資料 37003) は灰褐色の珪化した頁岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。角礫の平坦な自然面を打面として、打面を90度転回しながら、図版 41-11-1 や図版 41-11-2 などの不定形な剥片を剥離している。



- ☆ 角錐状石器
- 微細剥離痕のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- ◇ 礫
- △ 礫片



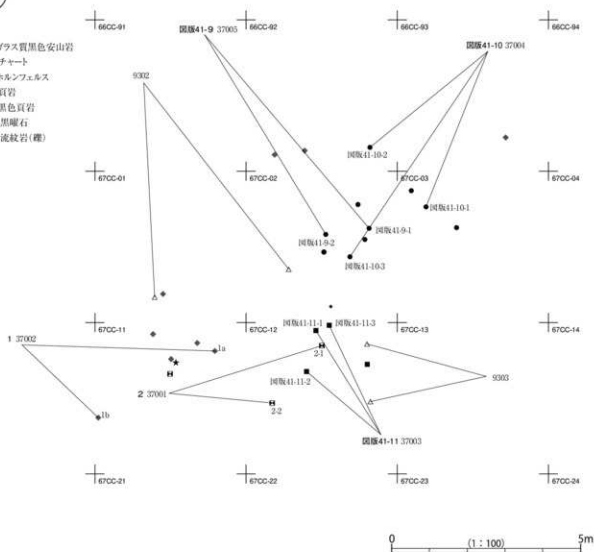
第119図 66CC-Cブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

第38表 66CC-Cブロック石器組成

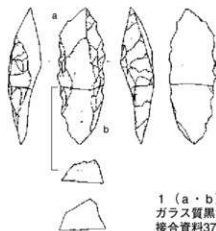
石材 / 種類	尖頭類	角礫状 石器	ナイフ 型石器	台形類 石器	条礫	条礫	楔形 石器	二次 加工	微細 剥離	剥片	礫石刀	礫石棒	剥片	砕片	石核	石片	礫石	台石	厚石	礫 片	点数合計	重量合計 [g]		
GA		2											4	3							9	26.5%	87.96	10.1%
CH													1								1	2.9%	9.54	1.1%
HO													1								1	2.9%	31.57	3.6%
SH									1				2		1						4	11.8%	56.63	6.5%
BS													3								3	8.8%	19.38	2.2%
OR													8	2	2						12	35.3%	56.77	6.5%
RWR																				4	4	11.8%	612.02	70.0%
合計	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	19	5	3	0	0	0	0	4	34	100.0%	874.06	100.0%



- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ◆ チャート
- ★ ホルンフェルス
- 頁岩
- 黒色頁岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩(産)



第120図 66CC-Cブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

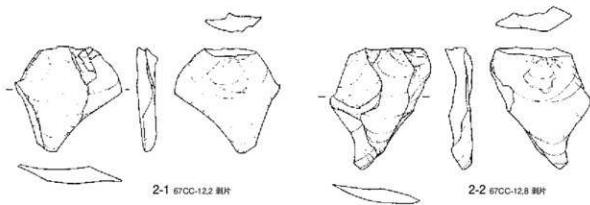


1 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料37002

1a 67CC-11.6 角錐状石器
1b 67CC-11.7 角錐状石器



2 (1・2)
黒色頁岩
接合資料37001



2-1 67CC-12.2 剥片

2-2 67CC-12.8 剥片



第121図 66CC-Cブロック出土遺物

7 68Z-Aブロック (第122・123図、第39表、図版6・42)

西側地区の中央南側、68Z-24・25・34～36グリッドに分布する。5.7 m×2.5 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅲ層である。0.32 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器を伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・砂岩・チャート・頁岩・黒曜石で構成され、頁岩・黒曜石が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩・ホルンフェルスで構成される。

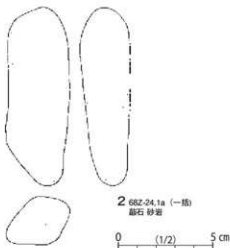
1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の二側縁加工あるいは二側縁加工のナイフ形石器である。不定形な剥片の打面側を先端部とし、左側縁上部は粗い鋸歯状の加工と微細な加工、同下部に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。なお、両側縁基部はほぼ対称であることなどから意図的な折り取りだとすれば、二側縁加工のナイフ形石器の可能性が高い。2は砂岩の敲石としたが、下部部の敲打痕は極めて弱いあるいはほとんど観察できないので、敲石等のための未使用の原石の可能性が高い。図版42-3はチャートの二次加工のある剥片である。不定形な横長剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。図版42-4・5は同一母岩と考えられる黄灰褐色の珪化した頁岩の石器で、図版42-4は縦長剥片、図版42-5は石核である。円礫あるいは楕円礫を素材とし、不定形な剥片を剥離している。図版42-6は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の不定形な剥片である。図版42-7はガラス質黒色安山岩の石核である。大型の円礫あるいは楕円礫を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら不定形な剥片を剥離している。なお、図版42-3・5・6は、一括資料である。

第39表 68Z-Aブロック石器組成

石材 / 産地	天然石	角造石	タイル	金型石	産地	産地	二次加工	海産物	灰片	御石丸	御石花	灰片	砂片	石花	石花	御石	砂石	産地	点数合計	重量合計 (g)				
GA														1				1	6.7%	97.86	25.2%			
SA																1		1	6.7%	116.26	30.0%			
CH							1												1	6.7%	0.91	0.2%		
SH												2		1				3	20.0%	35.26	9.1%			
OB			1									3	1					5	33.3%	20.09	5.2%			
RHR																	2	2	13.3%	61.63	15.9%			
SAR																		1	1	6.7%	3.13	0.8%		
HGR																		1	1	6.7%	62.62	13.6%		
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	2	0	1	0	0	4	15	100.0%	398.18	100.0%



第122図 68Z-Aブロック出土遺物





68Z-24

68Z-25

68Z-26

< 器種別分布 >

- ★ ナイフ形石器
- 剥片
- 砕片
- ✕ 石核
- 人 礫片

※ 2、図版12-3・5・6は一括

図版12-7

68Z-24

68Z-25

68Z-26

図版12-4

21.0m

20.0m

|||||

< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ☆ ホルンフェルス(礫)
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)
- 頁岩

68Z-25

68Z-26

68Z-24

68Z-25

68Z-26

0 (1 : 100) 5m

第123図 68Z-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

5 第5文化層

第5文化層の石器群は、377点の石器と4276点の礫が出土し、Ⅳ層上部の石器群と推定される。西側地区の中央北側に分布する。Ⅲ層を中心に出土しており、東内野型の有槌尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。

1 63Z-Bブロック（第124～149図、第40・41表、図版6・43～50）

西側地区の中央北側、63AA-30・50・51・60・61・70、63Z-17・18・26～29・35～39・44～49・51～59・63～69・73・75～77・86グリッドに分布する。7.2m×10.8m、12.3m×6.6mの2か所の集中が見られ、全体で37.8m×27.9m範囲から377点の石器と4276点の礫が出土した。出土層位はⅣa層～Ⅲ層である。1.44mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。

石器器種は、尖頭器・彫器・搔器・楔形石器・二次加工のある剥片・削片・剥片・砕片・石核と礫・礫片で構成される。石器は剥片が主体であるが、有槌尖頭器・彫器・搔器などが伴う。また、大量の礫・礫片が顕著である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・玉髓・凝灰岩・水晶で構成され、ホルンフェルス・頁岩が主体である。尖頭器・彫器・搔器などの利器は頁岩を主体としているが水晶の搔器が1点伴っている。また、ホルンフェルスと頁岩は剥片や砕片が主体であることから、石器の製作が行われたブロックと考えられる。礫石材は、流紋岩・砂岩・ホルンフェルスで構成される流紋岩が主体で70%近くを占め、砂岩と合わせて両者で90%を超える。焼礫が多く、破砕礫が大半である。尖頭器・彫器・搔器などの利器は頁岩を主体としているが、水晶の搔器が1点伴っている。

1～3は有槌尖頭器である。1は灰白色・灰オリーブ色が混じった珪化度の高い頁岩あるいは流紋岩で、剥片の打面側を基部とし、先端右側に槌状の剥離を行っている。この槌状の剥離後の右側面上部の微細な剥離痕は使用痕の可能性がある。全体的に器体中央に及ぶような平坦な調整加工が行われており、特に裏面基部の調整は顕著である。また、これらの平坦な調整加工の後に、表面左側縁、裏面の右側縁下半部と同左側縁の一部に細かい調整加工を行っている。2は灰褐色の珪化した頁岩あるいは流紋岩で、剥片の打面側を基部とし、先端左側に槌状の剥離を行っている。全体的には表面の左側縁に細かい調整加工、同右側は、裏面の右側縁の一部に器体中央に及ぶような浅い平坦な調整加工が行われている。3は灰褐色の珪化度のある流紋岩で、剥片の打面側を先端部とし、先端左側に槌状の剥離を行っている。下部の大半を欠損しているが、残存している先端部の右側は器体中央に及ぶような平坦な調整加工を行っており、その後もナイフ形石器の刃潰し加工状の細かい調整加工を行っている。

4・5は彫器である。4は1と同一母岩と考えられる石材で、剥片の先端部の両側縁に細かい調整加工を行い、左側に槌状の加工を行っている。5は灰オリーブ色の珪化度の高い頁岩あるいは流紋岩で1に類似した箇所があるので、同一母岩の可能性ある。折面の両端に槌状剥離が見られることから彫器としたが、衝撃剥離に伴う槌状剥離の可能性や裏面基部の平坦な調整加工などから、尖頭器の欠損品の可能性がある。

6～10は搔器である。6は褐色、7は灰褐色、9は褐色・灰白色の珪化した頁岩で、石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。なお、6は左側縁の全周に細かい調整加工、右

側縁の一部に微細な剥離痕が見られることから、削器として使われた複合石器の可能性がある。8は黒色頁岩あるいは泥岩質のホルンフェルスで、石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。10はほぼ透明な水晶で、石刃あるいは石刃状の縦長剥片のほぼ全周に急角度の調整加工を行っている。

11～16は二次加工のある剥片で、石材は11が砂質のホルンフェルス、12～15はそれぞれに濃淡の違いはあるが浅黄色で珪化度の高い頁岩、16が灰色のチャートである。12～14は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としている。12は下半部を欠損するが、左側縁上部に鋸歯状の細かい調整加工、同下部と右側縁に細かい調整加工を行っている。打面側を基部としたナイフ形石器の可能性ある。13は末端に細かい剥離痕が見られる。14は裏面の左側縁上部に細かい調整加工を行っており、表面の右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。15は縦長剥片の左側縁に細かい調整加工を行っている。裏面の下半部を裏面の右方向からの衝撃で欠損しているが、この剥離が正面左側縁の調整加工を切っていることから、調整時に発生した事故によるものと考えられる。本資料も打面側を基部とした側縁加工のナイフ形石器の製作途中の石器であった可能性がある。16は不定形な剥片の両面の両側縁に細かい調整加工を行っている。裏面側の調整の後に表面側の調整を行って、加工は浅いが尖頭器など何らかの石器の製作途中のものと思われる。

17は透明な水晶の楔形石器で、剥片の両側縁と両端に対向する剥離痕が見られる。

18～29は削片で、有槌尖頭器製作の際に生じたものと考えられる。石材は18が灰白色で干菓子のような流紋岩、29が黒色頁岩あるいはホルンフェルス、19～28が珪化度の高い頁岩で、19・22・23は浅黄色、20は灰黄色、21は灰褐色、24は灰白色、25はチョコレート色、26は黄灰色、27はにぶい黄橙・黒褐色が縞状に混じり、28は淡黄色である。なお、類似した形状の20・22の右側縁の上部には微細な剥離痕が見られ、使用等によるとしたが、偶発的な剥離の可能性もある。

30は灰白色の比較的珪化度の高い頁岩の剥片であるが、削片の可能性ある。

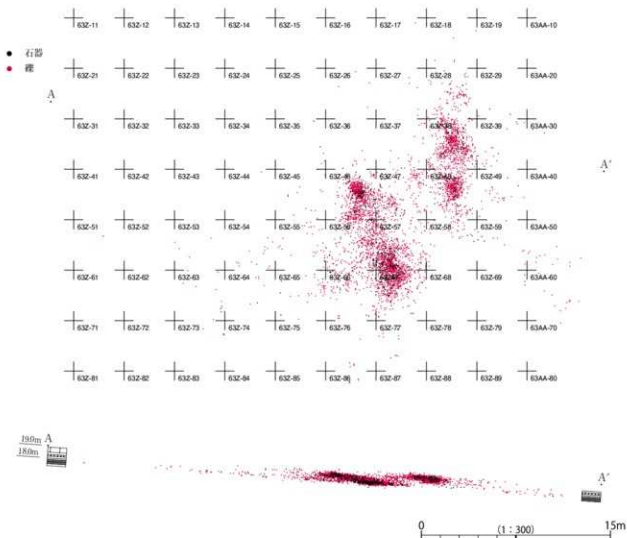
31（接合資料05215）はトロトロ石に似たガラス質安山岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。細長い楕円磗を素材とし、31-3の正面図の器体半分の左側は自然面を打面として、左方向から、同右側は始めに正面側から、さらにその剥離面を打面として右方向から小型で不定形な剥片を剥離し、その後、打面を上面に移動して、左方向→右方向の順に31-1・31-2などの剥片を剥離している。32（接合資料05214）は珪化度の高い頁岩の搔器2点（1個体）の接合資料である。32aは浅黄色の地に暗灰色・黄灰色が混じり、32bは黄灰色である。色調の違いは被熱による可能性が高い。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端と右側縁に急角度の調整加工を行っている。33（接合資料05009）は珪化度の高いチョコレート頁岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片3点の接合資料である。34（接合資料05004）は泥岩質で硬質なホルンフェルスの石核1点・剥片13点（11個体）の接合資料である。大型の磗を素材として、表面側の上方方向から34-1～34-3→裏面側の手前から34-4・34-5→表面側の下方方向から34-6・34-7→裏面側の手前方向から34-8→同右方向から34-9・34-10→同上方向から34-11などの剥片を両面で求心的な剥離を行っている。35（接合資料05012）は泥岩質のホルンフェルスの石核1点・剥片12点（8個体）の接合資料である。やや扁平な楕円磗を分割した大型の剥片を素材とし、35の上面図で、上方方向から35-1→35-2→35-3を剥離し、打点を下方方向に移動して上方方向に35-4→35-5などの剥片を剥離した後、再び打点を下方方向に移動して上方方向に35-6→○→○→○→35-7などの剥片を剥離している。さらに打点を左方向に移動して

第41表 63Z-Bブロック礫組成

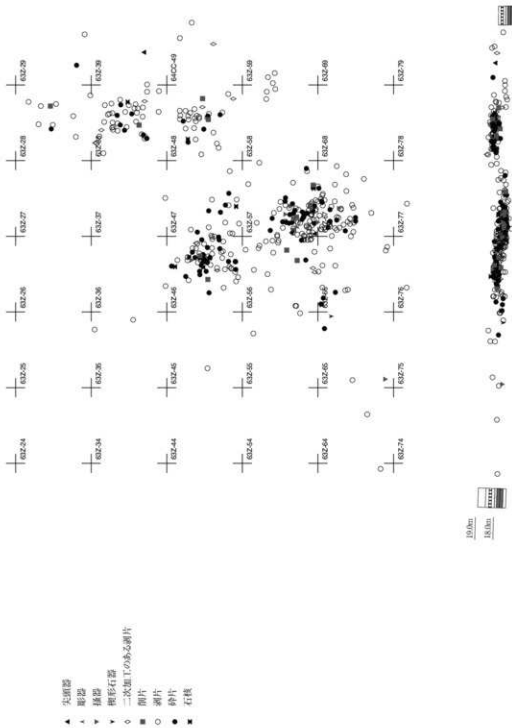
石材 / 産地	塊数	点数合計	重量合計 (g)
円礫	3001	3001	24599.38
SAR	979	979	9046.18
CHR	233	233	2438.54
HDR	63	63	813.14
合計	4276	4276	36857.24

大型の楕円礫あるいは円礫の打面側を剥離して平坦な打面を出し、図版 50-53-1 や図版 50-53-2 など中～大型で不定形な剥片を剥離している。1、2a、2b～d、2e・f には石材の色調に違いがあり、被熱による変色の可能性がある。図版 50-54（接合資料 05011）は黒色頁岩の石核 1 点・剥片 2 点の接合資料である。比較的薄手の板状の剥片を素材とし、両面

の両端に加撃して、小型で不定形な剥片を剥離している。石材の関係から、生産された剥片は薄い板状のものである。図版 50-55（接合資料 05090）はトロトロ石の剥片 2 点の接合資料である。楕円礫あるいは円礫を素材とし、図版 50-55-1 を剥離した後、上下に打点を移動しながら、図版 50-55-2 など不定形な縦長剥片を剥離している。



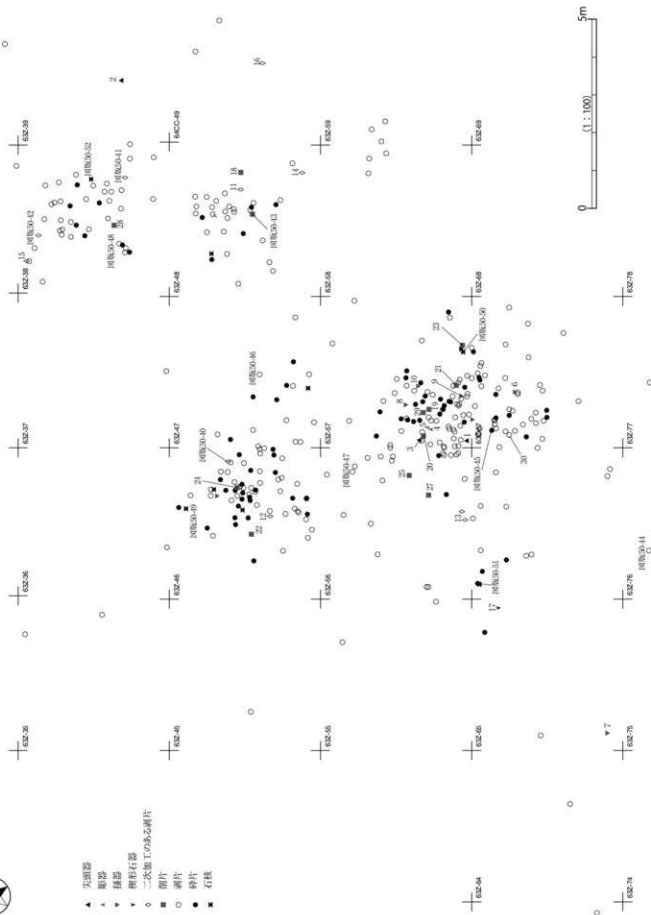
第124図 63Z-Bブロック出土遺物分布(1)



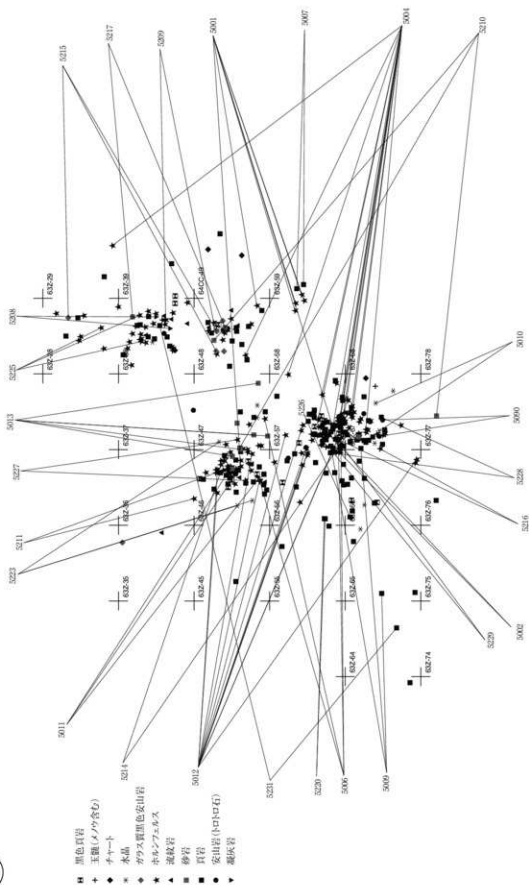
第125図 63Z-Bブロック出土遺物分布(2)-器種別(1)-



- ▲ 瓦・土器
- △ 形器
- ▽ 桶形石器
- 二次加工のある薄片
- 湖片
- 湖片
- 砂片
- ✕ 石核



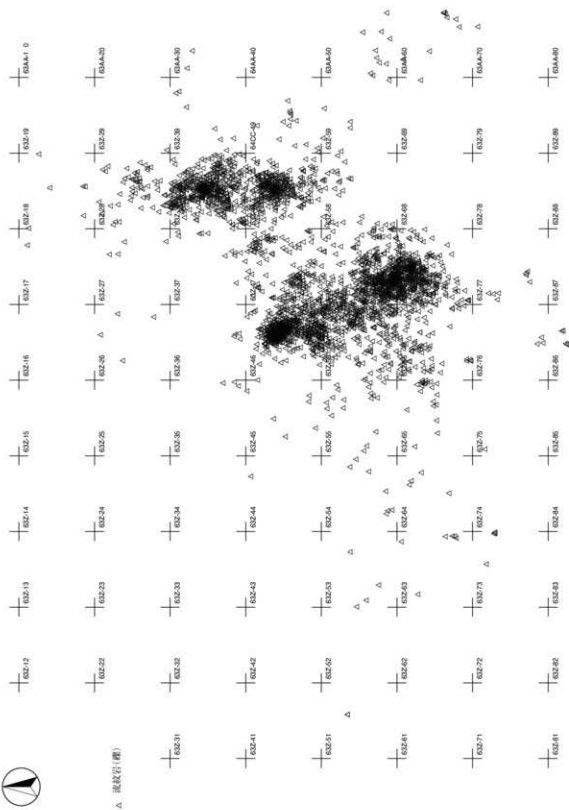
第126図 63Z-Bブロック出土遺物分布(3)-器種別(2)-



第127図 63Z-Bプロック出土遺物分布(4)-石材別(1)-



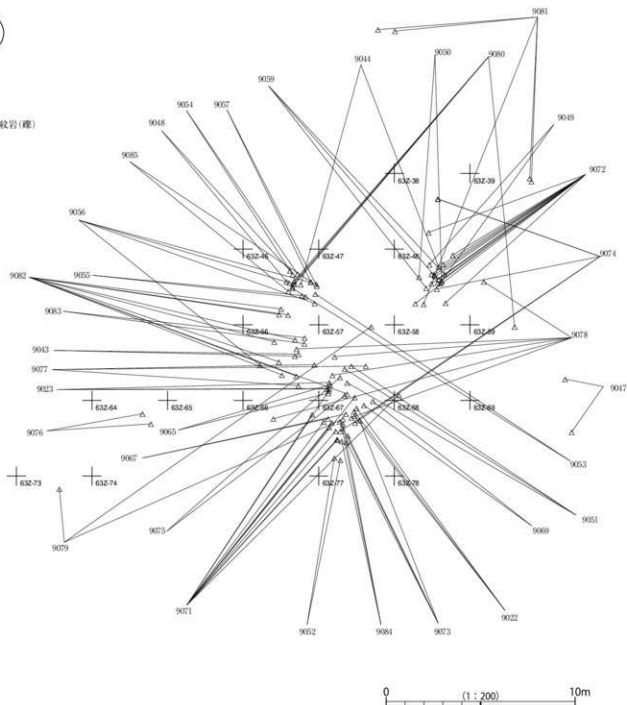




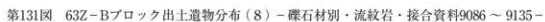
第129図 63Z-Bフロック出土遺物分布(6) - 礫石材料別・流紋岩 -



△ 流紋岩(礫)

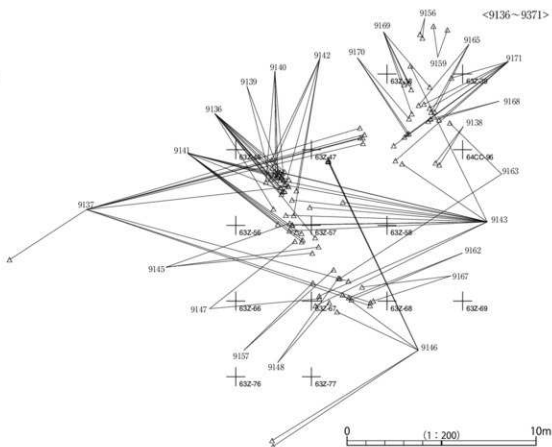


第130図 63Z-Bブロック出土遺物分布(7) - 礫石材別・流紋岩・接合資料9022～9085 -

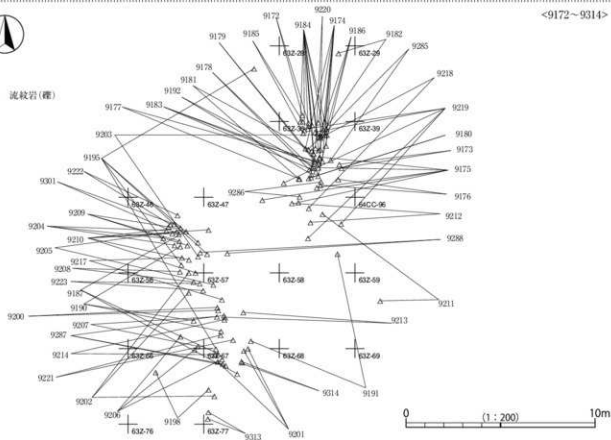




△ 流紋岩(種)



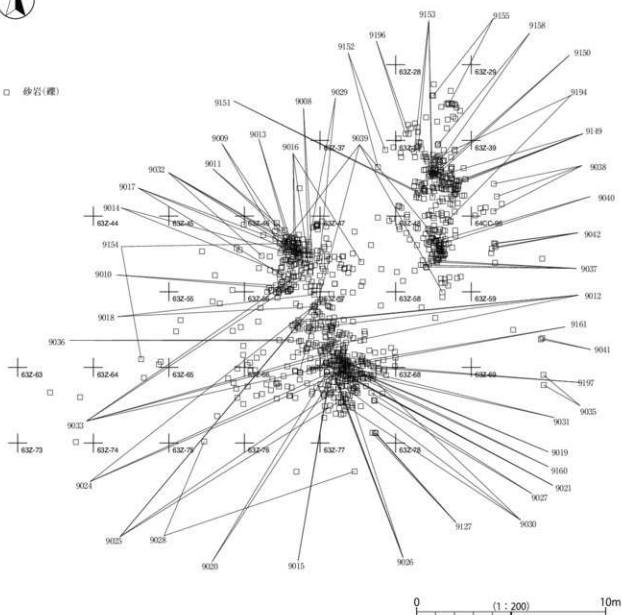
△ 流紋岩(種)



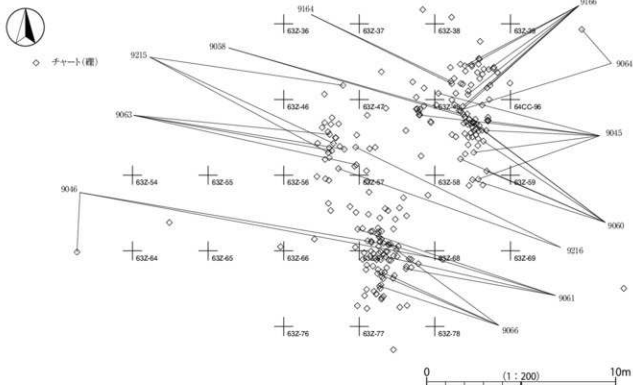
第132図 63Z-Bブロック出土遺物分布(9) - 礫石材別・流紋岩・接合資料9136 ~ 9314 -



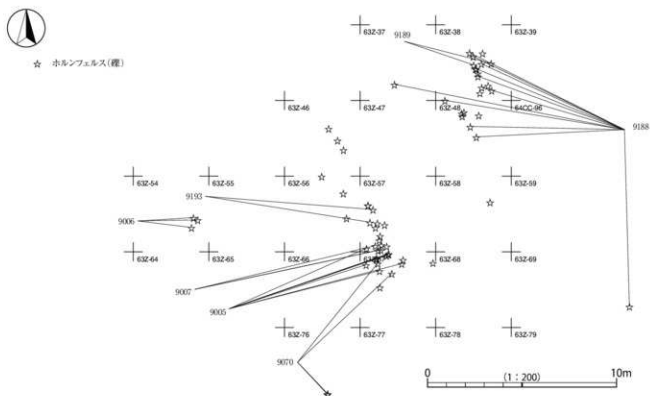
□ 砂岩(礫)



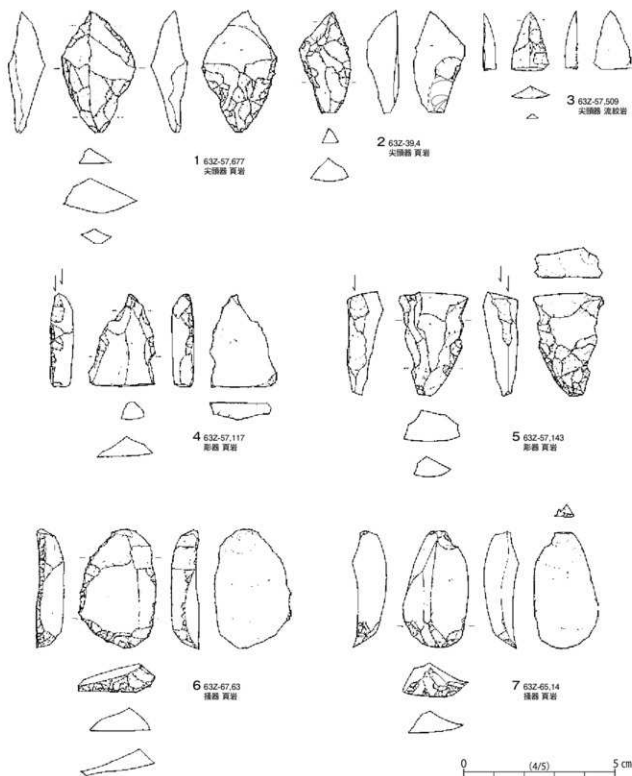
第133図 63Z-Bブロック出土遺物分布 (10) - 礫石材別・砂岩 -



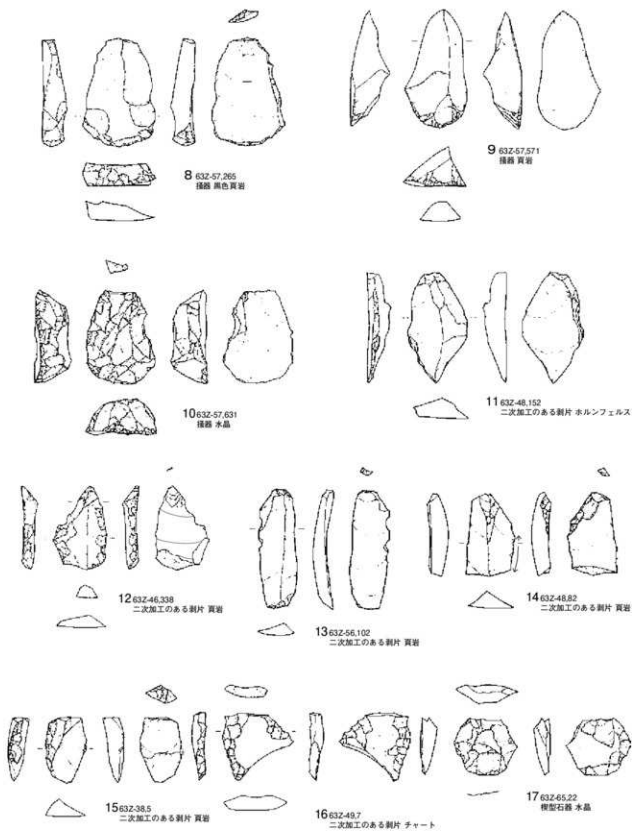
第134図 63Z-Bブロック出土遺物分布 (11) - 礫石材別・チャート -



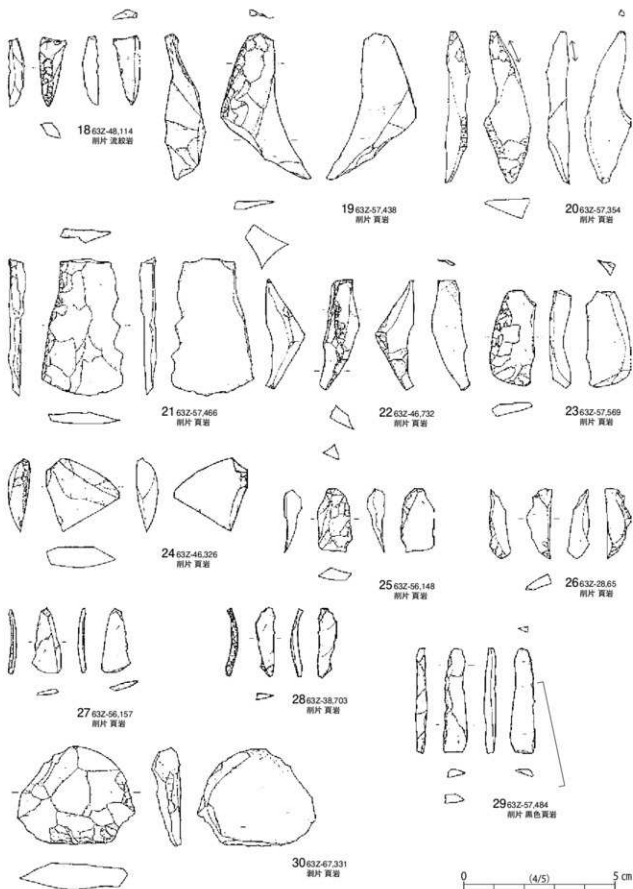
第135図 63Z-Bブロック出土遺物分布 (12) - 礫石材別・ホルンフェルス -



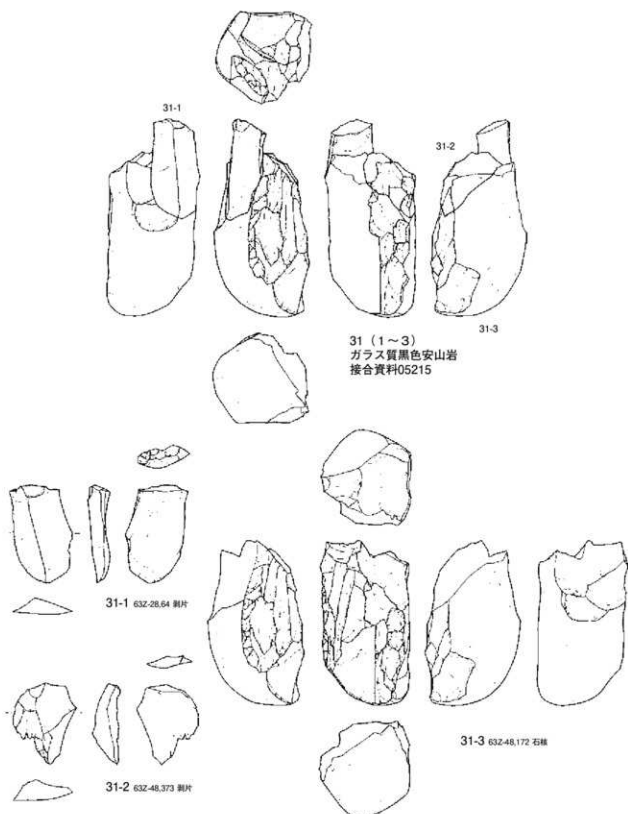
第136図 63Z-Bブロック出土遺物(1)



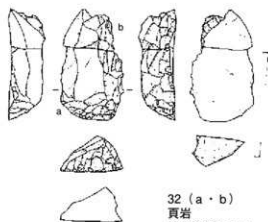
第137図 63Z-Bブロック出土遺物(2)



第138図 63Z-Bブロック出土遺物(3)



第139図 63Z-Bブロック出土遺物(4)



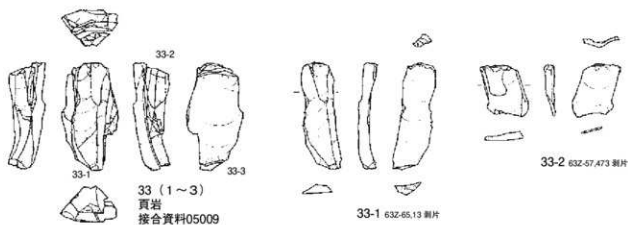
32 (a・b)

頁岩

接合資料05214

32a 63Z-67,399 残断

32b 63Z-46, 36 残断



33 (1~3)

頁岩

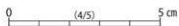
接合資料05009

33-1 63Z-65,13 断片

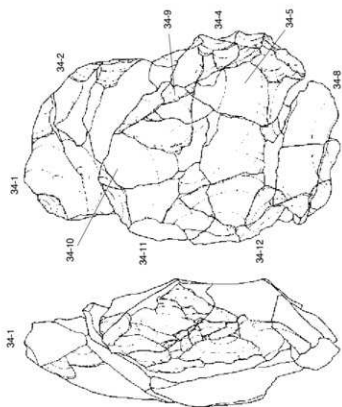
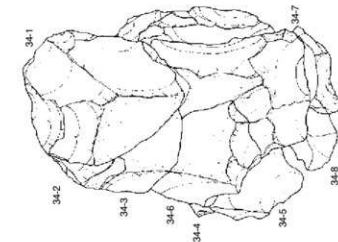
33-2 63Z-57,473 断片



33-3 63Z-67,400 断片



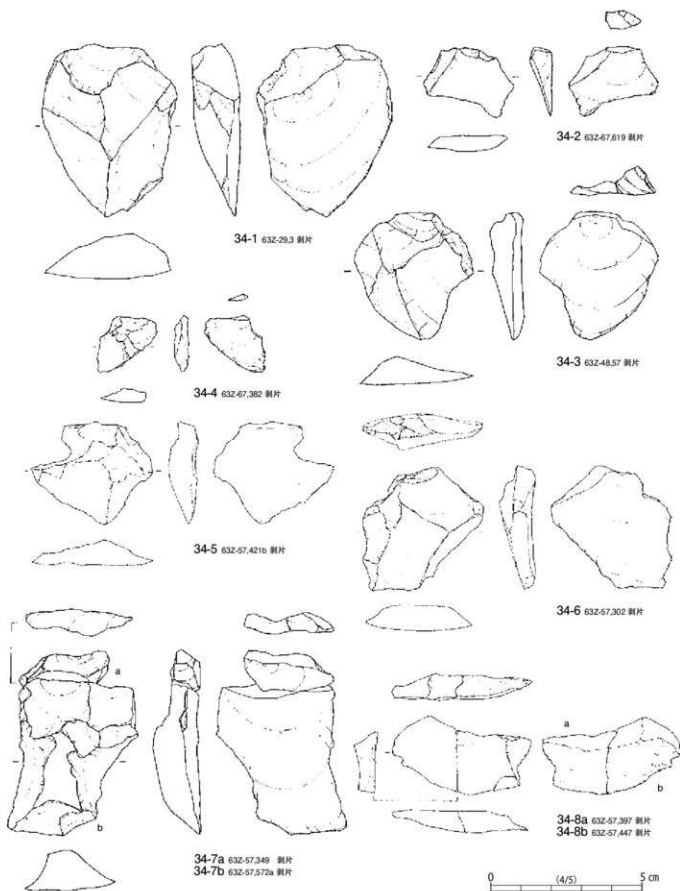
第140図 63Z-Bブロック出土遺物(5)



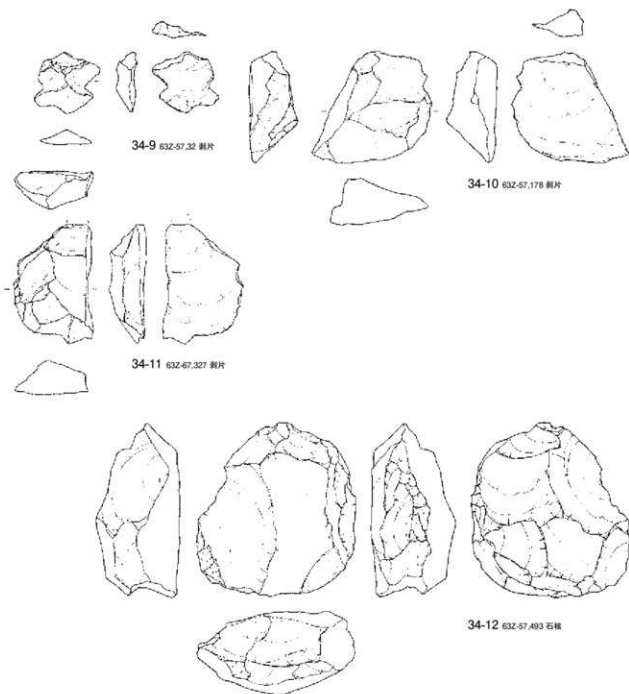
34 (1~12)
ホルンフェルス
接合資料05004

第141図 63Z-Bブロック出土遺物 (6)





第142図 63Z-Bブロック出土遺物(7)

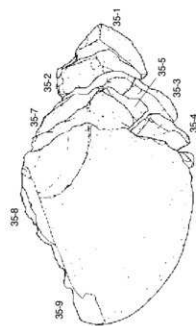
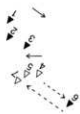


第143図 63Z-Bブロック出土遺物(8)

打点の移動



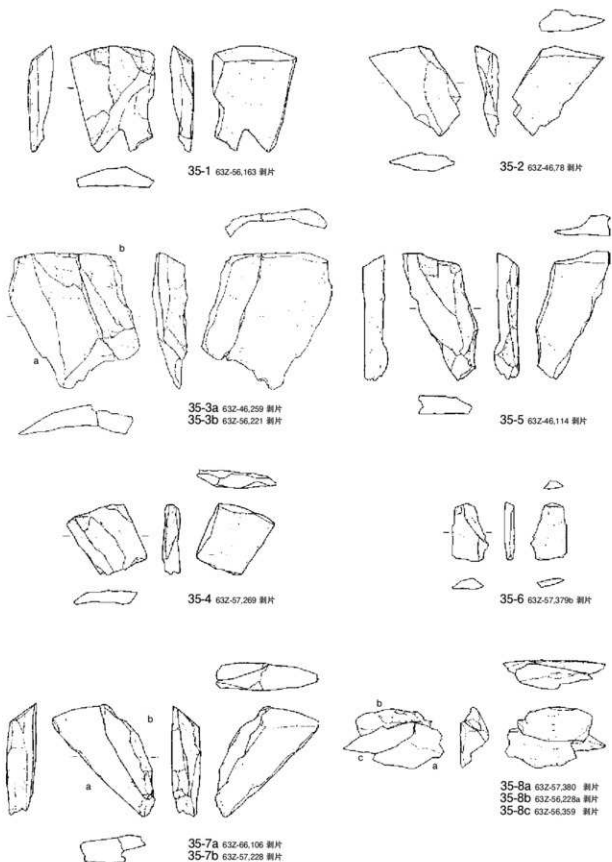
1~3-6-8は▲打点位置
4-5-7は△打点一部欠損



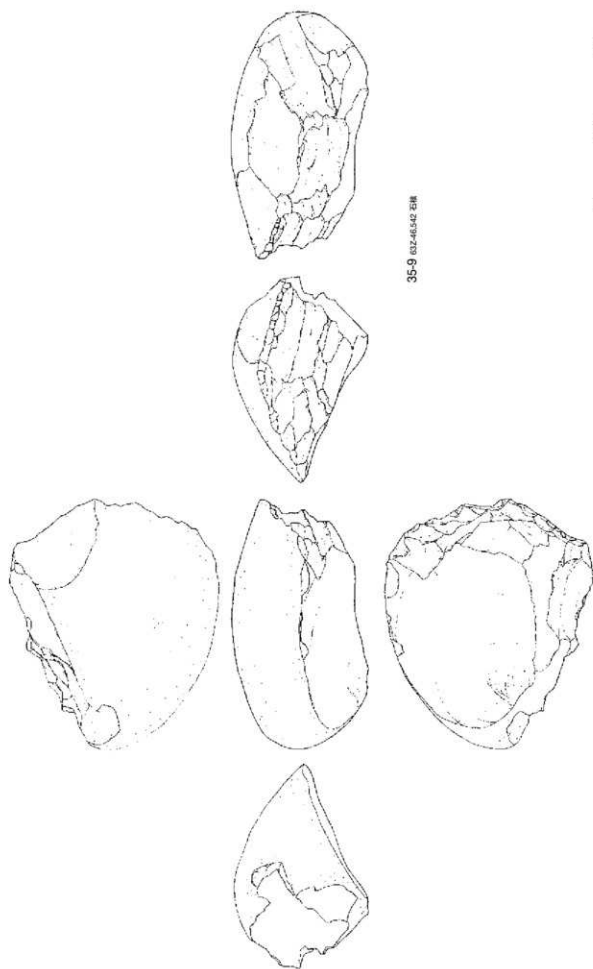
35 (1~9)
ホルンフェルス
接合資料05012



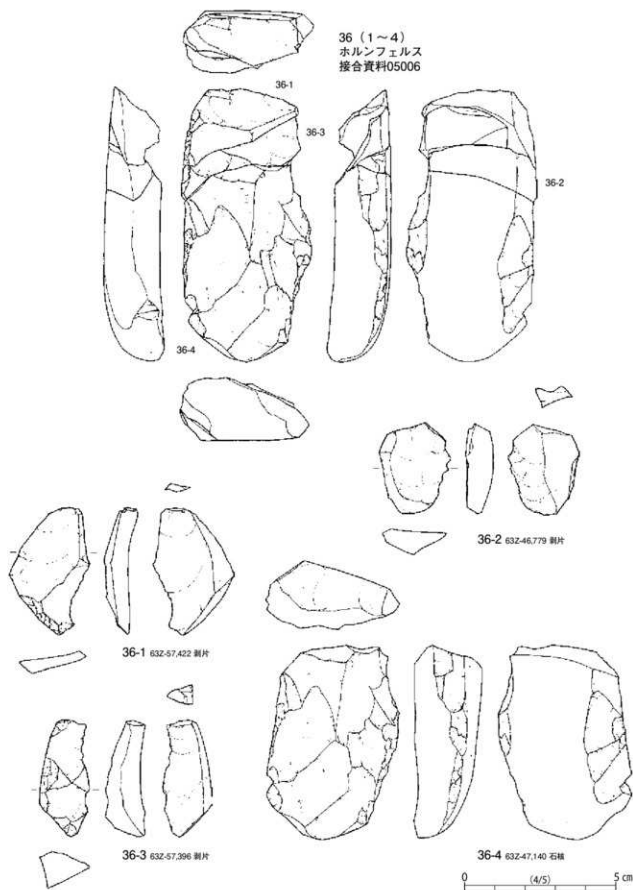
第144図 63Z-Bブロック出土遺物 (9)



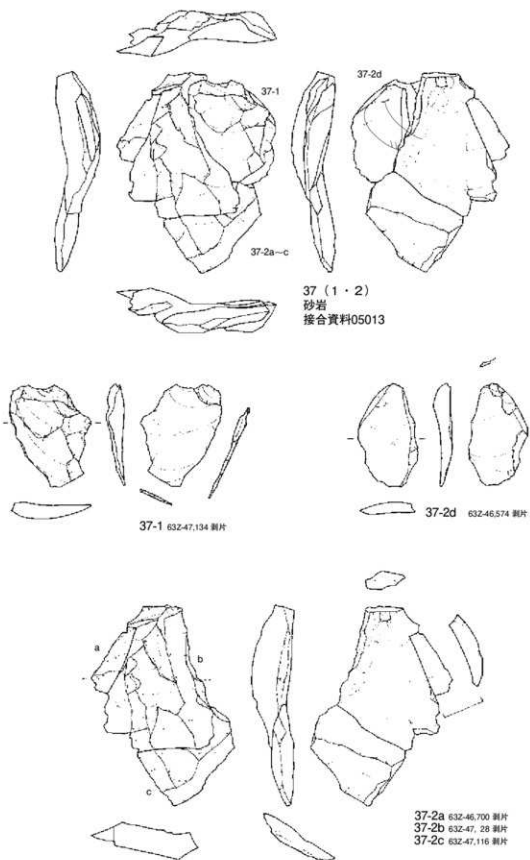
第145図 63Z-Bブロック出土遺物 (10)



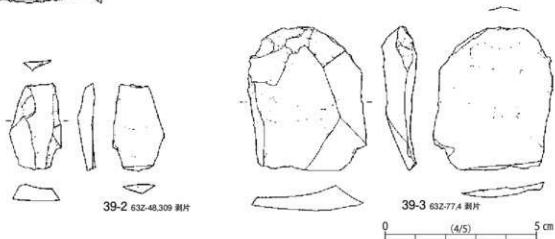
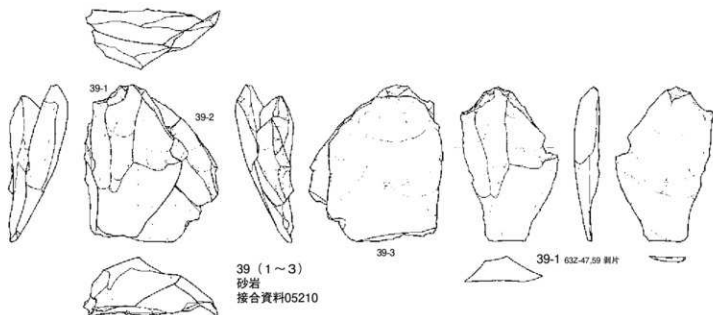
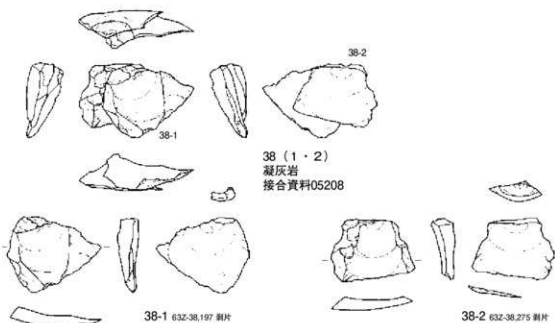
第146図 63Z-Bフロック出土遺物 (11)



第147図 63Z-Bブロック出土遺物 (12)



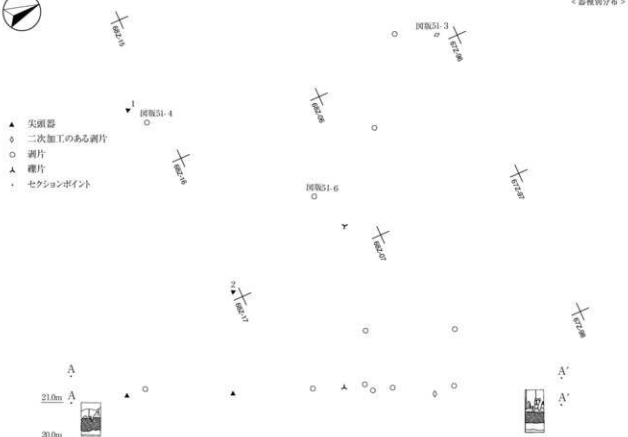
第148図 63Z-Bブロック出土遺物 (13)



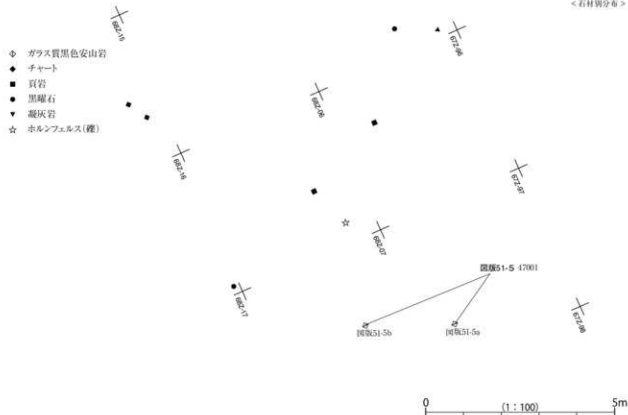
第149図 63Z-Bブロック出土遺物 (14)



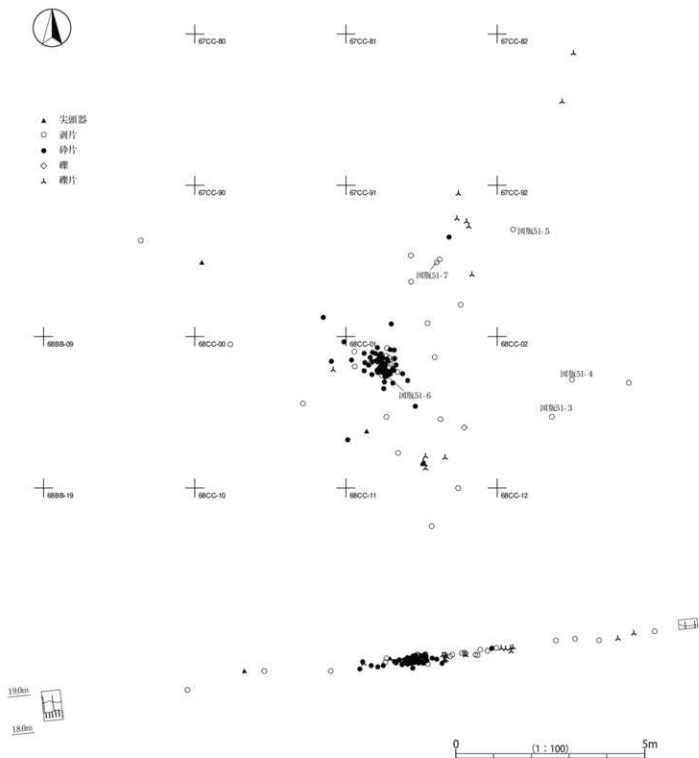
< 器種別分布 >



< 石材質分布 >



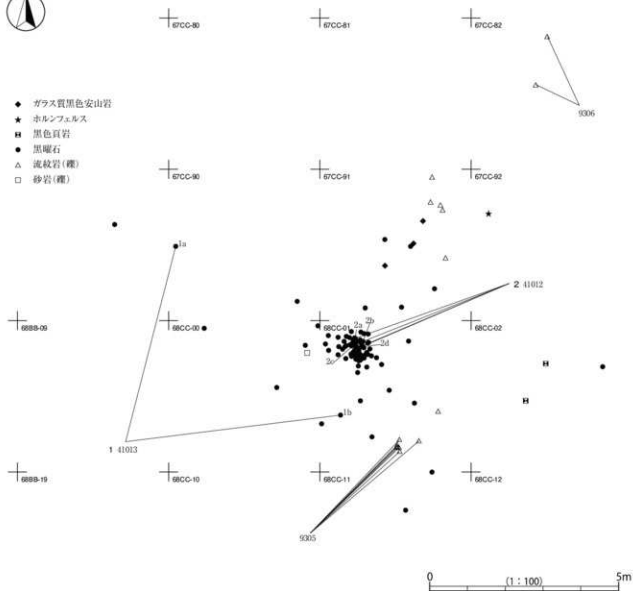
第150図 67Z-Cブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



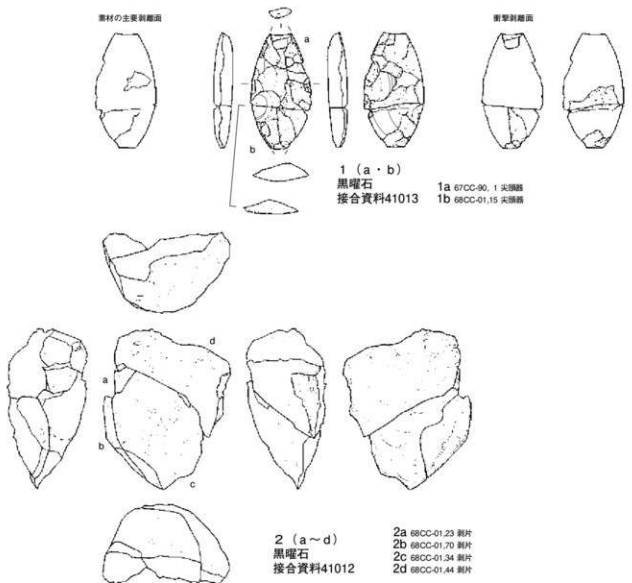
第152図 67BB-Dブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ★ ホルンフェルス
- 黒色頁岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩 (種)
- 砂岩 (種)



第153図 67BB-Dブロック出土遺物分布(2) -石材別-



第154図 67BB-Dブロック出土遺物

7 時期不明

ここでは、定型的な石器や出土層位が不明など帰属文化層の判断が出来なかった石器を取り扱うこととする。ブロックを形成するものが6か所、単独ブロックが11か所である。

1 67HH-Aブロック（第155～158図、第44表、図版7・52）

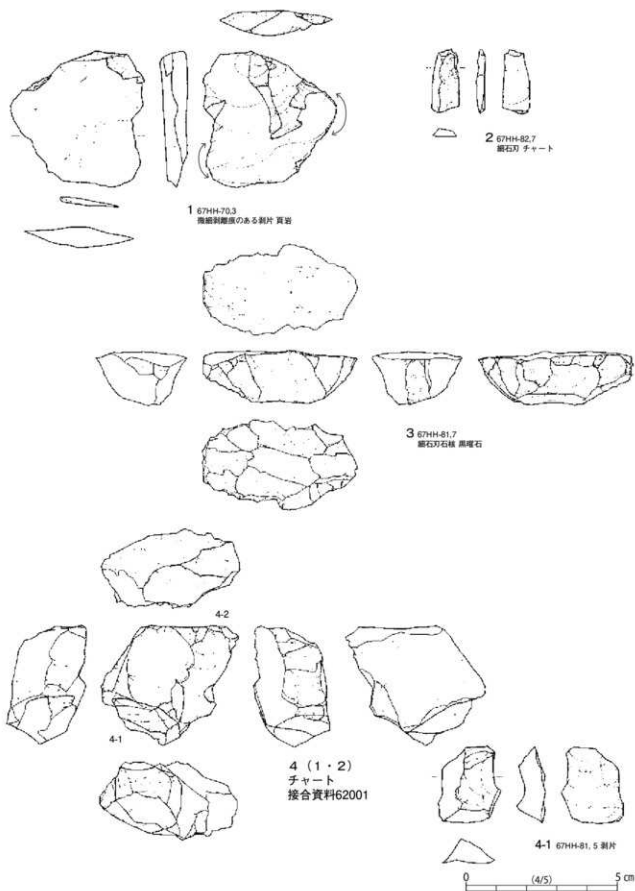
西側地区の東側、67HH-70・71、81・82グリッドに分布する。12.3 m × 3.8 mの範囲から21点の石器と1点の礫が出土した。0.45mの高低差をもって包含される。

石器器種は、微細剥離痕のある剥片・細石刃・細石核・剥片・砕片・石核と礫片で構成される。石器石材は、チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、チャートと頁岩が主体である。礫石材は、ホルンフェルスである。

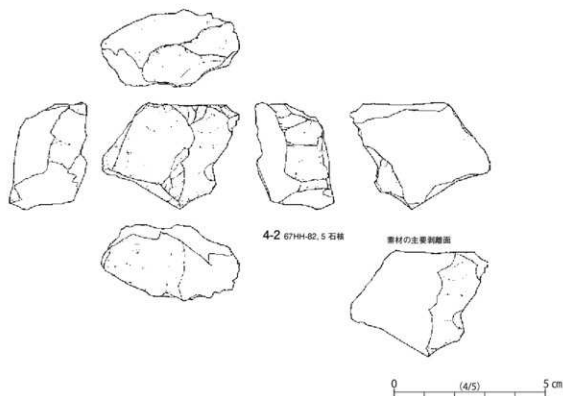
1は灰白色の珪化度のある頁岩の微細剥離痕のある剥片である。裏面の両側縁の一部に微細な剥離痕が見られるが、偶発的な剥離の可能性が高い。2は暗青灰色・オリーブ灰色のチャートの細石刃としたが、別な器種の可能性もある。3は灰白色の不純物を含む暗緑灰色の黒曜石で、右側面に複数の細長い剥離痕が見られることから船底型の細石刃石核としたが、この資料も2同様、別器種の可能性がある。4（接合資料62001）はオリーブ灰色の地にオリーブ黒色のモヤや線が入るチャートの石核1点・剥片1点の接合資料である。正面図の右半分に素材の主要剥離面を残していることから、比較的厚めの剥片を素材として、打面を90度転回しながら不定形な縦長剥片を剥離している。5は黒色頁岩の石核で、裏面側が全て自然面の比較的厚めの剥片を素材としている。素材の平坦な主要剥離面を打面とし、素材の打面側を作業面として小型で不定形な剥片を剥離している。図版52-6～8は剥片である。石材は図版52-6が緑黒色のチャート、図版52-7・8は珪化度のある頁岩で、色調は図版52-7がオリーブ灰色、図版52-6が灰白色である。図版52-7・8は浅黄橙色のホルンフェルスとしたが、黒色頁岩の可能性もある。図版52-6は横長、図版52-7・10は不定形で図版52-7は左側面を欠損する。図版52-8・9は不定形な縦長剥片である。図版52-8は稜上調整が見られることから、稜付石刃の可能性もある。

第44表 67HH-Aブロック石器組成

石材・器種	実測器	角型材 石核	ナイフ 石核	全形種 石核	差器	種器	二次 加工	微細 剥離	剥片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石片	礫石	台石	厚石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
CH										1		5	3	1						10	45.5%	65.45	19.4%
HO												3								3	13.6%	36.1	11.3%
SH								1				5								6	27.3%	100.12	29.6%
BS														1						1	4.5%	106.57	31.5%
OB											1									1	4.5%	25.04	7.4%
HOR																		1	1	4.5%	2.7	0.8%	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	13	3	2	0	0	0	0	1	22	100.0%	337.98	100.0%



第156図 67HH-Aブロック出土遺物分布(1)



第157図 67HH-Aブロック出土遺物分布(2)

2 67HH-B ブロック (第 159～160 図、第 45 表、図版 7・51・52)

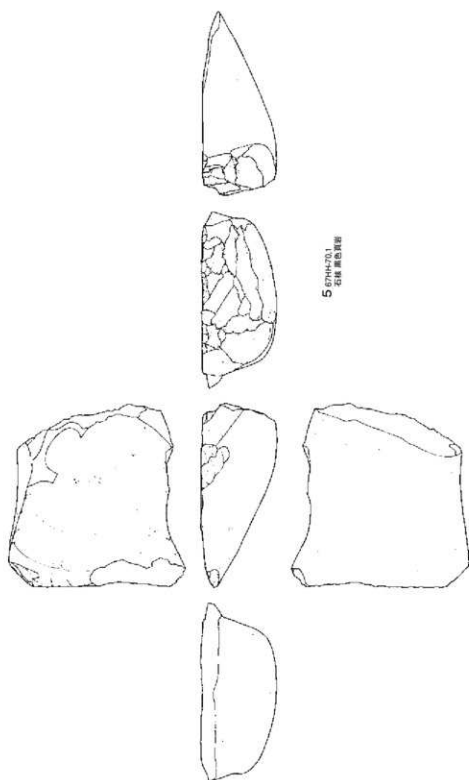
西側地区の東側、67HH-18、27～29 グリッドに分布する。6.0 m × 4.5 m の範囲から 3 点の石器と 4 点の礫が出土した。0.09m の高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・微細彫刻離痕のある剥片・剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、頁岩のみで、礫石材は、流紋岩・チャートで構成される。

1 はぶい黄橙色の珪化度の高い頁岩のナイフ形石器である。打面側を基部とし、左側縁に細かい調整加工、右側縁に微細な調整加工を行っている。これらの調整加工の差は両側縁の厚みの差によるものと思われる。形状については全周に調整加工が見られることから一側縁加工か二側縁加工か不明である。ナイフ形石器としたが、形状(態)が不明であることから、むしろ旧石器時代終末期の周縁加工の尖頭器とした方がよいかもしれない。また、本資料の両面には赤褐色化した多数の線状の痕跡が見られる。発見時以前に耕作など鉄製農機具での新規欠損に伴う金属の付着により生じたサビの可能性があることから、出土層位については現表土での表採ではないが、攪乱の影響を受けているかもしれない。2 は浅黄色・灰色・灰オリーブ色が混じった珪化度の高い頁岩の不定形な剥片である。

第45表 67HH-Bブロック石器組成

石材/器種	実測値 石器	角礫状 石器	ナイフ 形石器	全形礫 石器	原形	原形 石器	二次 加工	微細 彫刻	剥片	礫石片	礫石片	剥片	石核	石片	礫石	台石	厚石	厚 礫片	点数合計	重量合計		
SH			1									2							3	42.9%	42.86	42.0%
RHSH																			3	42.9%	46	45.1%
CHR																			1	14.3%	13.09	12.8%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	7	100.0%	101.95	100.0%



第158図 67HH-Aブロック出土遺物分布 (3)





67HH-16

67HH-17

67HH-18

67HH-19

< 器種別分布 >

- ★ ナイフ形石器
- 剥片
- ▲ 礫片

67HH-26

67HH-27

67HH-28

67HH-29

67HH-36

67HH-37

67HH-38

67HH-39

30.0m

19.0m



67HH-16

67HH-17

67HH-18

67HH-19

< 石材別分布 >

- 頁岩
- △ 流紋岩(礫)
- ◇ チャート(礫)

67HH-26

67HH-27

67HH-28

67HH-29

67HH-36

67HH-37

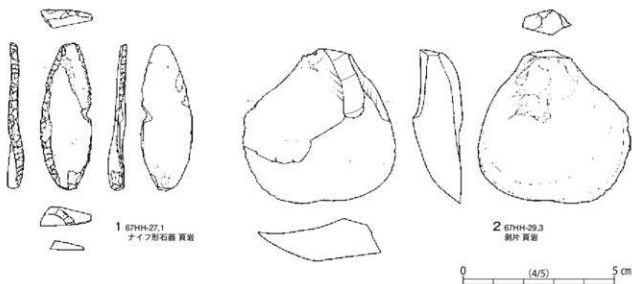
67HH-38

67HH-39



0 (1 : 100) 5m

第159図 67HH-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第160図 67HH-Bブロック出土遺物

3 63Y-A ブロック (第161・162図、第46表、図版7・53)

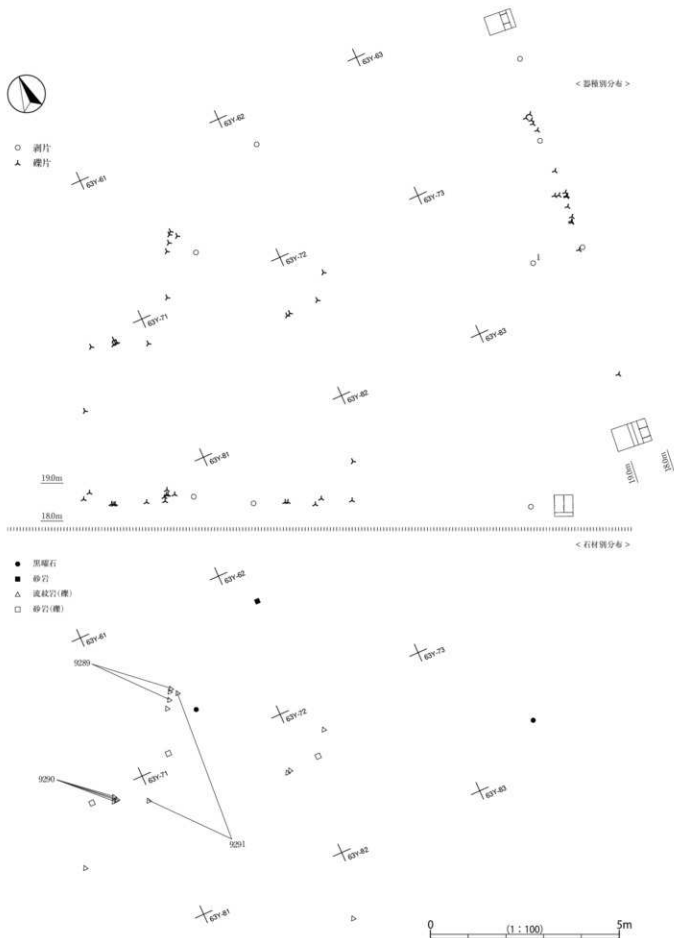
西側地区の西側、66Y-61・62、70～73、81グリッドに分布する。12.5 m × 5.1 m の範囲から3点の石器と18点の礫が出土した。0.40m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、礫が主体である。石器石材は、砂岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され、流紋岩が主体である。

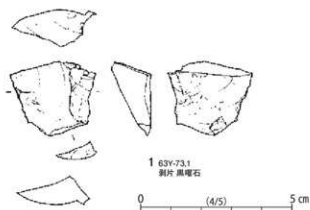
1は信州産と考えられる灰白色の不純物を含む透明感のある黒灰色の黒曜石の不定形な剥片である。

第46表 63Y-Aブロック石器組成

石材 / 器種	実測礫	角礫状 石礫	ナイフ 形石礫	全形礫 石礫	礫片	礫片	二次 加工	礫片	礫石片	礫石片	礫片	礫片	石礫	石礫	礫石	台石	原石	礫 片	点数合計	重量合計 (g)		
SA												1						1	4.8%	3.92	0.3%	
OB												2						2	9.5%	9.06	0.7%	
RHR																		15	15	71.4%	1099.28	87.4%
SAR																		3	3	14.3%	145.96	11.6%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	18	21	100.0%	1298.24	100.0%



第161図 63Y-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第162図 63Y-Aブロック出土遺物

4 64V-Bブロック (第163・164図、第47表、図版7・53・54)

西側地区の西側、64V-89、64W-80・91グリッドに分布する。10.2 m × 2.7 mの範囲から8点の石器と9点の礫が出土した。0.24mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。石器石材は、チャート・頁岩・玉髄で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩・チャートで構成される。

1は緑灰色のチャートの石核で、小型の円礫を素材として、平坦な打面を作出して、正面図の左から右方向に打点を移動しながら、不定形な縦長剥片を剥離している。2は玉髄の石核で、角礫に近い小型の楕円礫を素材として、1同様、平坦な打面を作出して、不定形な剥片を剥離している。なお、下底面にも剥離面が複数見られる。3は浅黄色のチャートあるいは珪化した頁岩の敲石である。小型の楕円礫の両端に浅い敲打痕が見られる。

図版54-4～7は剥片で、図版54-4・6・7は珪化度の高い頁岩である。図版54-4は黄褐色、図版54-6は灰オリーブ色、図版54-7はにぶい黄橙色の地に褐灰色が混じる。図版54-6・7は嶺岡産頁岩に類似する。図版54-5は玉髄である。図版54-4・7は縦長剥片、図版54-5・6は不定形な剥片である。

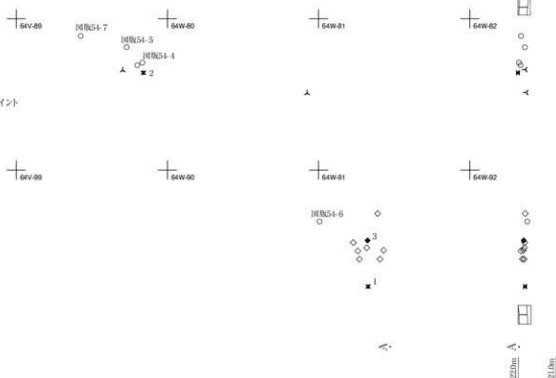
第47表 64V-Bブロック石器組成

石材・器種	実測形 石核	角礫状 石核	ナイフ 形石核	せみ殻 石核	敲石	接石	磨製 石核	二次 加工	礫片	礫石	礫石	剥片	石核	石片	敲石	頁岩	玉髄	磨片	点数合計	重量合計 (g)			
CH													1		1				2	11.8%	108.83	22.0%	
SH												4							4	23.5%	48.65	9.9%	
CC												1		1					2	11.8%	36.4	7.4%	
RHR																			5	5	29.4%	157.52	31.9%
SAR																			1	1	5.9%	48.84	9.9%
CHR																			3	3	17.6%	93.35	18.9%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	0	1	0	0	9	17	100.0%	493.39	100.0%



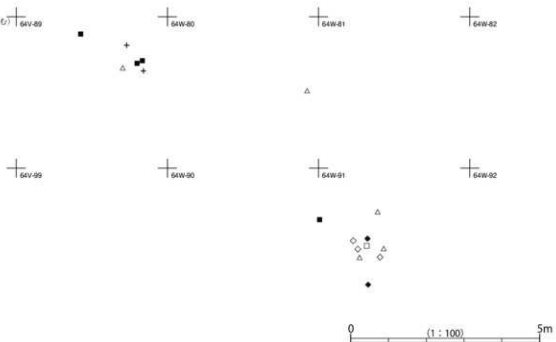
- 剥片
- ✱ 石核
- ◆ 敲石
- ◇ 礫
- 人 礫片
- ・ セクションポイント

< 器種別分布 >

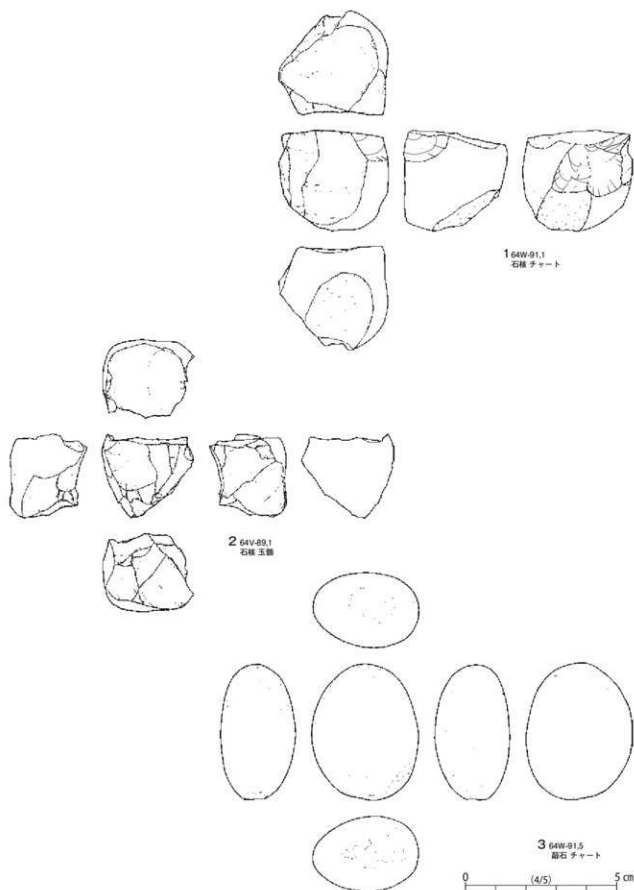


< 石材別分布 >

- ◆ チャート
- 頁岩
- + 玉髄(メノウ含む)
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)
- ◇ チャート(礫)



第163図 64V-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第164図 64V-Bブロック出土遺物

5 64V-Aブロック (第165・166図、第48表、図版7・54)

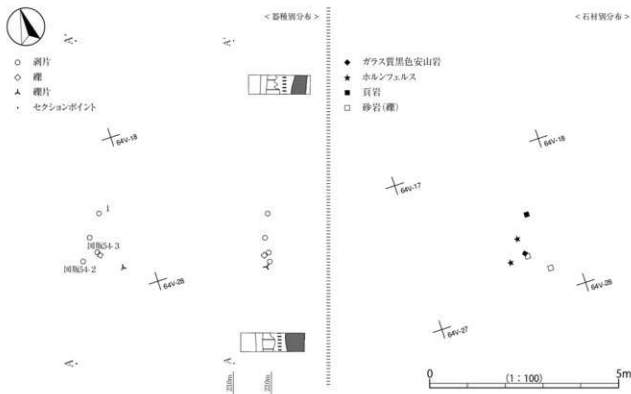
西側地区の西側、64V-17グリッドに分布する。15 m×12 mの範囲から4点の石器と2点の礫が出土した。0.14mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・頁岩で構成される。礫石材は、砂岩である。

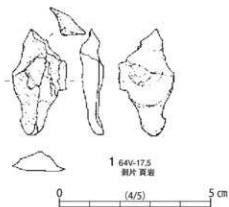
1 は灰オリーブ色の地にオリーブ黒の縞が入る珪化度の高い頁岩の不定形な剥片である。多少、嶺岡産頁岩に類似する。図版 54-2・3 は不定形な剥片で、石材は図版 54-2 が泥岩質のホルンフェルス、図版 54-3 がガラス質黒色頁岩である。

第48表 64V-Aブロック石器組成

石材・産地	大湧岩	角礫状 石籠	アイソ 新石籠	全形整 石籠	荒置	積置	磨粒 加工	二次 加工	無縫 加工	板片	新石片	新石籠	板片	砂片	石籠	石帯	磨石	谷石	磨石	崖片	点検合計	重量合計 (t)			
GA																					1	16.7%	2.03	1.1%	
HO													2								2	33.3%	13.04	7.4%	
SH														1							1	16.7%	2.83	1.6%	
SAR																					2	33.3%	198.78	89.9%	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	6	100.0%	176.08	100.0%



第165図 64V-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第166図 64V-Aブロック出土遺物

6 68EE-A ブロック (第167図、第49表、図版7)

西側地区の東側、68EE-05 から2点の礫が出土した。0.002mの高低差をもって包含される。

石器器種は、礫・礫片で、礫石材は、流紋岩である。

第49表 68EE-Aブロック礫組成

石材 / 器種	数	数	点数合計	重量合計 (g)
FRH	2	2	100.0%	661.06 100.0%
合計	2	2	100.0%	661.06 100.0%



A.

A.

- ◇ 礫(流紋岩)
- ・ セクションポイント



B

◇

A.

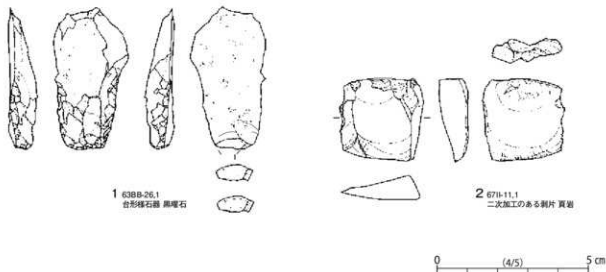
A.



第167図 68EE-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

7 単独ブロック

1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を含む透明感のある黒色の黒曜石の台形様石器である。打面側を基部とし、両側縁の下半部に急角度の調整加工を行っている。なお、裏面の下面図の一部に素材の打面の一部を残しているが、折断面から背面に向けて頭部調整のような細かい調整加工を行っている。底状の突起を取るための加工と思われる。第1文化層の可能性もあることから、時期不明としたが、第2文化層に帰属する可能性が高い。2は灰白色～浅黄色の珪化度の高い頁岩の二次加工のある剥片である。表面左側縁と裏面右側縁のそれぞれ一部に細かい剥離痕が見られることから二次加工のある剥片としたが、これらの剥離痕は偶発的な剥離の可能性が高い。



第168図 単独出土遺物

第3章 総括

第2章において、翁原遺跡（西側旧石器時代）の調査成果を詳述した。翁原遺跡は、現在、整理作業中の東側旧石器時代及び縄文時代以降、今後調査が予定されている未調査の地点などが残っているが、これまで旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、中・近世などの遺構・遺物が検出されている。

縄文時代は、前期の堅穴住居跡4軒、早期と思われる陥穴23基、土坑7基が検出されており、土坑の内1基は前期黒沢期のものである。奈良・平安時代は、堅穴住居跡2軒が検出されている。中・近世は、江戸時代の牧関係の野馬土手3条、中世～近世の溝9条が検出されている。

翁原遺跡における成果のうち、注目されるのは旧石器時代であるが、東側旧石器時代が整理中であるので、ここでは、西側旧石器時代の総括を記すこととする。

旧石器時代 中央に埋没谷が走るほぼ南北の台地に分かれ、今回の西側の地点はその南側の南西部にあたり、多数のブロックが分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 第1文化層の石器群は、総計14点の石器が出土している。1点離れて出土した遺物があるが、それ以外は1か所の集中地点で構成される。X層～Ⅷ層から出土しているが、X層を主体としていることから、立川ローム層の最下層であるX層の石器群と推定される。西側旧石器時代では最古の文化層である。西側地区の東側に分布している。

第1文化層の石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・砂岩の4種類で、局部磨製石斧と局部磨製石斧に関係すると思われる剥片出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。なお、チャートの一部に、いわゆる海沢産[®]のチャートの特徴を持つものがある。

第2文化層 IX層を中心に出土しており、石器794点、礫34点の総計828点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。

第2文化層の石器石材は、信州産黒曜石が半数以上を占め、残りは頁岩・ガラス質黒色安山岩・チャートでほぼ90%である。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。

第3文化層 Ⅷ層～Ⅵ層から出土した石器群である。石器257点、礫25点の総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。一部、第2文化層のブロックが含まれているかもしれない。

第3文化層の石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒曜石・黒色頁岩で80%以上を占め、残りは頁岩・チャートでほぼ95%である。

第4文化層 V層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。石器256点、礫59点の総計315点が出土し、7か所の集中地点で構成される。

第4文化層の石器石材は、高原山産黒曜石が90%以上を占め、残りガラス質黒色安山岩、頁岩でほぼ97%である。

第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東内野型の有踵尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。石器377点、礫4,276点の総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。比較的大型の剥片を素材とした石核から不定形あるいは横長の剥片を連続的に剥離する特異な工程を示す接合資料がある。

第5文化層の石器石材は、ホルンフェルスと頁岩では80%である。また、頁岩には尖頭器・彫器・瑣器といった製品が含まれるが、両者は剥片や砕片が主体であることから、本ブロックで石器の製作が行われていたことが推測される。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。石器107点、礫18点の総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。第6文化層の石器石材は、黒曜石が80%以上を占めるブロックとガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒曜石・ホルンフェルスの5種類が均等に使用されたブロックがある。

時期不明 定型的な石器や出土層位が明確でないことなどから帰属時期を決定できなかった石器群で、総計75点が出土し、ブロックを形成するものが6か所、単独ブロックが11か所である。細石刃や細石刃核の可能性のある資料が出土しているが、後者について仮に細石刃核とした場合は、稜柱型ではなく、非削片系の船底型の細石刃核の可能性はある。

これまでに報告された屋敷内遺跡、内山遺跡の各文化層との対応関係をまとめて、総括の最後としたい。

① 翁原遺跡第1文化層 局部磨製石斧

② 屋敷内遺跡Ⅸ層文化層 台形礫石器、ナイフ形石器

内山遺跡第1文化層の一部 ナイフ形石器、石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第2文化層の一部 台形礫石器、ナイフ形石器、一部に局部磨製石斧

③ 屋敷内遺跡Ⅶ層～Ⅸ層文化層 石刃あるいは縦長剥片

内山遺跡第1文化層の一部 石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第2文化層の一部 石刃あるいは縦長剥片

④ 屋敷内遺跡Ⅶ層文化層 石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器

内山遺跡第2文化層 石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第3文化層 石刃あるいは縦長剥片

⑤ 屋敷内遺跡Ⅳ層～Ⅴ層文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

内山遺跡第3文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

翁原遺跡第4文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

⑥ 内山遺跡第4文化層 石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器、砂川期の石器群

⑦ 屋敷内遺跡Ⅲ層～Ⅳ層文化層 有樋尖頭器

内山遺跡第5文化層の一部 有樋尖頭器

翁原遺跡第5文化層 大量の礫群や有樋尖頭器、

⑧ 屋敷内遺跡Ⅲ層文化層 尖頭器、ナイフ形石器

内山遺跡第5文化層の一部 尖頭器、ナイフ形石器

翁原遺跡第6文化層 尖頭器

⑨ 屋敷内遺跡Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層 細石器

内山遺跡第5文化層 細石器

翁原遺跡第時期不明 細石刃や細石刃核の可能性のある資料が出土しているが、後者について仮に細石刃核とした場合は、稜柱型ではなく、非削片系の船底型の細石刃核の可能性はある。

各遺跡によって、一部文化層の識別（細別）の差等から複数の文化層に分かれるものもあるが、概ね以上のとおりである。

柏北部中央地区では、X層からⅢ層まではほぼ満遍なく石器が出土しているが、A T下位の後旧石器時代前半期石器群としては、②で翁原遺跡第2文化層の一部に信州産の良質な黒曜石の石刃あるいは縦長剥片の剥離工程を示す良好な接合資料があり、A T上位の後期旧石器時代後半期石器群としては、⑥では内山遺跡第4文化層の石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器を含む砂川期の石器群があり、頁岩やガラス質黒色安山岩の石刃あるいは縦長剥片の剥離工程を示す良好な接合資料、⑦では翁原遺跡第5文化層に大量の礫群や有樋尖頭器を伴う大規模なブロックの資料があり、不定形あるいは横長の剥片を剥離する特異な工程を示す接合資料、⑨では内山遺跡第5文化層で信州産の良質な黒曜石の稜柱型の細石刃核が、多数出土しており、これらのことが特筆される。

また、翁原遺跡第1文化層と内山遺跡第4文化層は他の遺跡にはない単独の文化層で、前者は柏北部中央地区3遺跡の中では最古の文化層にあたり、後者は石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器を主体とする砂川期の石器群で、県内では珍しい石刃の製作工程を示す良好な接合資料がある。

※海沢産のチャートは、「光沢が強く、緑色・青色・紫色等の濃い色調の縞模様をなすことで共通している（略）。また節理が縞模様に沿って一定方向に走ることも特徴である」¹⁾、「青緑色や青灰色で、部分的に縞模様をなす玻璃質のもの」²⁾で奥多摩町海沢を中心に分布している。

1) 田村 隆・国武貞克 2006 「下総・北総回廊外縁部の石器石材（第3報）」『千葉県史研究』第14号 千葉県

2) 山岡磨由子 2011 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X XⅢ—印西市泉北側第3遺跡（下層）—」（財）千葉県教育振興財団

写 真 图 版



図版2 土層断面、第1文化層遺物出土状況、第2文化層遺物出土状況（1）



63Y-49 北壁セクション



66GC-80 北壁セクション



68Z-24 南壁セクション



68AA-54 北壁セクション



第1文化層 65FP-A ブロック (西から)



第2文化層 68Z-A ブロック (西から)



第2文化層 62GC-A ブロック (南西から)



第2文化層 63CC-A ブロック (北西から)



第2文化層 64CC-A ブロック (南から)



第2文化層 63V-A ブロック (北から)



第2文化層 6HW-A ブロック (西から)



第2文化層 6HC-B ブロック



第2文化層 6HC-C, 65CC-A・B,
65CC-A・B ブロック (東から)



第2文化層 6HC-C, 65CC-A・B,
65CC-A・B ブロック (南西から)



第2文化層 6HC-C, 65CC-A・B,
65CC-A・B ブロック (北から)



第2文化層 6HC-C, 65CC-A・B, 65CC-A・B ブロック



第2文化層 6HC-C, 65CC-A・B,
65CC-A・B ブロック (北東から)



第2文化層 65Y-A・B, 65Y-A ブロック





第3文化層 68AA-Aブロック（北から）



第3文化層 68AA-Bブロック（西から）



第3文化層 67BB-Cブロック（南東から）



第3文化層 68BB-Aブロック（南東から）



第3文化層 68BB-Bブロック（南東から）



第3文化層 68BB-Cブロック（南東から）

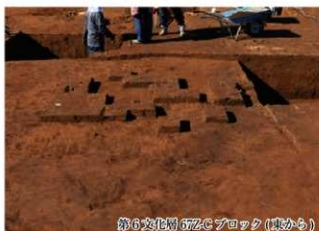


第4文化層 64X-A・B、65X-Aブロック（東から）



第4文化層 64X-A・B、65X-Aブロック（東から）

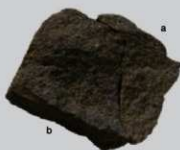




65-FF-A ブロック出土石器



1 65FF-53.1
剥片 ガラス質黒色安山岩



b



3 (a・b)
砂岩
接合資料42001
3a 65FF-90.1 剥片
3b 65FF-90.6 剥片



2 65FF-91.1
周縁磨製石斧 砂岩

63-Z-A ブロック出土石器



1 63Z-18.9
楔形石器 頁岩

62-CC-A ブロック出土石器 (1)



1 62CC-95.1
ナイフ形石器 黒曜石



2 62CC-92.4
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



3 62CC-94.4
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



4 62CC-92.2a
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



5 62CC-94.1
微細剥離痕のある剥片 黒曜石

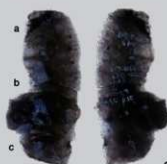
62-CC-A ブロック出土石器 (2)



6 (1・2)
黒曜石
接合資料05161



6-1a 63CC-02.11 剥片
6-1b 63CC-02.16 剥片



6-2a 63CC-02.18 剥片
6-2b 63CC-02.23 剥片
6-2c 63CC-02. 7 剥片



7 (1・2)
黒曜石
接合資料05162



7-1 63CC-02.4 剥片



7-2 63CC-02.15 剥片



8 62CC-03.1
黒石 安山岩

63-CC-A ブロック出土石器



64-CC-A ブロック出土石器



63-V-A ブロック出土石器 (1)



63-V-A ブロック出土石器 (2)



4 64V-19.2
石核 ガラス黒色安山岩



5 64V-19.3
ナイフ形石器 頁岩



6 64V-18.4
剥片 ガラス黒色安山岩



7 63V-99.4
剥片 頁岩



8 64V-19.5
剥片 流紋岩



9 64V-08.5
剥片 粘板岩



10 64V-07.2
剥片 チャート

64-W-A ブロック出土石器



1 64W-76.1
ナイフ形石器 黒曜石



3 64W-69.7
剥片 ホルンフェルス



2 64W-68.1
剥片 ガラス黒色安山岩

64-CC-B ブロック出土石器(1)



1 65CC-01.2
ナイフ形石器 黒曜石



2 65CC-04.5
ナイフ形石器 頁岩



3 64CC-91.1
台形縁石器 チャート



4 64CC-93.2
石槌 ホルンフェルス



5-1



5-2

5 (1・2)
チャート
接合資料05165



5-1 64CC-92.1 断片



5-2 65CC-01.1 断片

64-CC-B ブロック出土石器(2)



64-CC-C ブロック出土石器



65-CC-A ブロック出土石器 (1)



1 65CC-26.2
ナイフ形石器 両面



2 65CC-46.1
ナイフ形石器 両面



3 65CC-25.1
石核 チャート



4-1



4 (1・2)
ガラス質黒色安山岩
接合資料21012



4-2



4-1 65CC-37.3 石核



4-2 65CC-36.3 石核
(65CC-Bブロック)

65-CC-A ブロック出土石器(2)



5 65CC-83.1
剥片 頁岩

6 65CC-84.2
剥片 頁岩

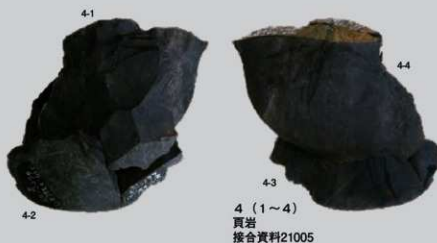
65-CC-B ブロック出土石器(1)



1 66CC-07.1
楔形石錐 頁岩

2 66CC-07.13
二次加工のある剥片 ホルンフェルス

3 66CC-87.5
石核 ガラス質黒色安山岩



4-1

4-2

4-3

4-4

4 (1~4)
頁岩
接合資料21005

65-CC-B ブロック出土石器(2)



4-1 66CC-07.4 石核



4-2 66CC-07.6 剥片



4-3 66CC-07.14 剥片



4-4 66CC-07.2 剥片



5 65CC-96.4
剥片 頁岩



6 66CC-07.9
剥片 トロトロ石



7 66CC-06.2
石核 トロトロ石



8 66CC-07.16
石核 ガラス質黒色安山岩



9 65CC-96.6
石核 ガラス質黒色安山岩

66-CC-A ブロック出土石器



1 66CC-00.1
ナイフ形石器 黒色頁岩



2 66CC-01.2
二次加工のある剥片 頁岩

3-1



3-2

3 (1・2)
黒色頁岩
接合資料21009



3-1 66CC-01.1 剥片



3-2 66CC-00.2 石核



4 66CC-01.4
剥片 黒曜石

66-CC-B ブロック出土石器



1 (1・2)

流紋岩

接合資料21004



1-1

1-1 66CC-26.5 二次加工のある剥片
1-2 66CC-26.4 二次加工のある剥片

1-2



2 66CC-25.1
二次加工のある剥片 頁岩



3 66CC-26.2
剥片 頁岩



4 66CC-18.2
剥片 ガラス質黒色燐山岩



5 66CC-26.3
剥片 頁岩

65-Y-A ブロック出土石器 (1)



1 65Y-86.22
ナイフ形石器 黒曜石



2 65Y-97.18
ナイフ形石器 黒曜石



3 65Y-86.2
ナイフ形石器 黒曜石



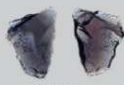
4 65Y-97.5
ナイフ形石器 黒曜石



5 65Y-77.1
ナイフ形石器 黒曜石



6 65Y-86.11
ナイフ形石器 黒曜石



7 65Y-97.35
ナイフ形石器 黒曜石



8 65Y-77.3
ナイフ形石器 黒曜石



9 65Y-86.9
ナイフ形石器 頁岩



10 65Y-86.12
片 黒曜石



11 65Y-86.6
微細割離痕のある剥片 黒曜石



12 (1・2)
頁岩
接合資料22005



12-2 65Y-97.7 剥片



12-1 65Y-86.13 二次加工のある剥片

65-Y-A ブロック出土石器(2)

13-1



13-2

13 (1・2)
黒曜石
接合資料22025

a

b



13-1a 65Y-97.11 剥片
13-1b 65Y-98.19 剥片



13-2 65Y-98.1 剥片

14B

14A



14C

14 (A~C)
黒曜石
接合資料22036

14A (1~4)
黒曜石
接合資料22036



14A-1a 65Y-97.25 剥片
14A-1b 65Y-97.42 剥片



14A-2 65Y-87.10 剥片

a

b

c



14A-3a 65Y-87. 8 剥片
14A-3b 65Y-97.43 剥片
14A-3c 65Y-98.27 剥片



14A-4 65Y-98.25 石核

65-Y-A ブロック出土石器 (3)

14B (1~10)

黒曜石

接合資料22036



14B-1 65Y-97.27 剥片



14B-2 65Y-98.22 剥片



14B-3 65Y-97.2 剥片



14B-4 65Y-77.2 剥片



14B-5 65Y-97.4 剥片



14B-6 65Y-97.39a 剥片



14B-7 65Y-97.12a 剥片



14B-8 65Y-97.36 剥片



14B-9 65Y-98.17 剥片



14B-10 65Y-97.38 石核

14C (1~15)

黒曜石

接合資料22036



14C-1a 65Y-98.28 剥片

14C-1b 65Y-87.7 剥片

14C-1c 65Y-97.26 剥片

65-Y-A ブロック出土石器 (4)



14C-2 65Y-97.24 剥片



14C-3 65Y-86.24 剥片



14C-4 65Y-97.31 剥片



14C-5 65Y-87, 1 剥片



14C-6 65Y-97.32 剥片



14C-7 65Y-98.21 剥片



14C-8 65Y-87.13 剥片



14C-9 65Y-97.28 剥片



14C-10a 65Y-86.23 剥片
14C-10b 65Y-97, 3 剥片



14C-11 65Y-97.45 石核

65-Y-A ブロック出土石器 (5)



14C-12 65Y-88,11 剥片



14C-13a 65Y-87,37 剥片
14C-13b 65Y-88,26 剥片



14C-14 65Y-88,23 剥片



14C-15 65Y-87,15 石核



15-2



15-1

15 (1・2)
黒曜石
接合資料22037



15-1 65Y-86, 4 剥片



15-2 65Y-87, 6 剥片



16 65Y-86,25
二次加工のある剥片 黒曜石



17 65Y-87,6
剥片 頁岩



18 65Y-86,21
剥片 黒曜石



19 65Y-76,1
剥片 黒曜石



20 65Y-86,7
剥片 黒曜石

65-Y-A ブロック出土石器(6)

21 65Y-07.14
剥片 黒曜石22 65Y-07.8
剥片 黒曜石23 65Y-07.1
石核 黒曜石24 65Y-06.24
石核 黒曜石

65-Y-B ブロック出土石器(1)

1 66Y-34.2
ナイフ形石器 黒曜石2 66Y-41.5
ナイフ形石器 黒曜石3 66Y-31.5
ナイフ形石器 黒曜石4 66Y-32.22
ナイフ形石器 黒曜石5 66Y-13.1a
ナイフ形石器 黒曜石6 66Y-23.4
ナイフ形石器 黒色頁岩7 66Y-32.1
二次加工のある剥片 黒曜石8 66Y-32.28
二次加工のある剥片 黒曜石9 66Y-41.9
二次加工のある剥片 頁岩

65-Y-B ブロック出土石器(2)



10 65Y-23.24
微細割離痕のある剥片 黒曜石



11 65Y-13.2
微細割離痕のある剥片 頁岩



12 65Y-32.32
剥片 黒曜石



13 65Y-31.1
剥片 黒曜石



14 65Y-15.1
剥片 頁岩



15 65Y-23.26
剥片 黒色頁岩



16 65Y-42.9
剥片 黒色頁岩

65-Y-B ブロック出土石器 (3)



17 66Y-33.6
剥片 黒色頁岩



18 66Y-23.8
剥片 ガラス質黒色安山岩



19 66Y-33.16
楔形石器 黒曜石



20 66Y-42.5
礫石 チャート



21 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料22015

21a 66Y-33.2 微細剥離痕のある剥片
21b 66Y-42.3 微細剥離痕のある剥片



22 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料22016

22-a 66Y-24.26 剥片
22-b 66Y-24.1 剥片

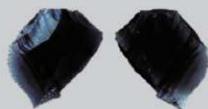
65-Y-B ブロック出土石器 (4)



66-Y-A ブロック出土石器(1)



66-Y-A ブロック出土石器 (2)



10-4 66Y-39,10 剥片



10-5 66Y-39,19 剥片



10-6 66Y-39,3 剥片



10-7 66Y-39,7 剥片



10-8 66Y-39,14 剥片



10-9 66Y-39,12 剥片



10-10 66Y-39,15a 剥片



10-11 66Y-39,18 石核



11-2

11-1

11 (1・2)
頁岩
接合資料22003



11-1 66Y-41,13 剥片
(65-Y-8ブロック)



11-2 66Y-19,1 剥片



12 66Y-37,4
剥片 黒曜石



13 66Y-47,22
剥片 頁岩



14 66Y-47,3
剥片 頁岩

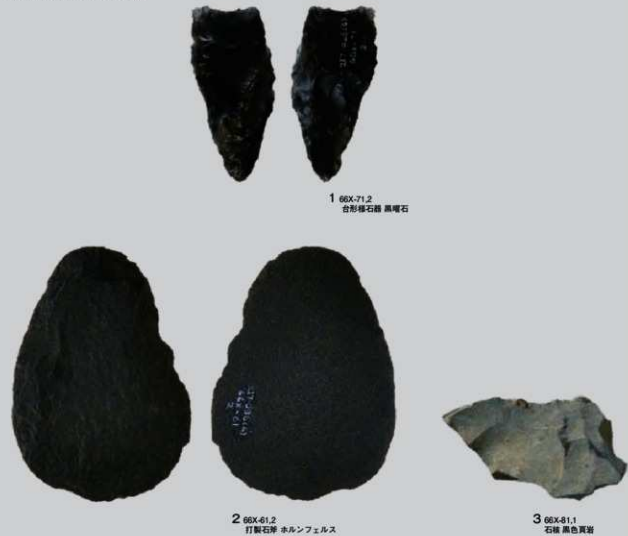


15 66Y-47,5
剥片 頁岩

66-Y-A ブロック出土石器 (3)



66-X-A ブロック出土石器



67-BB-A ブロック出土石器



67-BB-B ブロック出土石器



66-GG-A ブロック出土石器



67-Z-A ブロック出土石器



1 67Z-75.20
ナイフ形石器 ガラス質黒色安山岩



2 67Z-75.21
ナイフ形石器 黒曜石



3 67Z-75.6
微細割痕のある剥片 黒曜石



4 67Z-74.2
微細割痕のある剥片 黒曜石



5 67Z-75.1
剥片 チャート



6-2



6-1 67Z-75.10 剥片



6-2 67Z-75.25 剥片

6-1

6 (1・2)
チャート
接合資料47005



7 67Z-76.10
剥片 ホルンフェルス



8 67Z-85.1
剥片 ガラス質黒色安山岩



9 67Z-75.14
石核 黒曜石



10-3

10-2

10-1b

10-1a

10 (1~3)
チャート
接合資料47003
10-1a 67Z-76.4 剥片
10-1b 67Z-76.11 剥片
10-2 67Z-76.1 剥片
10-3 67Z-76.7 石核

67-Z-B ブロック出土石器



68-AA-A ブロック出土石器



68-AA-B ブロック出土石器 (1)



68-AA-B ブロック出土石器(2)



67-BB-C ブロック出土石器



1 67BB-91.1
礫石 ネルンフェルス



2 (a・b)
黒曜石
接合資料41014 2 a 67BB-82.2 剥片
2 b 67BB-82.3 剥片



3 67BB-81.5
剥片 ガラス質黒色安山岩



4 67BB-81.4
剥片 ガラス質黒色安山岩



5 67BB-81.2
剥片 ガラス質黒色安山岩

68-BB-A ブロック出土土器



1 68BB-02.16
石核 黒色頁岩



2 (a・b)
黒色頁岩
接合資料41004

2a 68BB-02.14 二次加工のある割片
2b 68BB-02.25 二次加工のある割片



3 68BB-02.8
石核 黒色頁岩



4 68BB-12.23
石核 黒色頁岩



5 68BB-02.26
石核 黒色頁岩



6 68BB-12.25
石核 ガラス質黒色安山岩



7 (1~5)
ガラス質黒色安山岩
接合資料41009
7-1 68BB-02.3 割片
7-2 68BB-12.54 割片
7-3 68BB-12.11 割片
7-4 68BB-12.16 割片
7-5 68BB-12.13 石核

68-BB-B ブロック出土石器



68-BB-C ブロック出土石器



1 68BB-15,14
二次加工のある剥片 黒色頁岩



2 68BB-15,24
二次加工のある剥片 トロトロ石



3 68BB-15,21
二次加工のある剥片 黒色頁岩



4 68BB-15,10
石核 頁岩



5 68BB-15,10
剥片 黒色頁岩



6 68BB-15,4
二次加工のある剥片 ガラス質黒色安山岩

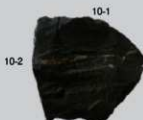
7 68BB-15,34
二次加工のある剥片 ガラス質黒色安山岩



8 68BB-15,12
石核 ガラス質黒色安山岩



9 68BB-15,9
石核 黒色頁岩



10-2

10-3

10 (1~3)
ホルンフェルス
接合資料41011

10-1 68BB-15, 8 剥片

10-2 68BB-25, 1 剥片

10-3 68BB-15,11 石核

64-X-A ブロック出土石器



1 64X-75.1
ナイフ形石器 黒曜石



2 64X-98.3
石核 凝灰岩



3 64X-00.1
石核 頁岩

64-X-B ブロック出土石器



1 64X-95.2
剥片 ガラス質黒色安山岩

65-X-A ブロック出土石器



1 65X-09.2
剥片 黒曜石

66-Y-B ブロック出土石器 (1)



1 66Y-36.137
ナイフ形石器 黒曜石



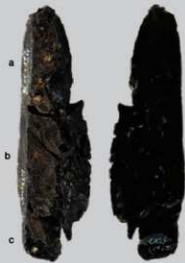
2 66Y-36.95
二次加工のある剥片 黒曜石



3 (1・2)
黒曜石
接合資料22007



3-2 66Y-36.130 剥片



3-1a 66Y-36. 93 剥片
3-1b 66Y-36.106 剥片
3-1c 66Y-36. 55 剥片

66-Y-B ブロック出土石器(2)



4 (a・b)
黒曜石
接合資料22013

4a 66Y-36, 91 二次加工のある割片
4b 66Y-36, 124 二次加工のある割片



5 (1~3)
黒曜石
接合資料22017



5-1 66Y-36, 25 割片



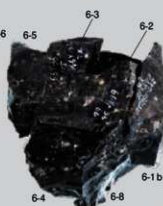
5-2 66Y-36, 13 割片



5-4 66Y-36, 23 割片
断面合同一母体資料



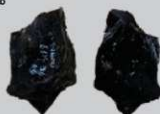
5-3 66Y-36, 88 石核



6 (1~9)
黒曜石
接合資料22008



6-1a 66Y-36, 67 割片
6-1b 66Y-36, 29 割片



6-2 66Y-36, 66 割片



6-3 66Y-36, 72 割片



6-4 66Y-36, 105 割片



6-5 66Y-36, 92 割片



6-6 66Y-36, 36 二次加工のある割片



6-7a 66Y-36, 11 割片
6-7b 66Y-36, 18 割片

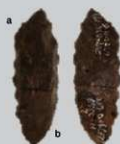
66-Y-B ブロック出土石器(3)



67-DD-A ブロック出土石器



66-CC-C ブロック出土石器



1 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料37002

1a 67CC-11.6 角礫状石器
1b 67CC-11.7 角礫状石器



2 (1・2)
黒色頁岩
接合資料37001



2-1 67CC-12.2 剥片



2-2 67CC-12.8 剥片



3 67CC-12.6
微細剥離痕のある剥片 頁岩



4 67CC-02.3
剥片 チャート



5 66CC-93.1
剥片 ガラス質黒色安山岩



6 66CC-92.2
剥片 ガラス質黒色安山岩



7 66CC-92.3
剥片 ガラス質黒色安山岩

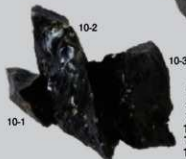


8 67CC-11.3
剥片 ホルンフェルス



9-1

9 (1・2)
黒曜石
接合資料37005
9-1 67CC-02.9 剥片
9-2 67CC-02.4 剥片



10 (1~3)
黒曜石
接合資料37004
10-1 67CC-93.1 剥片
10-2 66CC-92.1 石核
10-3 67CC-02.7 石核



11 (1~3)
頁岩
接合資料37003
11-1 67CC-12.3 剥片
11-2 67CC-12.1 剥片
11-3 67CC-12.4 石核

68-Z-A ブロック出土石器



63-Z-B ブロック出土石器 (1)



63-Z-Bブロック出土石器(2)



8 63Z-57.265
掻器 黒色頁岩



9 63Z-57.571
掻器 頁岩



10 63Z-57.631
掻器 水晶



11 63Z-48.152
二次加工のある割片 ホルンフェルス



12 63Z-46.338
二次加工のある割片 頁岩



13 63Z-56.102
二次加工のある割片 頁岩



14 63Z-48.82
二次加工のある割片 頁岩



15 63Z-38.5
二次加工のある割片 頁岩



16 63Z-49.7
二次加工のある割片 チャート



17 63Z-65.22
変形石器 水晶



18 63Z-48.114
削片 流紋岩



19 63Z-57.438
削片 頁岩



20 63Z-57.354
削片 頁岩



21 63Z-57.466
削片 頁岩



22 63Z-46.732
削片 頁岩



23 63Z-57.569
削片 頁岩



24 63Z-46.326
削片 頁岩

63-Z-Bブロック出土石器(3)



25 63Z-56,148
削片 頁岩



26 63Z-28,65
削片 頁岩



27 63Z-56,157
削片 頁岩



28 63Z-38,703
削片 頁岩



29 63Z-57,484
削片 黒色頁岩



30 63Z-67,331
削片 頁岩



31-1 63Z-28,64 削片



31-1



31-2

31-3



31-2 63Z-48,373 削片



31-3 63Z-48,172 石核



b



32 (a・b)
頁岩
接合資料05214

32a 63Z-67,399 掻器
32b 63Z-46, 36 掻器



33-2



33-3

33-1

33 (1~3)
頁岩
接合資料05009



33-1 63Z-65,13 削片



33-2 63Z-57,473 削片



33-3 63Z-67,400 削片

63-Z-Bブロック出土石器(4)



34 (1~12)
ホルンフェルス
接合資料05004



34-1 63Z-29.3 剥片



34-4 63Z-67.382 剥片



34-5 63Z-57.421b 剥片



34-2 63Z-67.619 剥片



34-3 63Z-48.57 剥片



34-6 63Z-57.302 剥片

63-Z-Bブロック出土石器(5)



34-7a 63Z-57.349 割片
34-7b 63Z-57.572a 割片

34-8a 63Z-57.397 割片
34-8b 63Z-57.447 割片



34-9 63Z-57.32 割片



34-10 63Z-57.178 割片



34-11 63Z-57.327 割片



34-12 63Z-57.493 石核

63-Z-Bブロック出土石器(6)



63-Z-Bブロック出土石器(7)



63-Z-Bブロック出土石器(8)

38-2



38-1



38 (1・2)
凝灰岩
接合資料05208



38-1 63Z-38.197 割片



38-2 63Z-38.275 割片

39-1



39-2



39-3

39 (1~3)
砂岩
接合資料05210



39-1 63Z-47.59 割片



39-2 63Z-48.309 割片



39-3 63Z-77.A 割片

63-Z-Bブロック出土石器(9)



40 63Z-46.437
二次加工のある剥片 頁岩



41 63Z-36.655
二次加工のある剥片 ホルンフェルス



42 63Z-38.132
二次加工のある剥片 ホルンフェルス



43 63Z-48.510
剥片 頁岩



44 63Z-76.1
剥片 頁岩



45 63Z-47.303
剥片 頁岩



46 63Z-47.106
剥片 頁岩



47 63Z-56.283
剥片 頁岩



48 63Z-38.118
剥片 頁岩



49 63Z-46.32
石核 頁岩



50 63Z-57.564
石核 頁岩



51 63Z-66.17
石核 トロトロ石



52 63Z-38.289
石核 ホルンフェルス



53-2a

53-1

53-2f

53-2d

53-2e

53 (1~5)
ホルンフェルス
接合資料05001

* 53-2b・2cは内側

- 53-1 63Z-46.444 剥片
- 53-2a 63Z-56.331 剥片
- 53-2b 63Z-58, 4 剥片
- 53-2c 63Z-58, 2 剥片
- 53-2d 63Z-58, 3 剥片
- 53-2e 63Z-48, 73 剥片
- 53-2f 63Z-59, 5 剥片



54-2

54-3

54 (1~3)
黒色頁岩
接合資料05011

* 54-1は裏面側

- 54-1 63Z-46.106 剥片
- 54-2 63Z-46.327 剥片
- 54-3 63Z-46.205 石核



55-1

55-2

55 (1・2)
トロトロ石
接合資料05090

- 55-1 63Z-47.155 剥片
- 55-2 63Z-67.193 剥片

67-Z-C ブロック出土石器



67-BB-D ブロック出土石器



67-HH-A ブロック出土石器 (1)



67-HH-A ブロック出土石器(2)



4-1



4 (1・2)
チャート
接合資料62001



4-1 67HH-81, 5 剥片



4-2 67HH-82, 5 石核



5 67HH-70.1
石核 黒色頁岩



6 67HH-71.1
剥片 チャート



7 67HH-81.2
剥片 頁岩



8 67HH-70.4
剥片 頁岩



9 67HH-70.5
剥片 ホルンフェルス



10 67HH-82.3
剥片 ホルンフェルス

67-HH-B ブロック出土石器



1 67HH-27.1
ナイフ形石器 頁岩



2 67HH-29.3
剥片 頁岩

63-Y-A ブロック出土石器



1 63Y-73.1
剥片 黒曜石

64-V-B ブロック出土石器 (1)



1 64W-91.1
石核 チャート



2 64V-89.1
石核 玉髄



3 64W-91.5
磨石 チャート

64-V-B ブロック出土石器 (2)



4 64V-89.2
剥片 頁岩



5 64V-89.4
剥片 玉髓



6 64V-91.7
剥片 頁岩



7 64V-89.5
剥片 頁岩

64-V-A ブロック出土石器



1 64V-17.5
剥片 頁岩



2 64V-17.3
剥片 ホルンフェルス



3 64V-17.6
剥片 ガラス質黒色安山岩

単独ブロック出土石器



1 6388-26.1
台形棒石器 黒曜石



2 678-11.1
二次加工のある剥片 頁岩

報告書抄録

ふ	り	が	な	かしわはくくぶちゅううちくまいどうぶんかざいちようさほうこくしょ 10								
書			名	柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書10								
副	書		名	柏市翁原遺跡(西側旧石器時代)								
席			次	10								
シ	リ	ー	ズ	名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シ	リ	ー	ズ	番号	第53集							
編	著	者	名	田島 新								
編	集	機	関	千葉県教育委員会								
所	在	地	〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1				TEL043-223-4129					
発	行	年	月	日	西暦2024年3月19日							
所収遺跡名	所	在	地	コ		ー	ド	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号								
翁原遺跡 <small>おきなわはら い せき</small>	柏市十 余二 字 <small>かしわし と じゅうふたあざ</small>	348-50 <small>おきなわはら い せき</small>	12217	036	35度 53分 17秒	139度 57分 12秒	20030217～ 20221118	世界測地系	20030217～ 20221118	223,524.8㎡	土地区画整理	
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構			主 な 遺 物			特 記 事 項			
翁原遺跡 (西側旧石器時代)	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点 44か所 第1文化層 1か所 第2文化層 19か所 第3文化層 8か所 第4文化層 1か所 第5文化層 7か所 第6文化層 2か所 時期不明 6か所			尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器、台形椀石器、影器、搔器、楔型石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、削片、細石刃、細石刃核、剥片、砕片、石核、石斧、敲石、台石、礫			AT降灰前の石刃生産を示す石器群、AT降灰後の尖頭器等の石器群が出土した。			
要 約	本遺跡は、地金堀及び大堀川とその支流により解析された標高17m～22mの台地上にある。Ⅹ層～Ⅲ層で遺物集中地点が44か所検出され、旧石器時代の6枚の文化層などを確認した。第2文化層(Ⅸ層)から、信州産黒曜石を用いた石刃生産を示す良好な接合資料や第5文化層(Ⅲ層上部)から、4,000点を越す大規模な礫群を伴う有権尖頭器などの石器群が出土した。											

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第53集

柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書10

— 柏市翁原遺跡（西側旧石器時代） —

令和6年3月19日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉県中央区市場町1-1

印刷

株式会社 弘文社

市川市市川南2-7-2
